

平成 27 年

兵庫県感染症発生動向調査事業

年 報

兵庫県立健康生活科学研究所

健康科学研究センター

(兵庫県感染症情報センター)

はじめに

中東地域に居住している人や渡航歴のある人に継続的に感染が報告されていた中東呼吸器症候群（MERS）が、平成 27 年には韓国で、中東地域からの帰国者を発端に 2 次・3 次の感染を起こし、流行が拡大しました。兵庫県内でも検査体制を整え、患者の発生を想定した対応を整備して、警戒を強めておりますが、幸い国内で患者は発生しておりません。

われわれ地方衛生研究所では、患者サーベイランスに加えて、病原体サーベイランスを実施しております。感染症の流行を防ぐためには、詳細な病原体情報の収集・解析が必要となります。平成 28 年 4 月 1 日から、感染症の病原体等の検体を採取する体制を強化し、かつ、検査の信頼性を確保する制度が導入されました。

兵庫県における感染症の患者発生に関する調査は、昭和 52 年から県独自の監視体制を発足させて以来、約 39 年にわたる歴史があります。この調査は、兵庫県医師会、郡市医師会、定点医療機関をはじめとする関係機関各位のひとかたならぬご理解とご尽力で成り立っております。

今後もの確な感染症対策のための適切な情報提供を迅速に行えるよう、より一層努力してまいりますので、関係各機関の皆様方には引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

ここに平成 27 年の事業年報をとりまとめました。本書が感染症対策の資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

平成 29 年 1 月

兵庫県立健康生活科学研究所
健康科学研究センター
所長 前田 盛

平成 27 年報告週対応表

報告週	期 間	報告週	期 間
1	平成 26 年 12 月 29 日～1 月 4 日	28	7 月 6 日 ～ 7 月 12 日
2	1 月 5 日 ～ 1 月 11 日	29	7 月 13 日 ～ 7 月 19 日
3	1 月 12 日 ～ 1 月 18 日	30	7 月 20 日 ～ 7 月 26 日
4	1 月 19 日 ～ 1 月 25 日	31	7 月 27 日 ～ 8 月 2 日
5	1 月 26 日 ～ 2 月 1 日	32	8 月 3 日 ～ 8 月 9 日
6	2 月 2 日 ～ 2 月 8 日	33	8 月 10 日 ～ 8 月 16 日
7	2 月 9 日 ～ 2 月 15 日	34	8 月 17 日 ～ 8 月 23 日
8	2 月 16 日 ～ 2 月 22 日	35	8 月 24 日 ～ 8 月 30 日
9	2 月 23 日 ～ 3 月 1 日	36	8 月 31 日 ～ 9 月 6 日
10	3 月 2 日 ～ 3 月 8 日	37	9 月 7 日 ～ 9 月 13 日
11	3 月 9 日 ～ 3 月 15 日	38	9 月 14 日 ～ 9 月 20 日
12	3 月 16 日 ～ 3 月 22 日	39	9 月 21 日 ～ 9 月 27 日
13	3 月 23 日 ～ 3 月 29 日	40	9 月 28 日 ～ 10 月 4 日
14	3 月 30 日 ～ 4 月 5 日	41	10 月 5 日 ～ 10 月 11 日
15	4 月 6 日 ～ 4 月 12 日	42	10 月 12 日 ～ 10 月 18 日
16	4 月 13 日 ～ 4 月 19 日	43	10 月 19 日 ～ 10 月 25 日
17	4 月 20 日 ～ 4 月 26 日	44	10 月 26 日 ～ 11 月 1 日
18	4 月 27 日 ～ 5 月 3 日	45	11 月 2 日 ～ 11 月 8 日
19	5 月 4 日 ～ 5 月 10 日	46	11 月 9 日 ～ 11 月 15 日
20	5 月 11 日 ～ 5 月 17 日	47	11 月 16 日 ～ 11 月 22 日
21	5 月 18 日 ～ 5 月 24 日	48	11 月 23 日 ～ 11 月 29 日
22	5 月 25 日 ～ 5 月 31 日	49	11 月 30 日 ～ 12 月 6 日
23	6 月 1 日 ～ 6 月 7 日	50	12 月 7 日 ～ 12 月 13 日
24	6 月 8 日 ～ 6 月 14 日	51	12 月 14 日 ～ 12 月 20 日
25	6 月 15 日 ～ 6 月 21 日	52	12 月 21 日 ～ 12 月 27 日
26	6 月 22 日 ～ 6 月 28 日	53	12 月 28 日～平成 28 年 1 月 3 日
27	6 月 29 日 ～ 7 月 5 日		

目 次

1. 事業の概要

- 1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム 1
- 1. 2 地域の区分と地域別定点数 4

2. 患者発生状況

- 2. 1 概要 6
- 2. 2 腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病の動向
..... 8
 - (1) 腸管出血性大腸菌感染症 9
 - (2) 侵襲性肺炎球菌感染症 10
 - (3) 梅毒 11
 - (4) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く） .. 13
 - (5) RS ウイルス感染症 14
 - (6) 咽頭結膜熱 15
 - (7) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 16
 - (8) 感染性胃腸炎 17
 - (9) 水痘 18
 - (10) 手足口病 19
 - (11) 伝染性紅斑 20
 - (12) 突発性発しん 21
 - (13) 百日咳 22
 - (14) ヘルパンギーナ 23
 - (15) 流行性耳下腺炎 24
 - (16) 急性出血性結膜炎 25
 - (17) 流行性角結膜炎 26
 - (18) 細菌性髄膜炎
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く) .. 27
 - (19) 無菌性髄膜炎 28
 - (20) マイコプラズマ肺炎 29
 - (21) クラミジア肺炎（オウム病を除く） 30
 - (22) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る） 31
 - (23) 性器クラミジア感染症 32
 - (24) 性器ヘルペスウイルス感染症 34
 - (25) 尖圭コンジローマ 36
 - (26) 淋菌感染症 38
 - (27) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 40

(28) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4 1
(29) 薬剤耐性緑膿菌感染症	4 2

3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例	4 3
(2) 細菌による食中毒（疑）事例	4 4
(3) その他の細菌検査	4 4
(4) クドア（ヒラメ寄生虫）の検査	4 4
(5) 結核 QFT 検査	4 4
(6) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査	4 4
(7) インフルエンザ流行予測調査検査成績	4 7
(8) 日本脳炎流行予測調査結果	4 7
(9) 蚊媒介性感染症の検査	4 7
(10) リケッチア等の検査	4 7
(11) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果	4 8
(12) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数	4 9

4. 資料

(1) 全数把握対象疾病の患者数	5 2
(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数	5 6
(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数	5 9
(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数	6 2
(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数	6 4

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

1. 事業の概要

1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム

図1に患者情報に関する兵庫県感染症発生動向調査システムを示す。コンピュータ・オンライン・システムは、結核およびその他の感染症の患者情報を迅速に収集、解析、還元することにより、適切な予防措置を講じ、流行を未然に防止することを目的として、昭和62年に結核・感染症サーベイランスシステムとして導入された。平成4年以降は厚生行政総合情報システム（WISH）上での運用となり、平成10年に対象疾病の若干の増加と一部疾病名の変更および患者の年齢階級区分の変更が行われた。同時にシステムの名称も兵庫県結核・感染症発生動向調査システムと改められた。

平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」が施行された。これに伴い、当研究センター内に基幹地方感染症情報センターが設置され、政令市を含む兵庫県全域の感染症情報の集計・解析・情報還元の中核を担うこととなった。

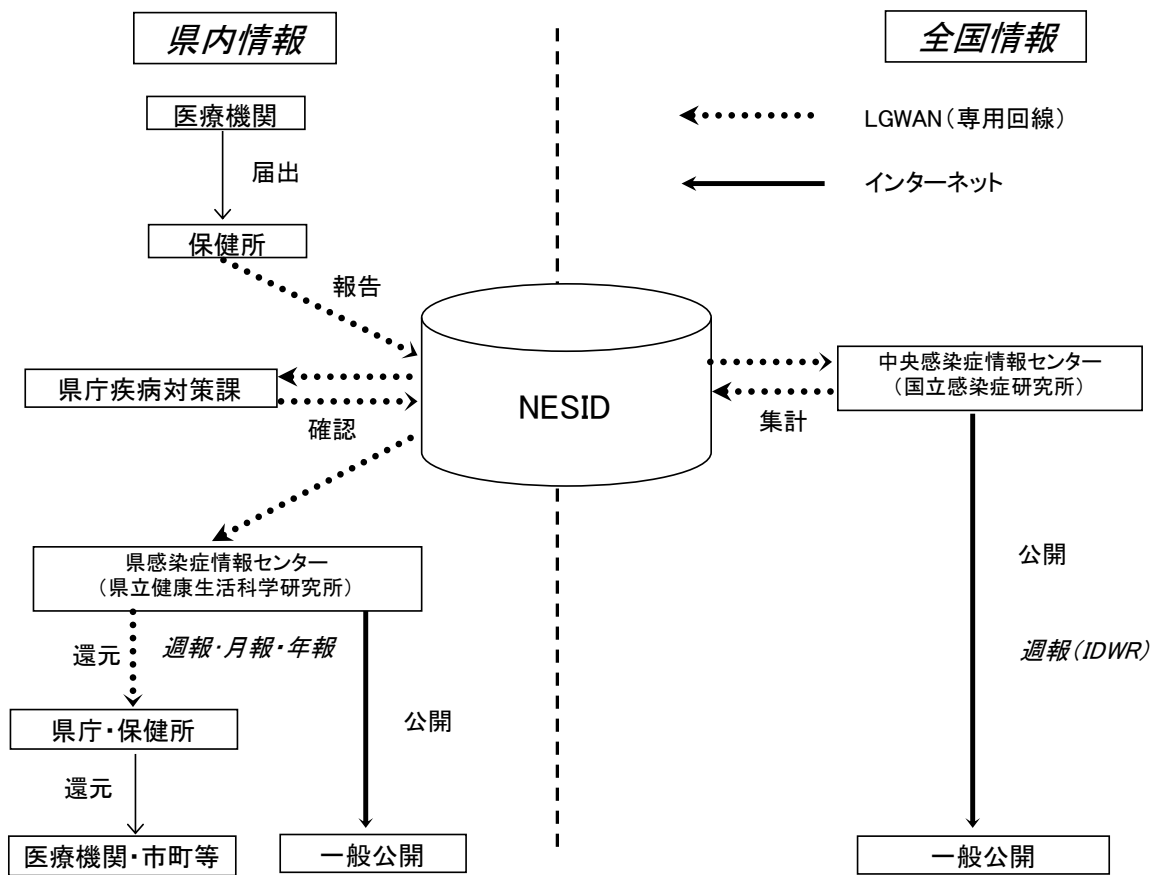
なお、この時点では結核予防法は感染症法に一元化されず、結核は感染症発生動向調査の対象疾病とはならなかった。平成15年11月5日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律」の施行に伴い感染症発生動向調査も一部変更された。

平成18年4月からは感染症発生動向調査システムが全面的に新しくなった。従来、収集された情報は全国の保健所、都道府県及び政令市、国の各レベルで集積され、そのためのデータベースプログラムが各組織に配布されていたが、新システム（NESID）では、これらの情報はブラウザで取り扱われて、国レベルで一元管理されることになった。ネットワークは従来どおりWISHを用い、インターネットからは隔離されたクローズドなイントラネットとなっている。回線は国と全国の地方自治体を相互接続した広域ネットワークであるLGWAN（総合行政ネットワーク）を用いている。新システムにより、情報伝達の迅速化、セキュリティ向上、対象疾病等に変更があった場合の迅速対応（全国にプログラムを配布し、インストールする必要がないため）が図られた。

平成19年4月の感染症法の改正では、発生動向調査対象疾病の類型分けの変更や結核予防法の統合等がなされた。感染症法の改正がその後も行われた結果、平成27年12月31日現在の対象疾病は疑似症を含めて113疾病（表1、表2）となっている。

当感染症情報センターでは、表1、表2に示す感染症発生動向調査システムの対象疾病である1類～5類感染症、新型インフルエンザ等感染症の合計111疾病（疑似症を除く）のうち、全数把握対象疾病（86疾病）については県内すべての医療機関からの患者発生届出を、定点把握対象疾病（25疾病）については県内に指定された医療機関（全294定点）からの報告を、保健所を通じて集計・解析し、感染症の動向に関するコメント・グラフを付し週報、月報及び年報として保健所、市町、医師会、医療機関等に還元するとともに、ホームページを通じて広く県民に公開している。

図1 兵庫県感染症発生動向調査システム



NESID : National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases 厚生労働省感染症サーベイランスシステム

表1 全数把握の対象疾病（86疾病）

（平成27年12月31日現在）

	対象疾病
1類感染症(7疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
2類感染症(7疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群 ^A 、(12)中東呼吸器症候群 ^{B,1} 、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9) ¹
3類感染症(5疾病)	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
4類感染症(43疾病)	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱 ^C 、(22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)重症熱性血小板減少症候群 ^D 、(34)腎症候性出血熱、(35)西部ウマ脳炎、(36)ダニ媒介脳炎、(37)炭疽、(38)チクングニア熱、(39)つつが虫病、(40)デング熱、(41)東部ウマ脳炎、(42)鳥インフルエンザ ^E 、(43)ニパウイルス感染症、(44)日本紅斑熱、(45)日本脳炎、(46)ハンタウイルス肺症候群、(47)Bウイルス病、(48)鼻疽、(49)ブルセラ症、(50)ベネズエラウマ脳炎、(51)ヘンドラウイルス感染症、(52)発しんチフス、(53)ポツリヌス症、(54)マラリア、(55)野兔病、(56)ライム病、(57)リッサウイルス感染症、(58)リフトバレー熱、(59)類鼻疽、(60)レジオネラ症、(61)レプトスピラ症、(62)ロッキー山紅斑熱
5類感染症(22疾病)	(63)アメーバ赤痢、(64)ウイルス性肝炎 ^F 、(65)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(66)急性脳炎 ^G 、(67)クリプトスポリジウム症、(68)クロイツフェルト・ヤコブ病、(69)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(70)後天性免疫不全症候群、(71)ジアルジア症、(72)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(73)侵襲性髄膜炎菌感染症、(74)侵襲性肺炎球菌感染症、(75)水痘(入院例に限る)、(76)先天性風しん症候群、(77)梅毒、(78)播種性クリプトコックス症、(79)破傷風、(80)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(81)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(82)風しん、(83)麻しん、(84)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症(2疾病)	(110)新型インフルエンザ、(111)再興型インフルエンザ

^A 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^B 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。^C ウエストナイル脳炎を含む。^D 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^E H5N1及びH7N9を除く。^F E型肝炎及びA型肝炎を除く。^G ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。¹ 平成27年1月21日に、指定感染症から2類感染症に追加。

表2 定点把握対象疾病（5類感染症、疑似症）

（平成27年12月31日現在）

患者定点	対象疾病
小児科定点(週報) 129定点、11疾病	(85)RSウイルス感染症、(86)咽頭結膜熱、(87)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(88)感染性胃腸炎、(89)水痘、(90)手足口病、(91)伝染性紅斑、(92)突発性発しん、(93)百日咳、(94)ヘルパンギーナ、(95)流行性耳下腺炎
インフルエンザ定点(週報) 199定点、1疾病	(96)インフルエンザ ^H
眼科定点(週報) 35定点、2疾病	(97)急性出血性結膜炎、(98)流行性角結膜炎
STD定点(月報) 46定点、4疾病	(99)性器クラミジア感染症、(100)性器ヘルペスウイルス感染症、(101)尖圭コンジローマ、(102)淋菌感染症
基幹定点(週報) 14定点、6疾病	(96)インフルエンザ ^H ※ただし、入院患者に限定する。 (88)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(103)クラミジア肺炎(オウム病を除く)、(104)細菌性髄膜炎 ¹ 、(105)マイコプラズマ肺炎、(106)無菌性髄膜炎
基幹定点(月報) 14定点、3疾病	(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症 ² 295定点	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (112)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、(113)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該感染症が2類感染症、3類感染症、4類感染症又は5類感染症の患者の症状であることが明らかなる場合を除く。)

^H 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。¹ インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。² 汎用サーベイランスシステムで実施。

1. 2 地域の区分と地域別定点数

図2に、二次医療圏を単位とする地域の区分を示す。表3に、5類感染症の地域別定点数と人口の関係を示す。

平成27年の定点数は、インフルエンザ199定点、小児科129定点、眼科35定点、STD46定点、基幹14定点である。

図2 地域の区分

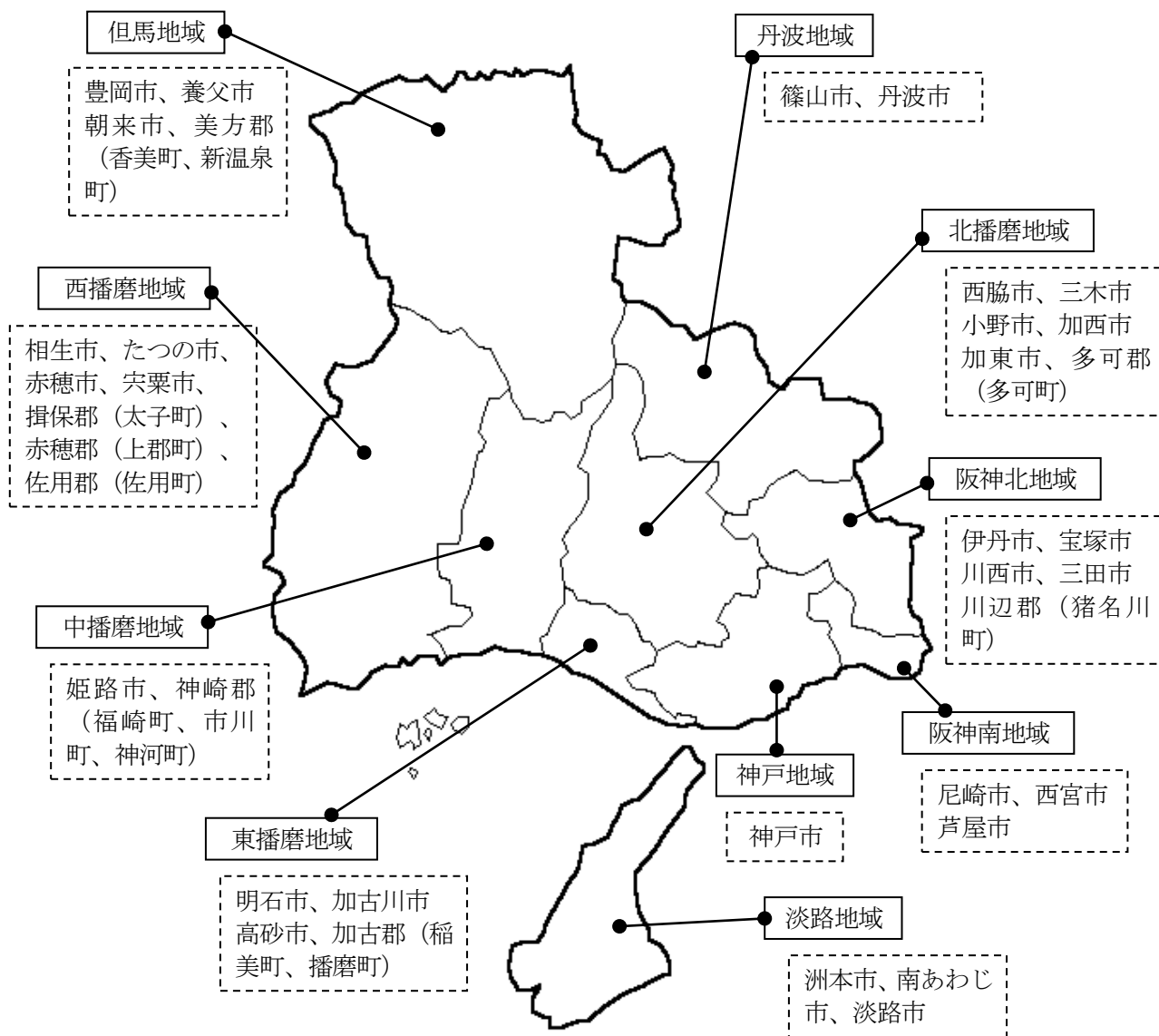


表3 地域別定点数と人口の関係

区 分	人 口 (万人)	人口比 (%)	インフルエンザ [※] 定点		小児科定点		眼科定点		STD定点		基幹定点	
			定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)
神戸地域	153.6	27.8	48	3.2	31	5.0	10	15.4	12	12.8	3	51.2
阪神南地域	102.9	18.6	32	3.2	21	4.9	7	14.7	8	12.9	2	51.4
阪神北地域	72.6	13.1	21	3.5	14	5.2	4	18.1	5	14.5	0	—
東播磨地域	71.4	12.9	25	2.9	16	4.5	5	14.3	6	11.9	1	71.4
北播磨地域	27.4	5.0	13	2.1	8	3.4	2	13.7	3	9.1	1	27.4
中播磨地域	57.7	10.4	21	2.7	14	4.1	4	14.4	5	11.5	1	57.7
西播磨地域	26.1	4.7	14	1.9	9	2.9	1	26.1	2	13.1	2	13.1
但馬地域	16.9	3.1	11	1.5	7	2.4	1	16.9	2	8.5	2	8.5
丹波地域	10.6	1.9	6	1.8	4	2.7	0	—	1	10.6	1	10.6
淡路地域	13.5	2.4	8	1.7	5	2.7	1	13.5	2	6.8	1	13.5
合 計	552.7	100.0	199	2.8	129	4.3	35	15.8	46	12.0	14	39.5

(人口:平成27年7月1日推計人口)

2. 患者発生状況

2. 1 概要

2. 1. 1 全数把握対象疾病

表4に全数把握対象疾病の年間患者数を示す。平成27年は、1類感染症は報告がなく、2類感染症は結核1,215人であった。患者数の多い疾病は、3類感染症では腸管出血性大腸菌感染症103人、4類感染症ではレジオネラ症63人、5類感染症ではアメーバ赤痢44人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症75人、侵襲性肺炎球菌感染症108人、梅毒89人であった。

表4 全数把握対象疾病の年間患者数（届出のあった疾病）

（平成28年10月24日現在の当情報センターにおける把握）

	疾 病 名	患者数 (H25)	患者数 (H26)	患者数 (H27)
二類	結核	1,451	1,312	1,215
三類	コレラ	1	0	1
	細菌性赤痢	1	4	3
	腸管出血性大腸菌感染症	161	114	103
	腸チフス	3	1	2
	パラチフス	1	0	3
四類	E型肝炎	0	3	6
	A型肝炎	5	25	11
	エキノкокクス症	1	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*A,*1}	2	0	0
	チクングニア熱	1	0	1
	つつが虫病	2	3	5
	デング熱	9	7	9
	日本紅斑熱	5	11	9
	日本脳炎	1	1	0
	マラリア	0	2	0
	野兔病	0	1	0
	ライム病	2	0	0
	レジオネラ症	42	50	63
レプトスピラ症	0	0	1	
五類	アメーバ赤痢	43	44	44
	ウイルス性肝炎 ^{*B}	12	11	21
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*3}	—	12	75
	急性脳炎 ^{*C}	2	16	18
	クロイツフェルト・ヤコブ病	12	5	7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	15	12	17
	後天性免疫不全症候群	52	35	28
	ジアルジア症	6	3	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*2}	8	13	11
	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*2}	0	2	1
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*2}	52	98	108
	水痘(入院例) ^{*3}	—	7	13
	先天性風しん症候群	0	1	0
	梅毒	36	42	89
	播種性クリプトコックス症 ^{*3}	—	1	2
	破傷風	3	1	3
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	3	0
	風しん	1,174	7	5
	麻しん	7	19	4

^{*A}病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。^{*B}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*C}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

^{*1}平成25年3月4日より追加。^{*2}平成25年4月1日より追加。^{*3}平成26年9月19日より追加。

平成 26 年と比較すると、平成 27 年は梅毒、ウイルス性肝炎等の患者数が増加し、麻しん、A 型肝炎等の患者数が減少した。特に、梅毒は若い女性を含めて患者数は 2 倍以上に増加し、感染原因の 78%は性的接触と報告されている。全国的にも、患者数の急増が見られ、厚生労働省や性感染症学会が梅毒の流行に関する注意喚起を促している。また、兵庫県内で患者数の増加が見られたウイルス性肝炎でも、感染原因の約半数は性的接触であった。

デング熱は、平成 26 年に約 70 年ぶりに国内で感染した患者が報告されたが、平成 27 年は厚生労働省が策定した「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」に基づき、発生の予防に取り組んだ結果、渡航先での感染例が散発的に報告されたものの、国内での感染はなかった。

平成 25 年に大流行した風しん、平成 27 年 3 月 27 日に世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定された麻しんに対しては、兵庫県麻しん風しん対策会議が設置されて予防対策に努めており、患者数は少ない状態で推移している。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症と水痘（入院例）は、平成 26 年 9 月 19 日より全数把握対象疾病に追加され、平成 27 年から年間を通じての患者数を集計できるようになった。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は 75 名から報告され、その 85%は 60 歳以上であった。菌種別では、*Enterobacter cloacae*、*Escherichia coli*、*Klebsiella pneumonia* の順に多く、3 種で全体の 73%を占めた。

2. 1. 2 定点把握対象疾病

表 5 に週報疾病別年間患者数を、表 6 に月報疾病別年間患者数を示す。

週報対象疾病のうち、インフルエンザ定点及び小児科定点対象疾病で平成 27 年の患者数が多い疾病は、感染性胃腸炎 49,328 人、インフルエンザ 43,699 人、手足口病 18,344 人、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 13,444 人、RS ウイルス感染症 5,112 人、の順であった。平成 26 年と比較すると、手足口病 [1,623 人→18,344 人]、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 [8,320 人→13,444 人]、伝染性紅斑 [665 人→2,867 人]、及び流行性耳下腺炎 [1,179 人→2,624 人] は患者数が増加し、インフルエンザ [63,157 人→43,699 人]、水痘 [6,713 人→3,258 人]、及びヘルパンギーナ [5,899 人→2,883 人] は患者数が減少した。基幹定点対象疾病では、マイコプラズマ肺炎の患者数が [86 人→191 人] と増加した。

月報対象疾病のうち性感染症では、平成 26 年と比べて平成 27 年に顕著な変動はみられなかった。薬剤耐性菌感染症では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の患者数が [525 人→408 人] と減少した。

なお、汎用サーベイランスシステムで実施している疑似症については、平成 27 年は報告がなかった。

表5 疾病別年間患者数（週報）

疾 病 名	患者数	定点あたり (H25)	患者数	定点あたり (H26)	患者数	定点あたり (H27)
インフルエンザ ^{*A}	43,302	217.60	63,157	319.58	43,699	219.72
RSウイルス感染症	4,145	32.13	4,078	31.86	5,112	39.64
咽頭結膜熱	2,677	20.75	2,975	23.16	3,402	26.42
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5,672	43.97	8,320	64.88	13,444	104.38
感染性胃腸炎	51,604	400.03	49,331	384.75	49,328	382.97
水痘	7,353	57.00	6,713	52.37	3,258	25.29
手足口病	9,839	76.27	1,623	12.63	18,344	142.42
伝染性紅斑	313	2.43	665	5.18	2,867	22.26
突発性発しん	3,324	25.77	3,350	26.11	3,040	23.60
百日咳	86	0.67	72	0.56	132	1.02
ヘルパンギーナ	4,693	36.38	5,899	45.75	2,883	22.36
流行性耳下腺炎	919	7.12	1,179	9.19	2,624	20.36
急性出血性結膜炎	20	0.57	11	0.31	19	0.54
流行性角結膜炎	1,104	31.54	1,283	36.66	1,473	42.09
細菌性髄膜炎 ^{*B}	19	1.49	32	2.47	18	1.29
無菌性髄膜炎	41	3.21	29	2.23	42	3.01
マイコプラズマ肺炎	258	20.17	86	6.69	191	13.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	8	0.62	0	0.00	1	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルス) ^{*1}	1	0.08	81	6.33	94	6.71

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

^{*1}平成25年10月14日より追加。

表6 疾病別年間患者数（月報）

疾 病 名	患者数	定点あたり (H25)	患者数	定点あたり (H26)	患者数	定点あたり (H27)
性器クラミジア感染症	912	19.83	873	18.98	880	19.13
性器ヘルペスウイルス感染症	288	6.26	317	6.89	303	6.59
尖圭コンジローマ	160	3.48	144	3.13	185	4.02
淋菌感染症	350	7.61	374	8.13	348	7.57
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	475	36.99	525	37.50	408	29.14
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	136	10.59	75	5.36	69	4.93
薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.31	10	0.71	4	0.29
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0	0.00	2	0.14	—	—

^{*1}平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

2. 2 腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病の動向

平成27年の感染症発生動向調査事業における週報及び月報の患者情報を解析し、週（月）別患者数、保健所別患者数、及び年齢階級別患者数を求めた。STD対象疾病では性別・年齢階級別患者数を求めた。これらの統計表は付表として本誌52～64ページに掲載した。

全数把握対象疾病のうち患者数の多い腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病について、各疾病の動向を以下に示す。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の年間患者数は103人で、昨年の114人より減少した。22週（5月下旬）から40週（9月下旬）までが患者発生の多い時期となっていた。7月（28、29週）と9月（37週）には、焼肉店利用による食中毒事例に関連する患者が複数報告された。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満28%、10歳代18%、20歳代17%、30歳代11%、40歳代10%、50歳代6%、60歳代5%、70歳以上5%であった。

原因となる菌株の広域性を迅速把握する目的で、国立感染症研究所で行われている遺伝子解析の結果、MLVA型15c011に含まれる菌が6～9月を中心に20府県から127株分離され、兵庫県内でも4株検出されたが、疫学的な共通性は見いだせていない。

図3-1 腸管出血性大腸菌感染症の患者発生状況

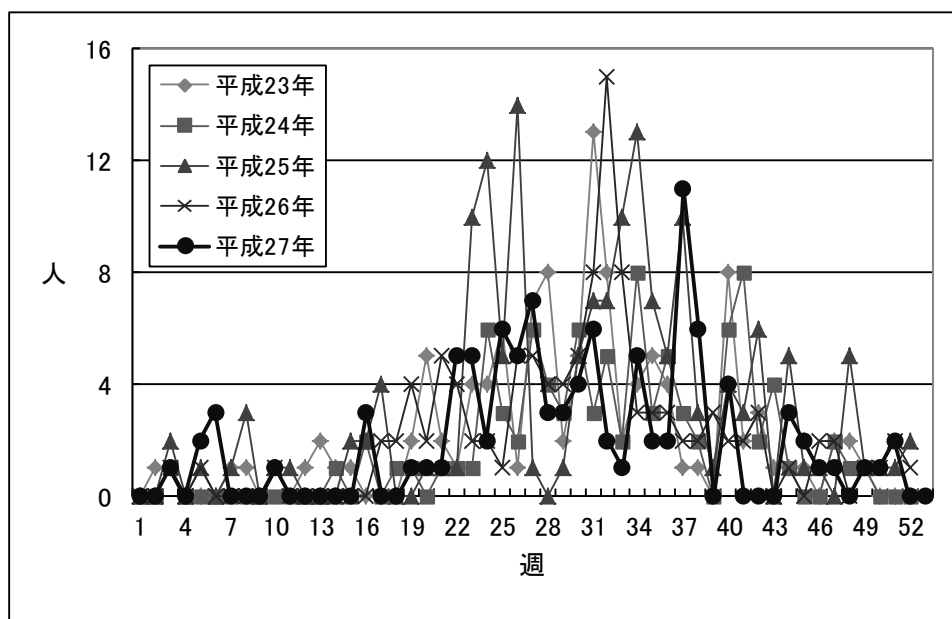
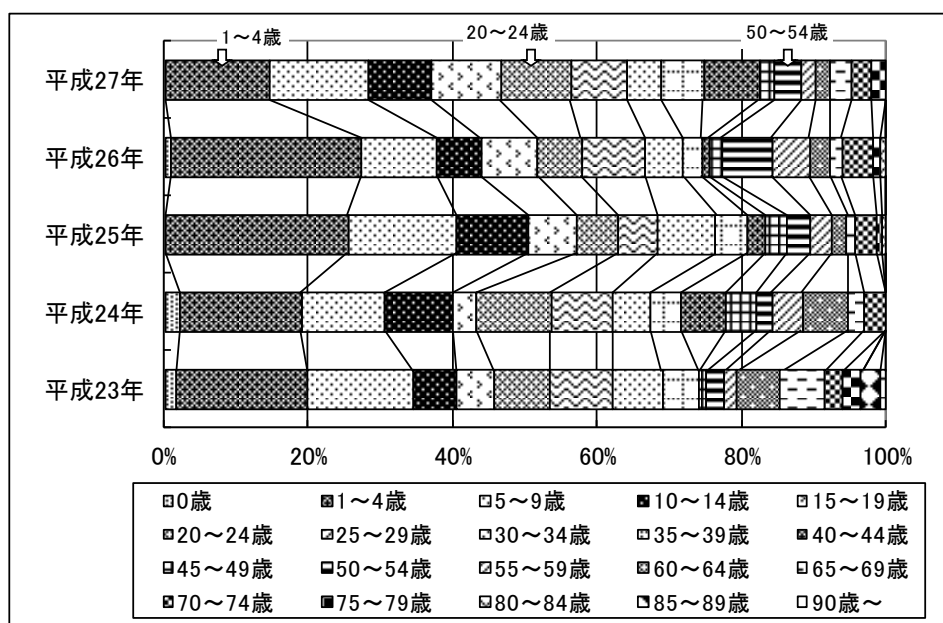


図3-2 腸管出血性大腸菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(2) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症の年間患者数は108人で、昨年の98人より増加した。冬から初夏にかけて患者発生が増加する傾向が見られた。性別分布は男性65人、女性43人であった。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満19%、30歳代4%、40歳代4%、50歳代10%、60歳代20%、70歳代17%、80歳代19%、90歳以上6%となり、4歳以下の乳幼児と60歳以上の高齢者とで全体の81%を占めていた。

図 4-1 侵襲性肺炎球菌感染症の患者発生状況

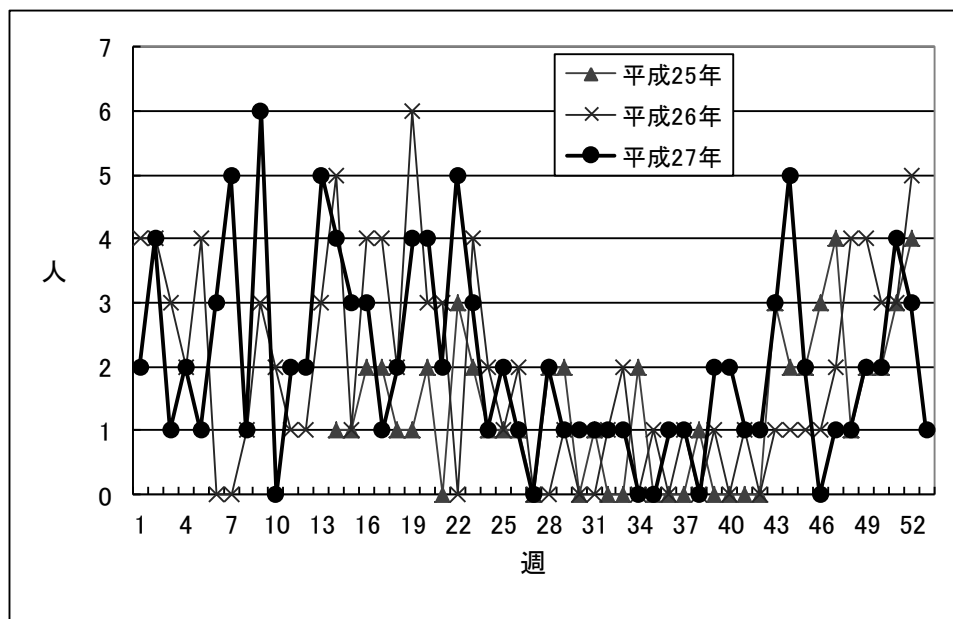
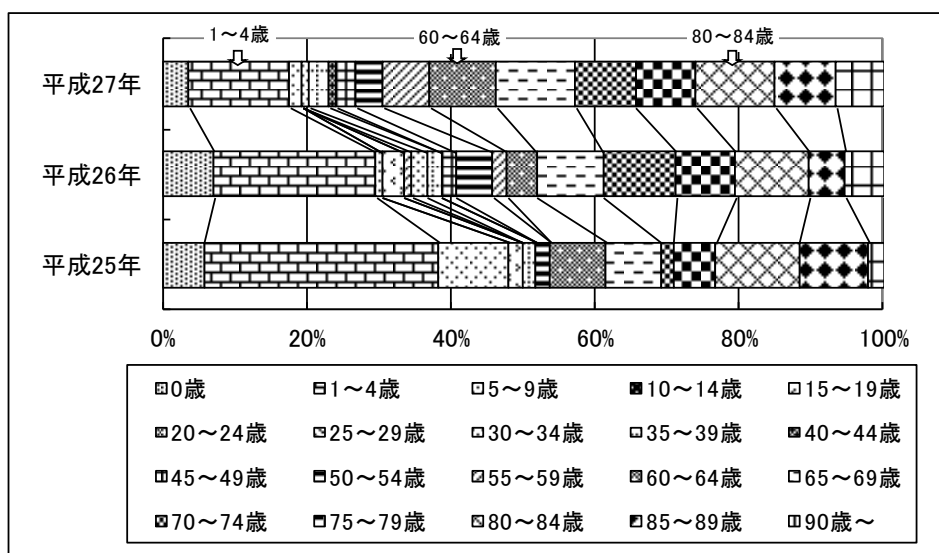


図 4-2 侵襲性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(3) 梅毒

梅毒の年間患者数は89人で、昨年の42人より2倍以上増加した。特に、若い女性患者の増加が著しく、性別分布は男性68人、女性21人となった。

年齢階級別患者発生割合は10歳代1%、20歳代28%、30歳代26%、40歳代18%、50歳代8%、60歳代12%、70歳代3%、80歳以上3%となり、20～30歳代の患者数が多くなっている。

図 5-1 梅毒の患者発生状況

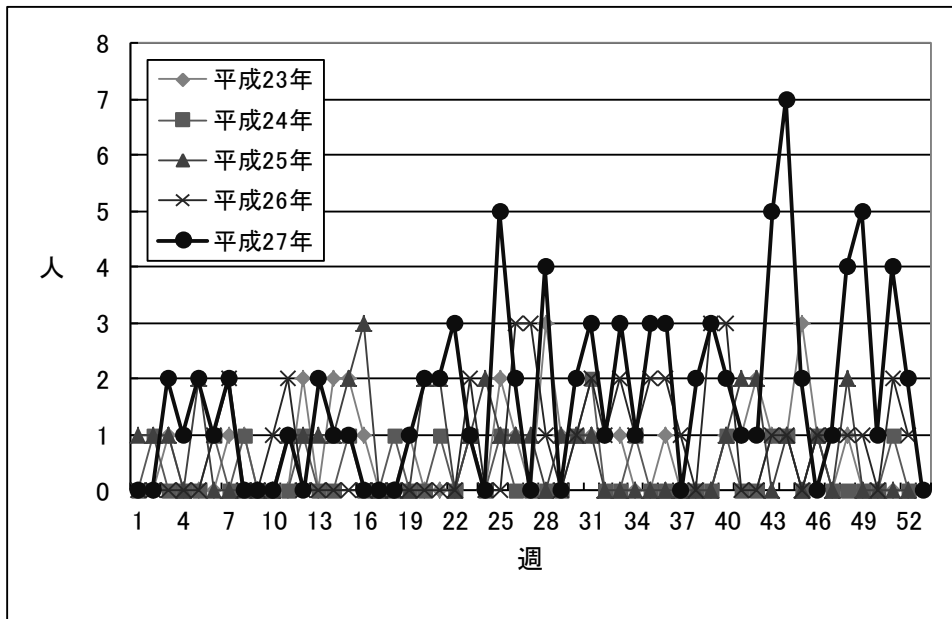


図 5-2 梅毒の年齢階級別患者発生割合

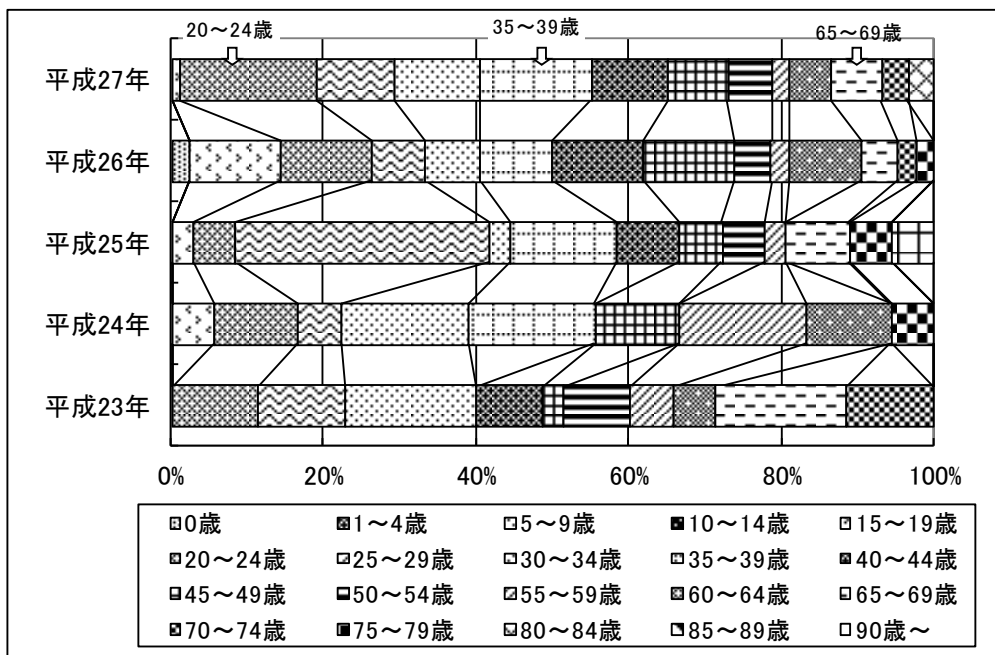


図 5-3 梅毒の年齢階級別患者発生状況（男性）

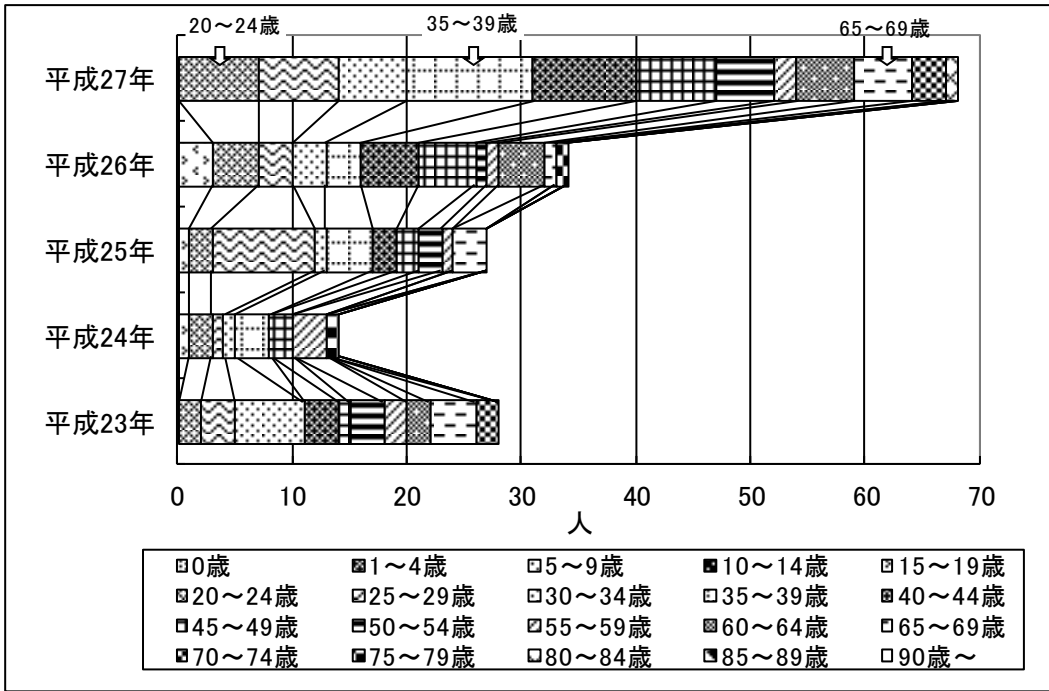
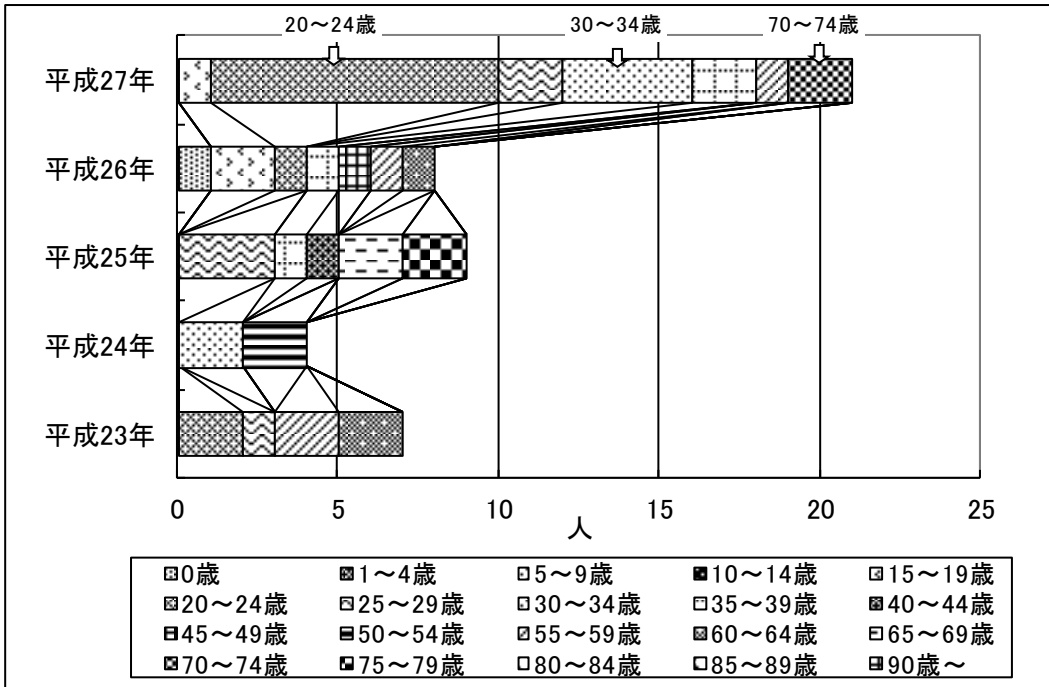


図 5-3 梅毒の年齢階級別患者発生状況（女性）



(4) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

年間患者数は43,699人（定点あたり219.72人）で、昨年の63,157人（319.58人）より減少した。週別定点あたり患者数は4週（1月下旬）に最大のピーク（38.08人）を示した後、速やかに減少し、8週（2月中旬）には定点あたり10人を、19週（5月上旬）には定点あたり1.0人を下回った。また、年末には流行開始の目安とされる定点あたり1.0人を超えなかった。

当研究所で行った検査ではA(H1N1)pdm09、A(H3N2)型、B型（Yamagata系統）及びB型（Victoria系統）のインフルエンザウイルスを165件検出した。年初から11週（3月中旬）にかけては、主にA(H3N2)型を検出し、その後24週（6月中旬）にかけて、B型（Yamagata系統）の検出が増加した。また、35週（8月下旬）から年末までは、主にA(H3N2)型を検出した。

年齢階級別患者発生割合では、9歳以下の患者が全体の51%、14歳以下の患者が全体の68%を占めていた。

図6-1 インフルエンザの週別定点あたり患者発生状況

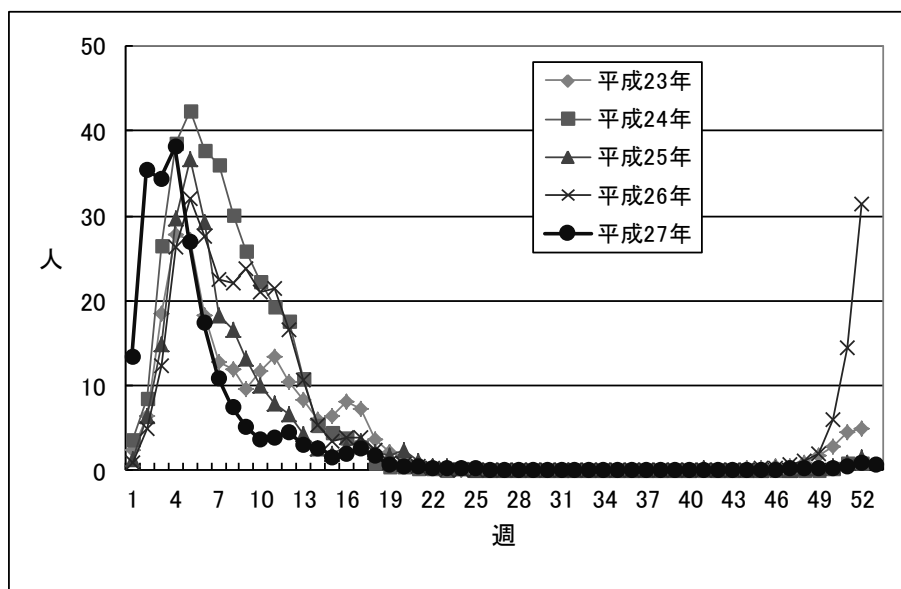
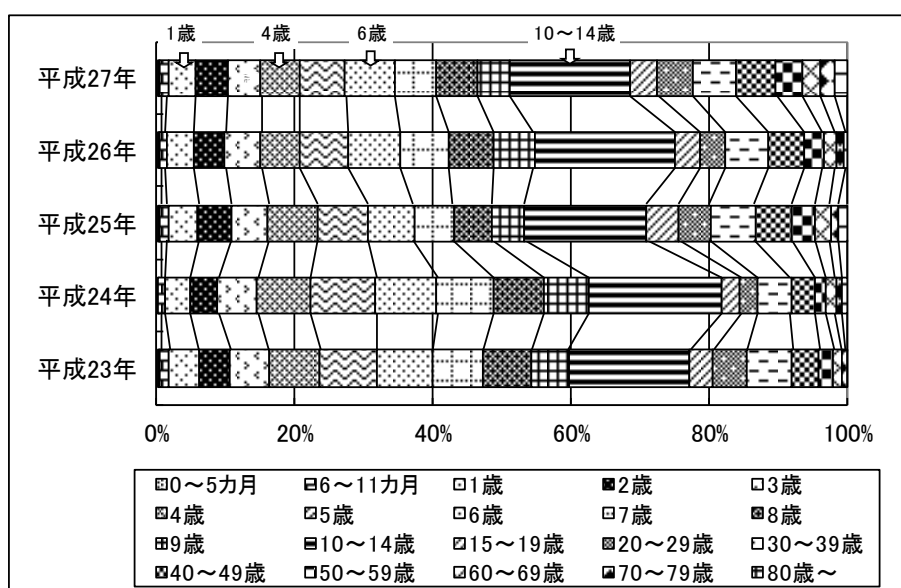


図6-2 インフルエンザの年齢階級別患者発生割合



(5) RSウイルス感染症

本疾病は平成15年11月に小児科定点対象疾病となった。患者報告には検査診断が必要だが、平成23年10月より迅速診断キットによる抗原検査の保険適用が拡大され、従来の入院患者に加えて外来患者の乳児（1歳未満）等にも適用可能となっている。

平成27年の年間患者数は5,112人（定点あたり39.64人）で、昨年の4,078人（31.86人）より増加し、観測開始以降で最大の患者数となった。

週別定点あたり患者数は37週（9月上旬）から増加し始め、47週（11月中旬）以降年末まで例年より多い患者数で推移して、50週（12月上旬）に最大のピーク（4.01人）を示した。

年齢階級別患者発生割合では、0歳の患者が全体の34%、1歳以下の患者が66%、2歳以下の患者が83%を占めていた。

図7-1 RSウイルス感染症の週別定点あたり患者発生状況

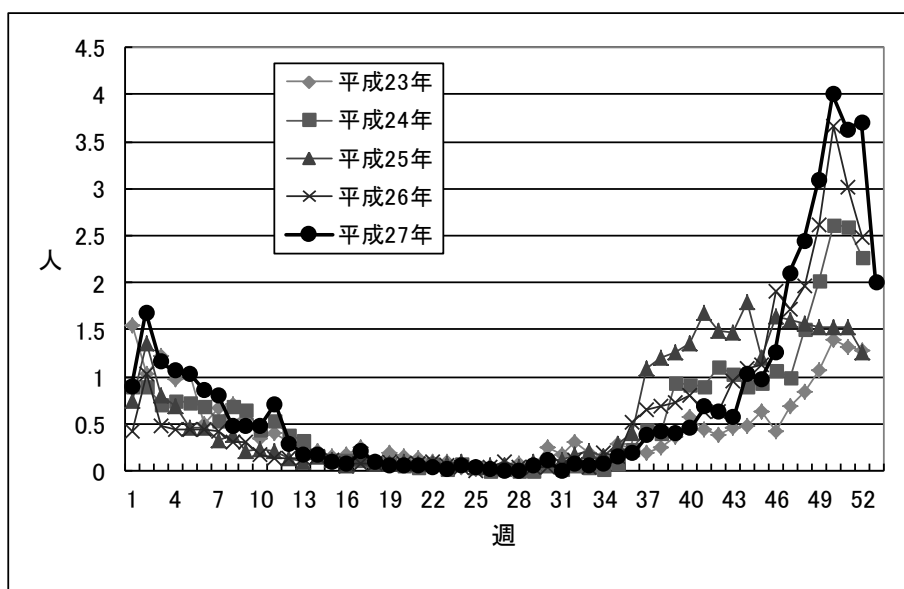
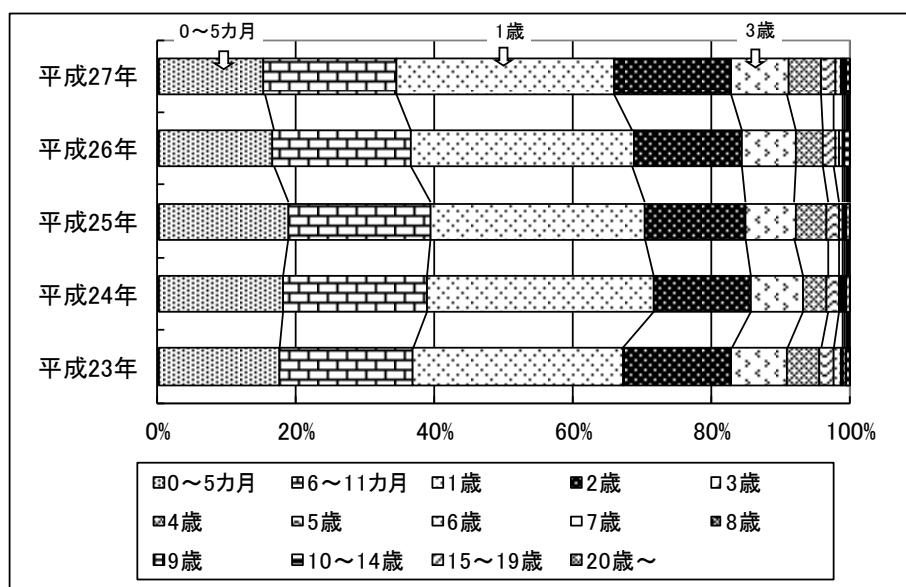


図7-2 RSウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合



(6) 咽頭結膜熱

年間患者数は3,402人（定点あたり26.42人）で、昨年の2,975人（23.16人）より増加した。

週別定点あたり患者数は23週（6月上旬）をピーク（1.08人）に、32週（8月上旬）以降も例年より患者数の多い状態が続いた。

年齢階級別患者発生割合は1歳21%、2歳14%、3歳13%、4歳12%、5歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の77%、0～9歳の患者が全体の93%を占めていた。

図8-1 咽頭結膜熱の週別定点あたり患者発生状況

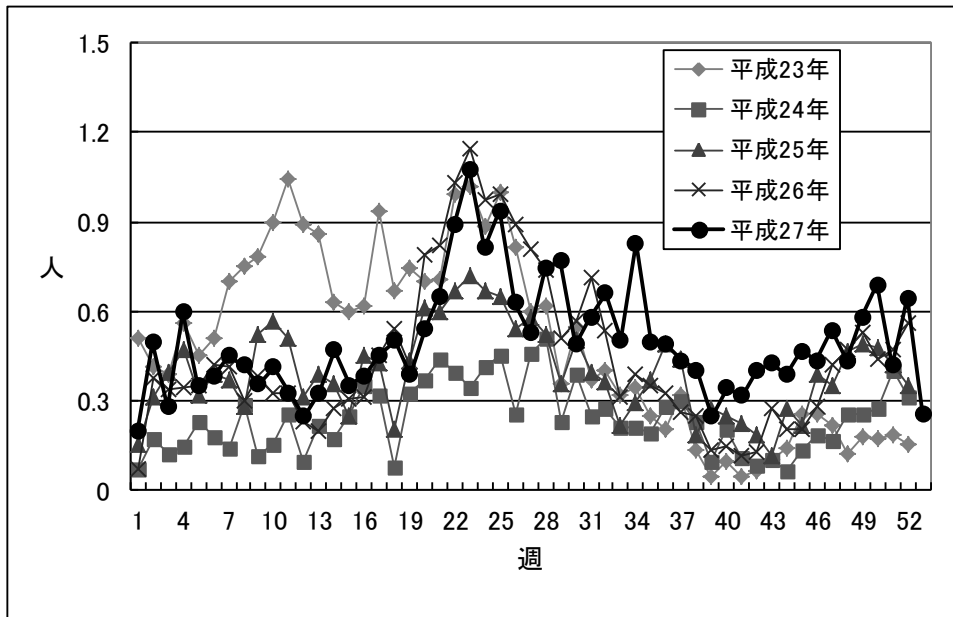
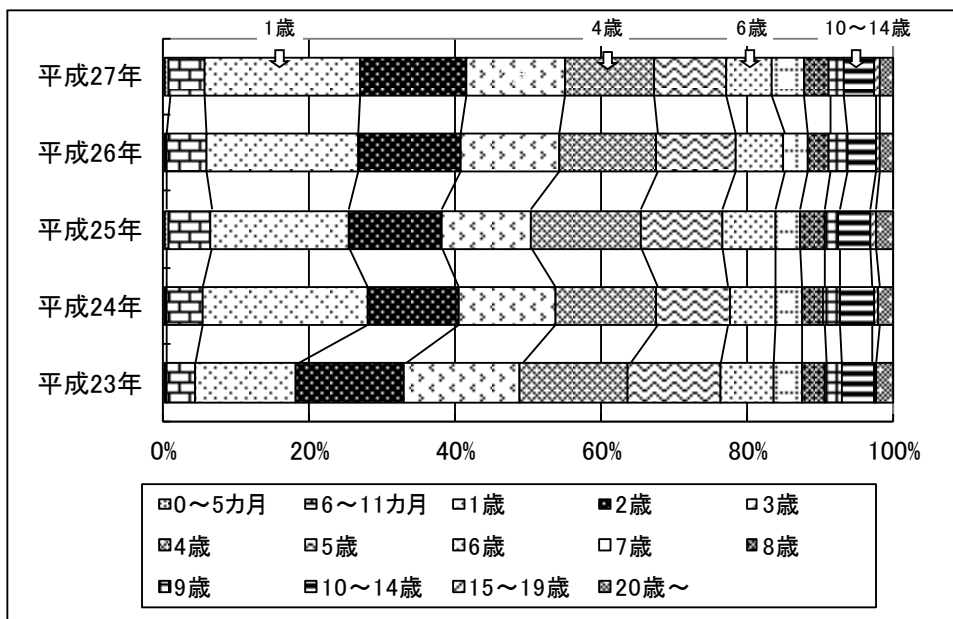


図8-2 咽頭結膜熱の年齢階級別患者発生割合



(7) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間患者数は13,444人（定点あたり104.38人）で、昨年の8,320人（64.88人）より増加した。

例年冬期から初夏に患者数の多い疾病であるが、平成27年の週別定点あたり患者数は、年間を通して例年より多くなった。20週（5月中旬）にピーク（3.20人）を示し、その後29週（7月中旬）までと45週（11月上旬）以降は、特に患者数が多い状態が続いた。

年齢階級別患者発生割合は5歳13%、4歳13%、6歳12%、3歳10%、7歳9%の順で多く、1～9歳の患者が全体の83%、1～14歳の患者が全体の94%を占めていた。

図9-1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別定点あたり患者発生状況

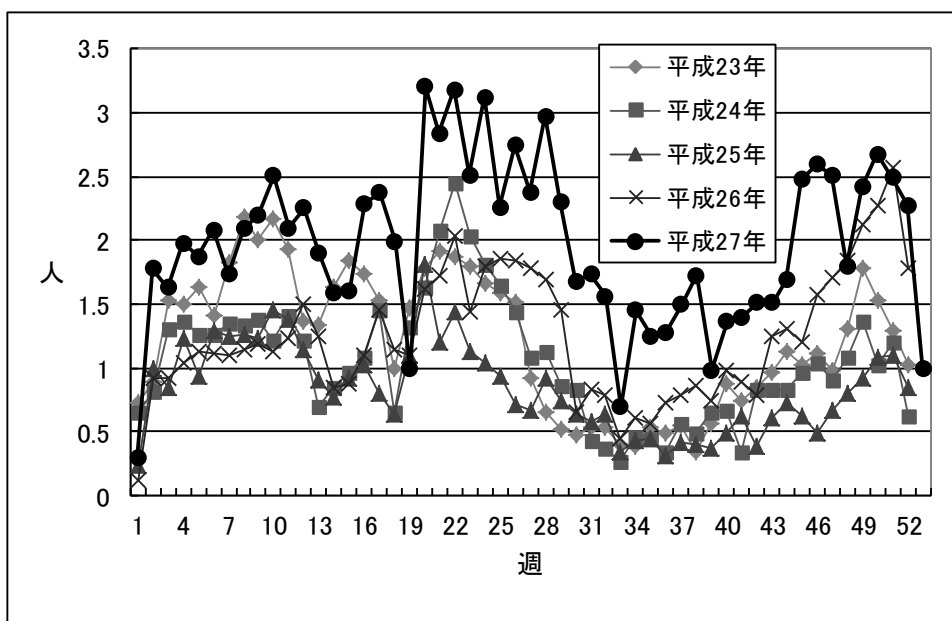
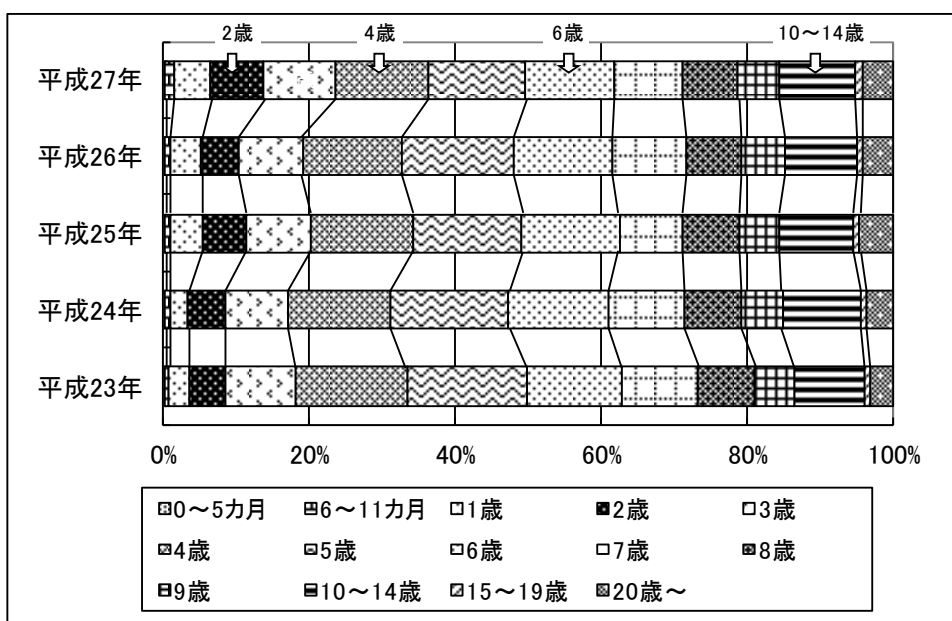


図9-2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢階級別患者発生割合



(8) 感染性胃腸炎

年間患者数は49,328人（定点あたり382.97人）で、昨年の49,331人（384.75人）よりわずかに減少した。週別定点あたり患者数は、2週（1月上旬）から26週（6月下旬）まで、大型連休期間中の19週には患者数の落ち込みがみられたが、ほぼ横ばいで推移した。その後、秋期に向けて減少したが、45週（11月上旬）以降に増加し、50週（12月上旬）にピーク（15.21人）を示した。

年齢階級別患者発生割合は1歳15%、2歳12%、3歳9%、4歳9%、5歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の59%、0～9歳の患者が全体の79%を占めていた。

図10-1 感染性胃腸炎の週別定点あたり患者発生状況

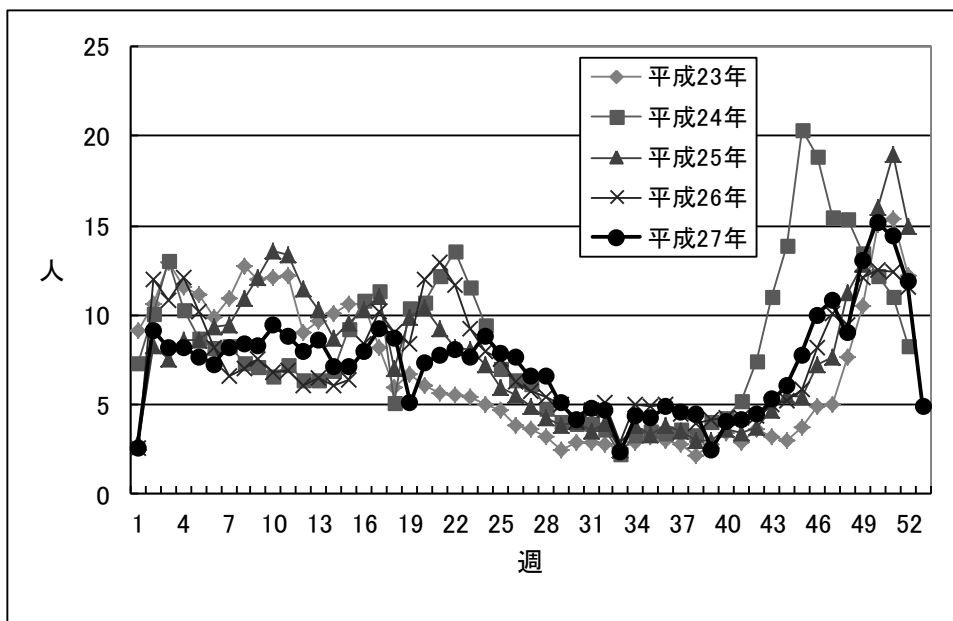
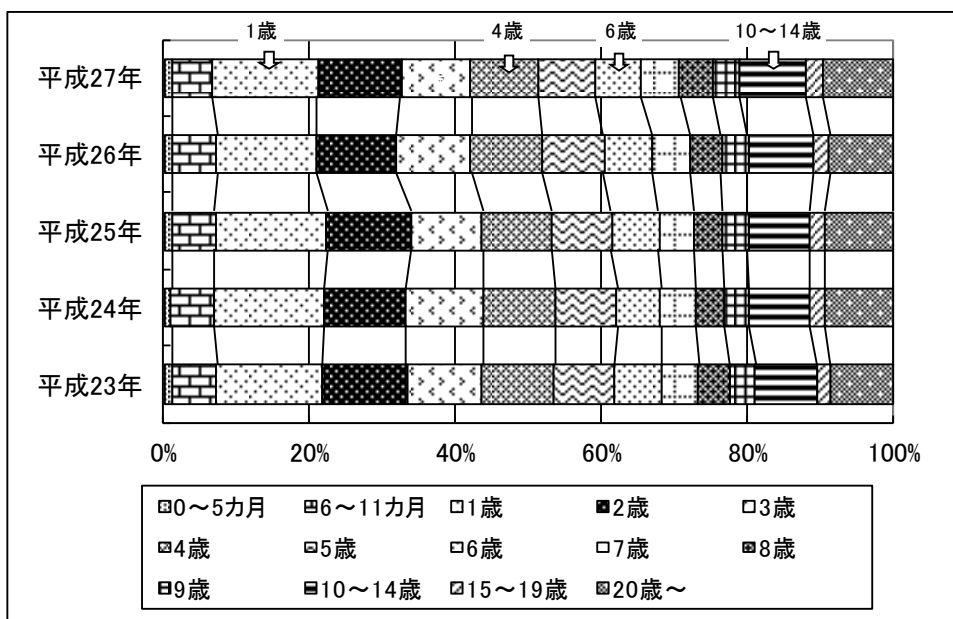


図10-2 感染性胃腸炎の年齢階級別患者発生割合



(9) 水痘

年間患者数は3,258人（定点あたり25.29人）で、昨年の6,713人（52.37人）より半減した。

平成26年10月1日から水痘ワクチンが定期接種化され、これに先立って、平成26年9月19日から24時間以上の入院を要した水痘症例が全数届出対象となった。

平成27年の小児科定点からの週別定点あたり患者数は、ワクチン接種の効果によるものか、例年よりも少なく、小さい変動で推移した。

年齢階級別患者発生割合は4歳16%、5歳14%、6歳13%、3歳11%、2歳9%の順で多く、0～7歳の患者が全体の85%を占めていた。例年に比べて0～3歳の患者割合が減少した。

図11-1 水痘の週別定点あたり患者発生状況

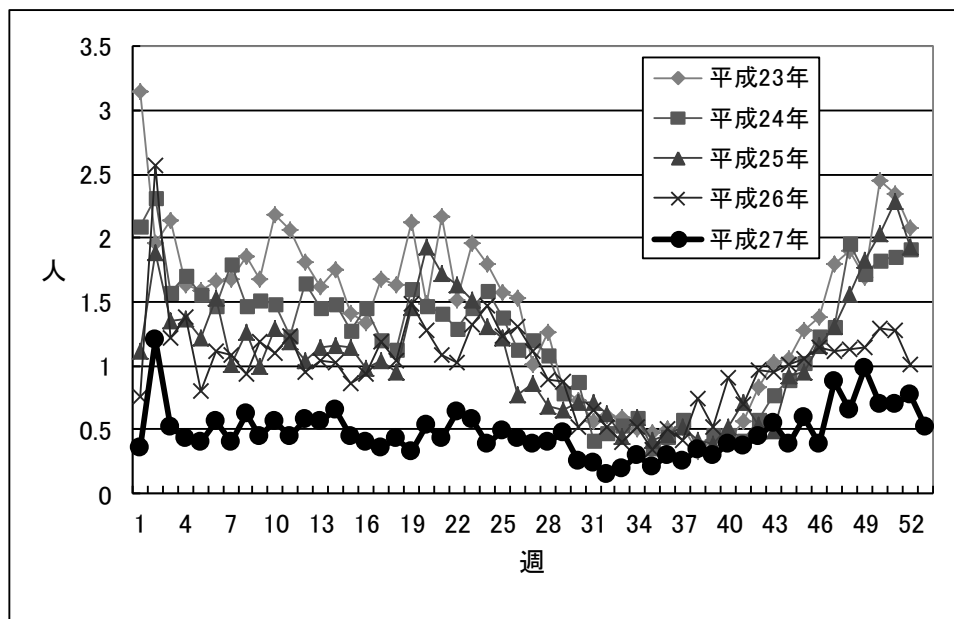
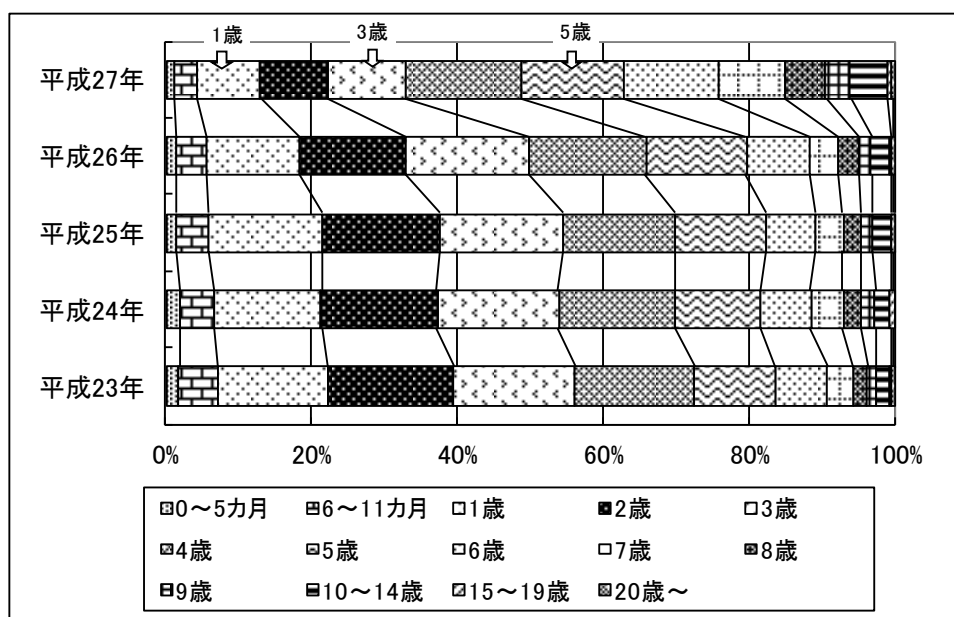


図11-2 水痘の年齢階級別患者発生割合



(10) 手足口病

年間患者数は18,344人（定点あたり142.42人）で、昨年の患者数1,623人（12.63人）より大幅に増加した。本疾病は、ほぼ1年おきに大きな流行が起きており、一昨年の患者数と比べると約2倍となった。週別定点あたり患者数は、例年より早く16週（4月中旬）頃から増加し始め、29週（7月中旬）の11.09人をピークに、40週（10月上旬）まで患者数の多い状態が継続した。

年齢階級別患者発生割合は1歳26%、2歳20%、3歳16%、4歳12%、5歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の89%を占めていた。

当研究所で行った検査では、7月までは主にコクサッキーウイルスA16型（CA16）が検出され、7月から検出され始めたCA6は8月以降の主流となった。

図12-1 手足口病の週別定点あたり患者発生状況

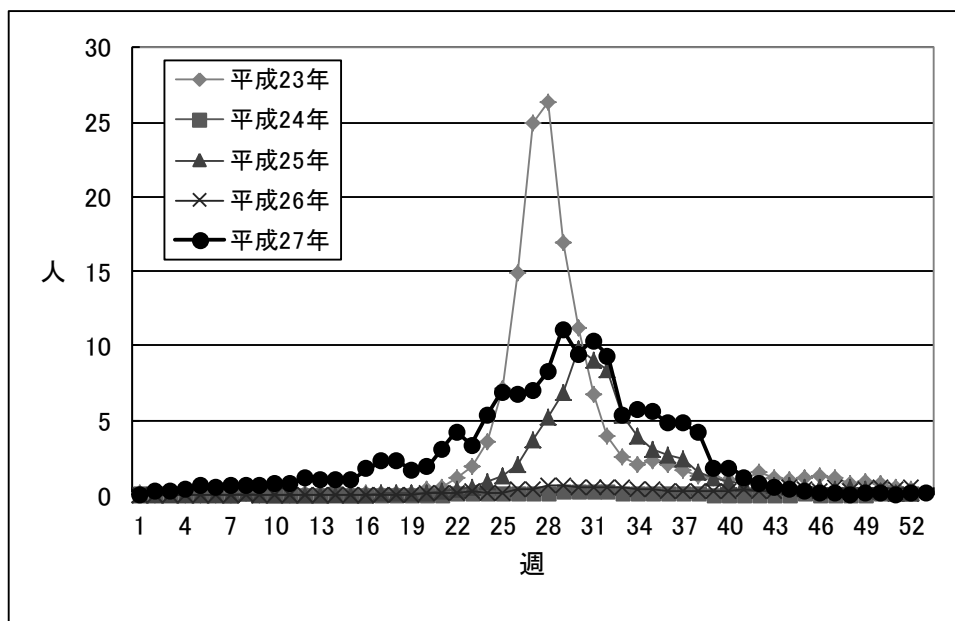
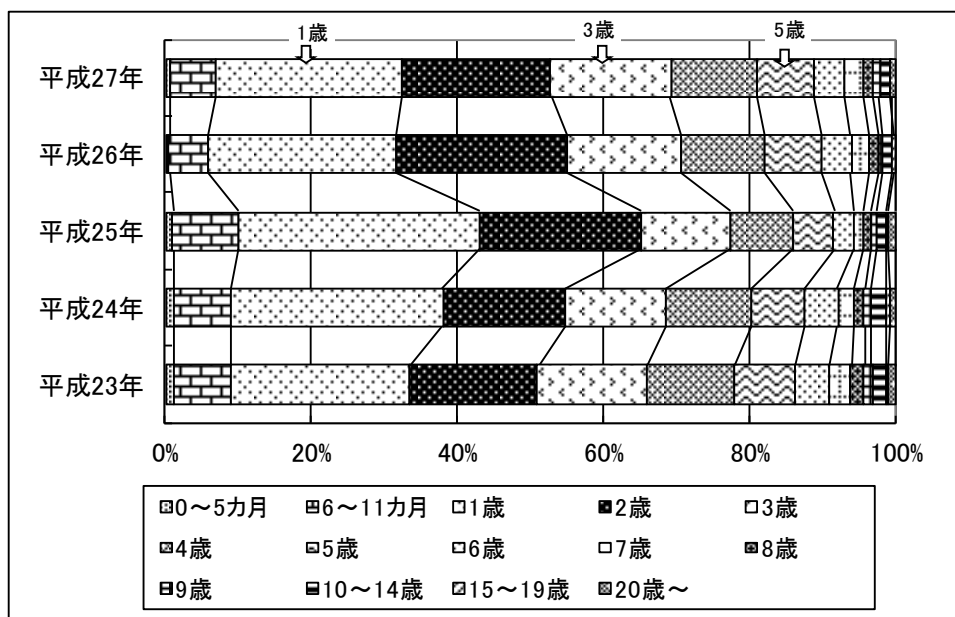


図12-2 手足口病の年齢階級別患者発生割合



(11) 伝染性紅斑

年間患者数は2,867人（定点あたり22.26人）で、昨年の665人（5.18人）より4倍以上に増加し、4年ぶりの流行となった。

週別定点あたり患者数は、14週（4月上旬）から増加し始め、28週（7月上旬）にピーク（1.11人）を示し、39週（9月下旬）にはやや減少したが、45週（11月上旬）以降年末にかけても患者数の多い状態が継続した。

年齢階級別患者発生割合は5歳17%、4歳15%、6歳13%、3歳12%、7歳10%の順で多く、0～9歳の患者が全体の94%を占めていた。

図13-1 伝染性紅斑の週別定点あたり患者発生状況

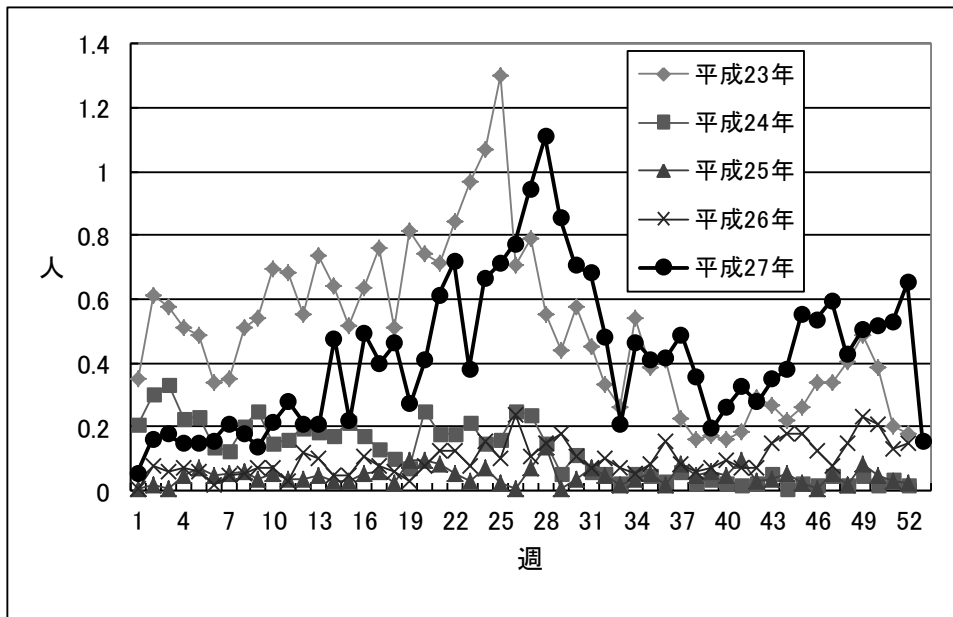
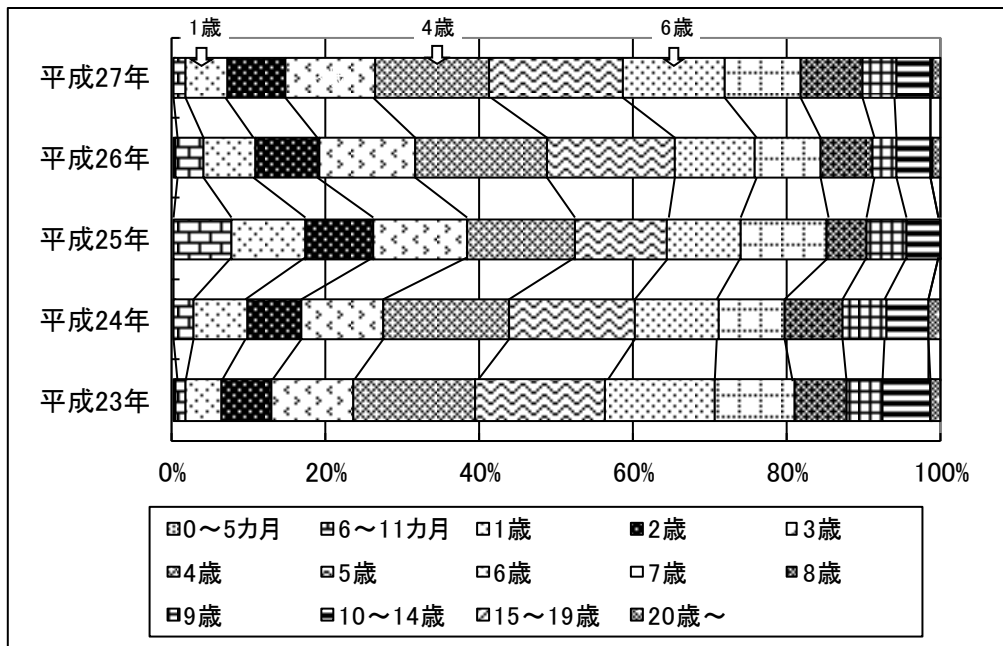


図13-2 伝染性紅斑の年齢階級別患者発生割合



(12) 突発性発しん

年間患者数は3,040人（定点あたり23.60人）で、昨年の3,350人（26.11人）よりわずかに減少した。年間患者数の経年的推移に多少のバラツキはみられるが、平成12年以降緩やかな減少傾向を続けている。本疾病は1年を通じて患者が発生し、季節性が明瞭でない。週別定点あたり患者数は、年末年始の各1週を除くと0.25～0.67人の間で推移した。

年齢階級別患者発生割合の経年変化では、0歳の割合が年々減少し、1～2歳の割合が増加している。本年は、0歳が40%、1歳が49%、2歳が8%を占めていた。

図14-1 突発性発しんの週別定点あたり患者発生状況

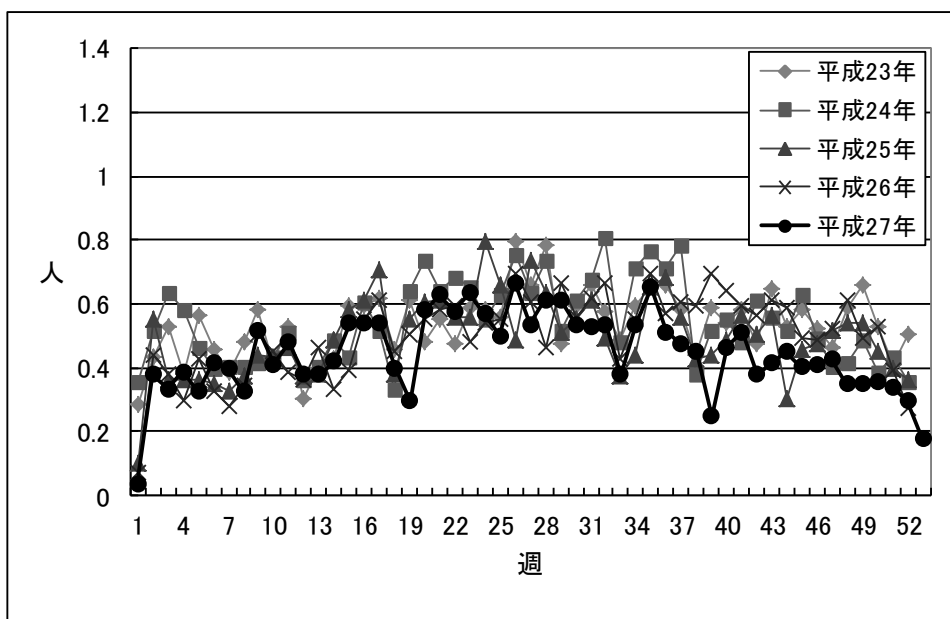
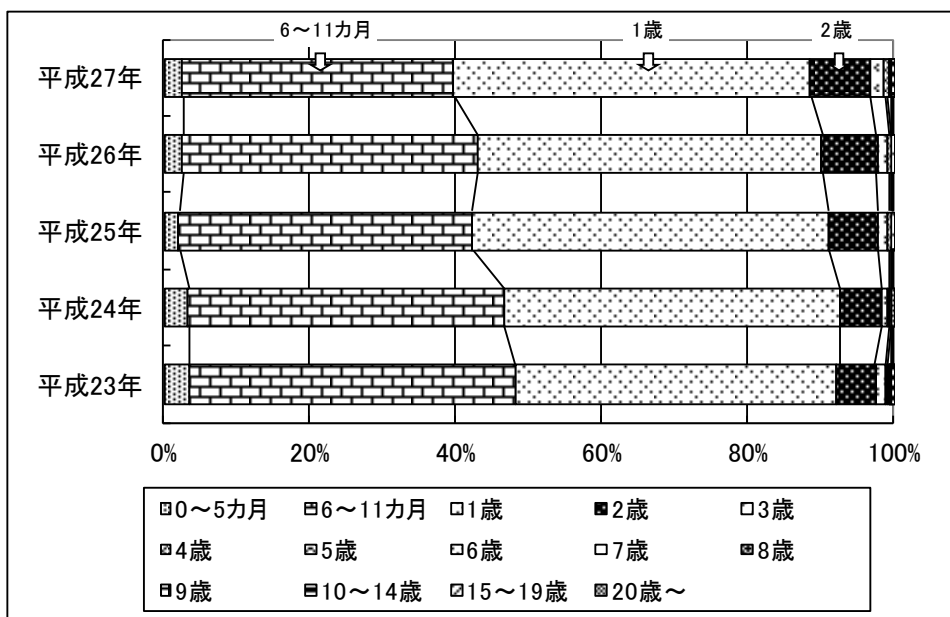


図14-2 突発性発しんの年齢階級別患者発生割合



(13) 百日咳

本疾病は患者発生数が比較的少ない疾病である。平成27年の年間患者数は132人（定点あたり1.02人）で、昨年の72人（0.56人）より増加した。

定点あたり患者数の週別変化に季節性は認められず、0.00～0.07人の間で推移した。

年齢階級別患者発生割合は、0歳15%、1～4歳23%、5～9歳26%、10歳代23%、20歳以上12%となっていた。小児科定点からの報告にもかかわらず成人患者の発生割合も多くなっている。

図15-1 百日咳の週別定点あたり患者発生状況

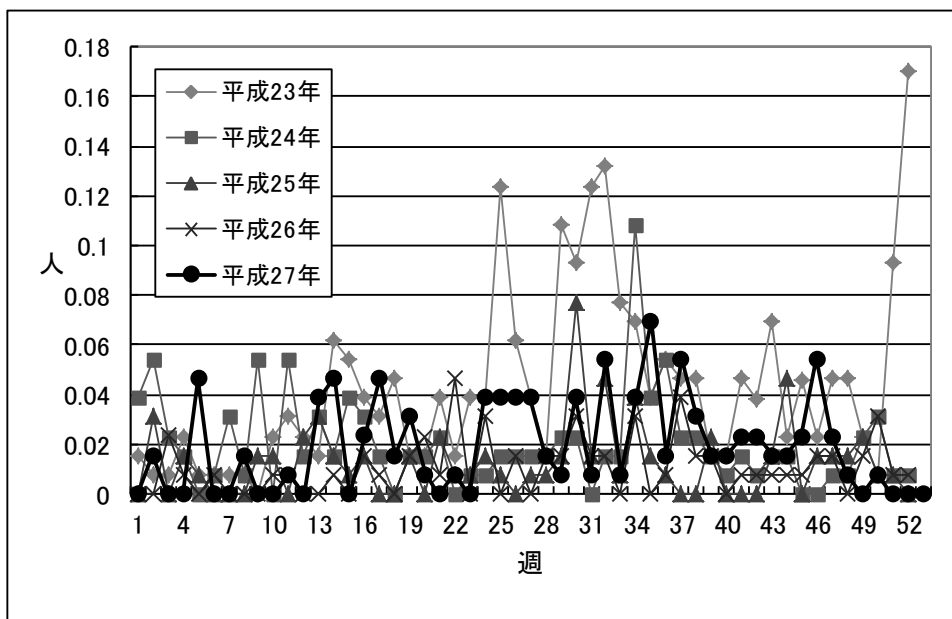
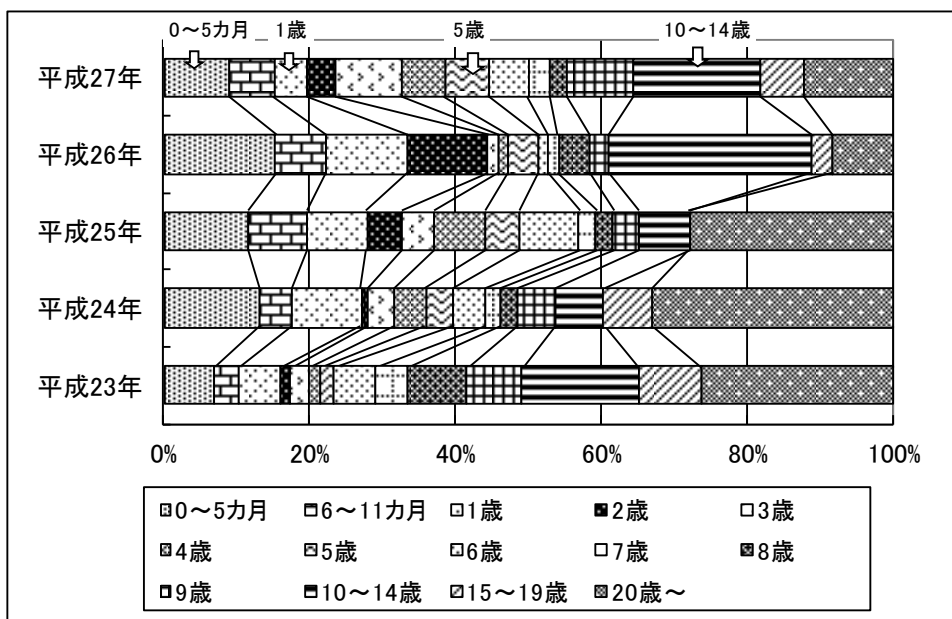


図15-2 百日咳の年齢階級別患者発生割合



(14) ヘルパンギーナ

年間患者数は2,883人（定点あたり22.36人）で、昨年の5,899人（45.75人）より半減した。

週別定点あたり患者数は、20週（5月中旬）頃から増加し始めたが、例年より患者数の伸びは小さく、32週（8月上旬）の2.33人を最高に減少に転じ、42週（10月中旬）頃に終息した。

年齢階級別患者発生割合は1歳28%、2歳18%、3歳15%、4歳11%、0歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の88%を占めていた。

図16-1 ヘルパンギーナの週別定点あたり患者発生状況

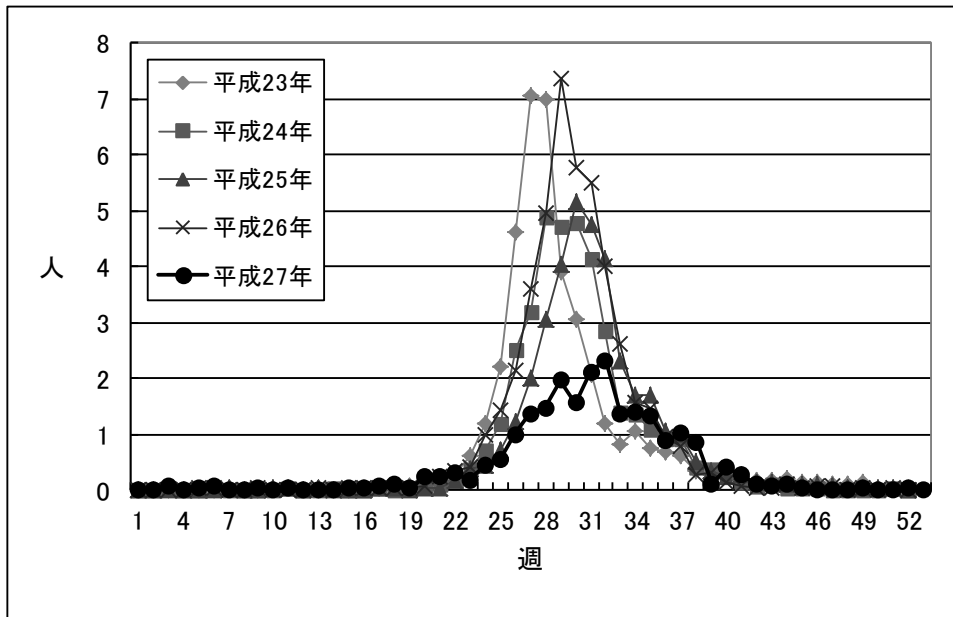
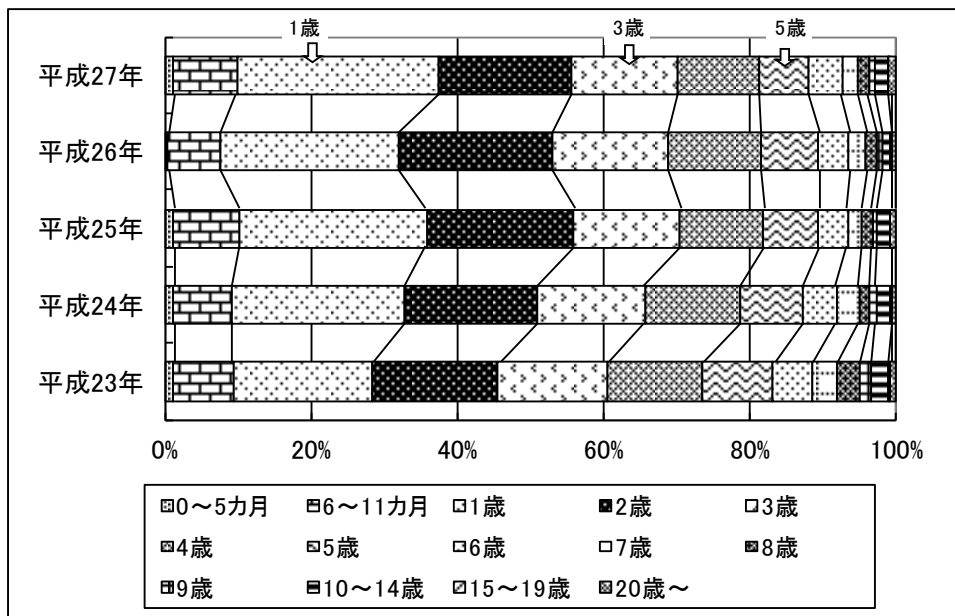


図16-2 ヘルパンギーナの年齢階級別患者発生割合



(15) 流行性耳下腺炎

年間患者数は2,624人（定点あたり20.36人）で、昨年の1,179人（9.19人）より倍増した。

流行性耳下腺炎の流行にはしばしば3～4年周期の変動がみられる。週別定点あたり患者発生状況をみると、平成27年は43週（10月下旬）以降に、平成23年と同等の患者数に達し、流行期に入ったものと思われる。

年齢階級別患者発生割合は4歳16%、5歳15%、6歳13%、7歳11%、3歳10%の順で多く、2～9歳の患者が全体の86%を占めていた。

図17-1 流行性耳下腺炎の週別定点あたり患者発生状況

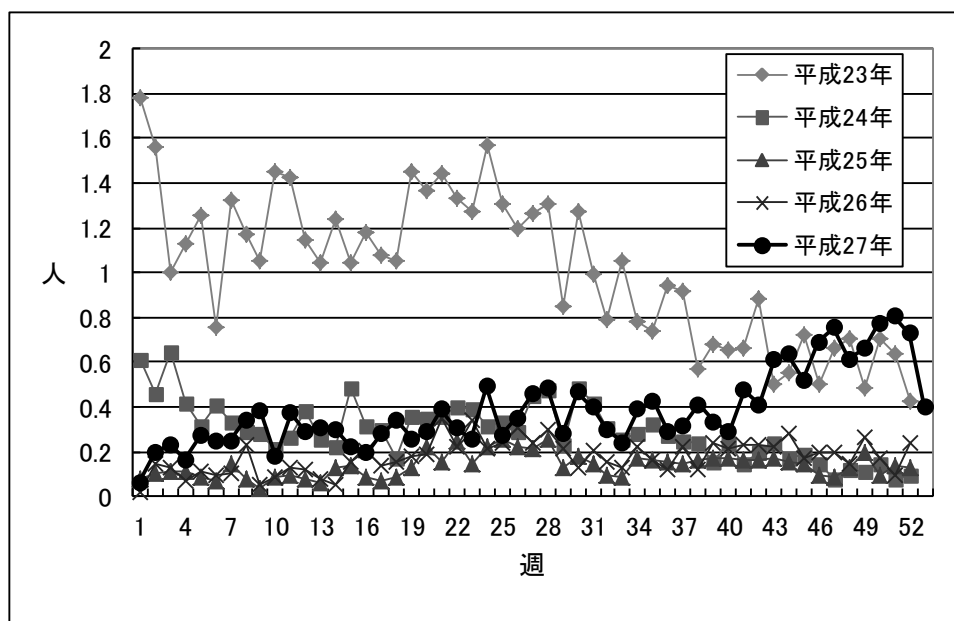
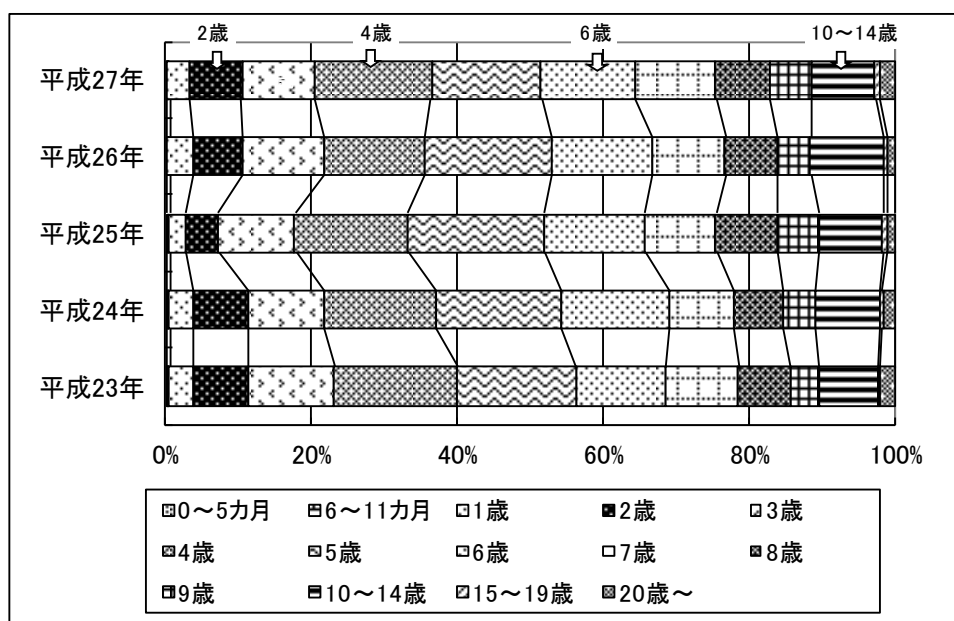


図17-2 流行性耳下腺炎の年齢階級別患者発生割合



(16) 急性出血性結膜炎

本疾病は、平成19年以降患者数の少ない状態で推移している。平成26年の年間患者数は19人（定点あたり0.54人）で、昨年の11人（0.31人）より増加した。

年齢階級別患者発生割合は30歳代が21%と最も多くなり、20歳以上の患者が全体の79%を占めていた。

図18-1 急性出血性結膜炎の週別定点あたり患者発生状況

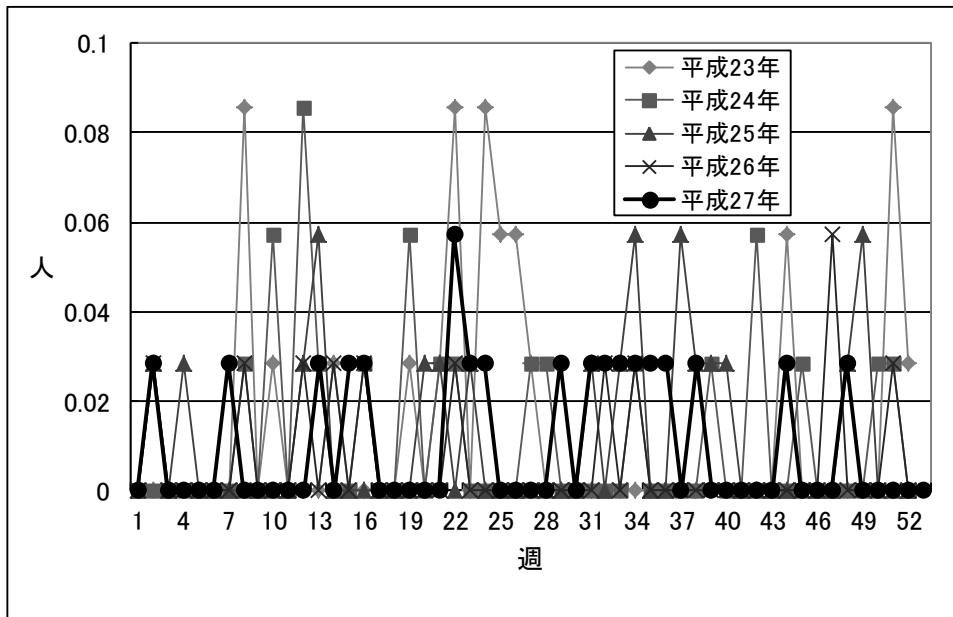
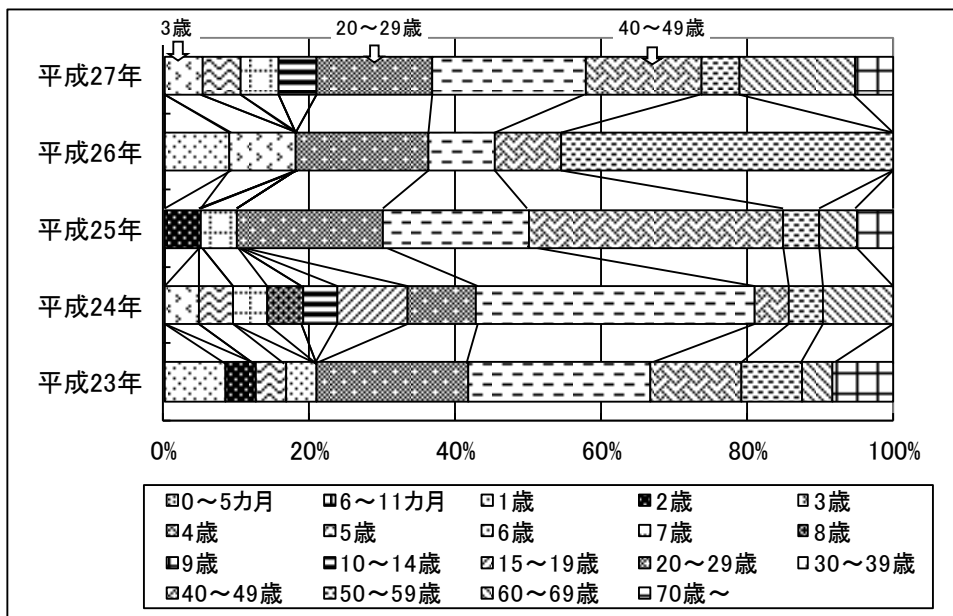


図18-2 急性出血性結膜炎の年齢階級別患者発生割合



(17) 流行性角結膜炎

年間患者数は1,473人（定点あたり42.09人）で、昨年の1,283人（36.66人）より増加した。週別定点あたり患者数は、36週（9月上旬）をピーク（2.43人）に、21週（5月下旬）から47週（11月中旬）まで多い状態が継続した。

年齢階級別患者発生割合は0～9歳25%、30歳代23%がやや多いが、各年齢層で患者が発生していた。

図19-1 流行性角結膜炎の週別定点あたり患者発生状況

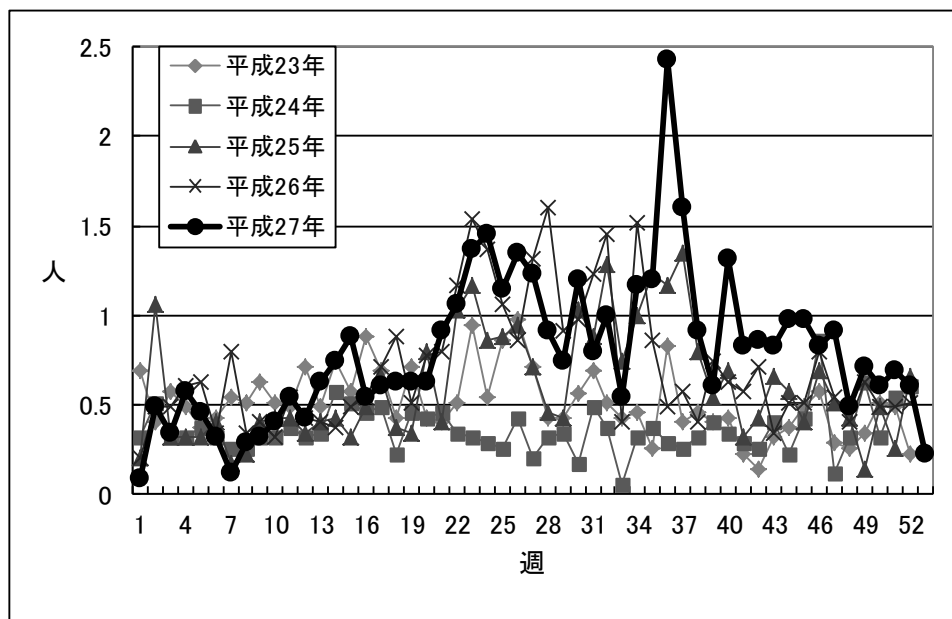
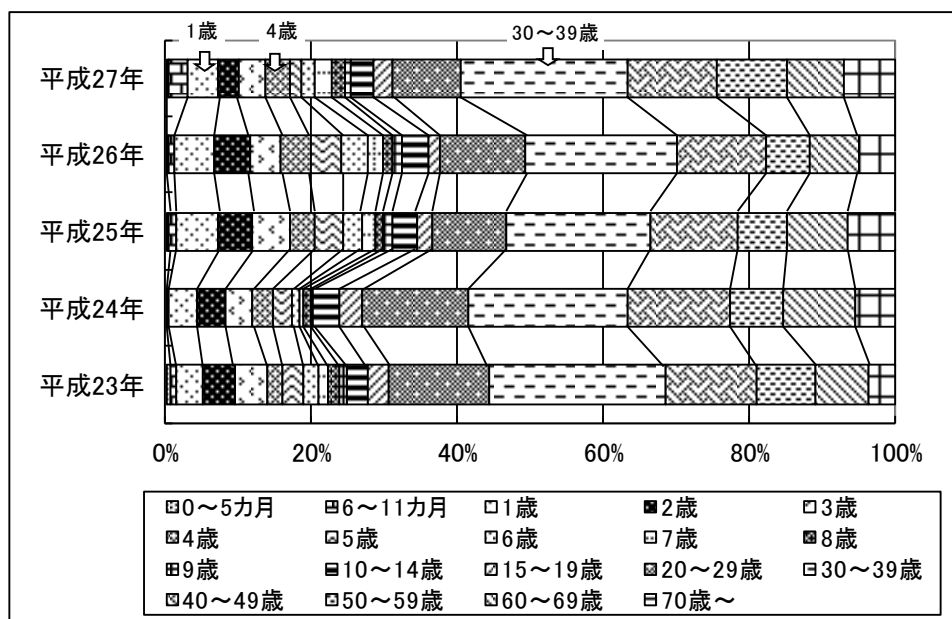


図19-2 流行性角結膜炎の年齢階級別患者発生割合



(18) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）
 年間患者数は18人（定点あたり1.29人）で、昨年の32人（2.47人）より減少した。
 患者の年齢分布は70歳以上が5人（28%）、55～59歳4人（22%）、0歳と1～4歳が各3人（17%）の順となっていた。

図 20-1 細菌性髄膜炎の週別定点あたり患者発生状況

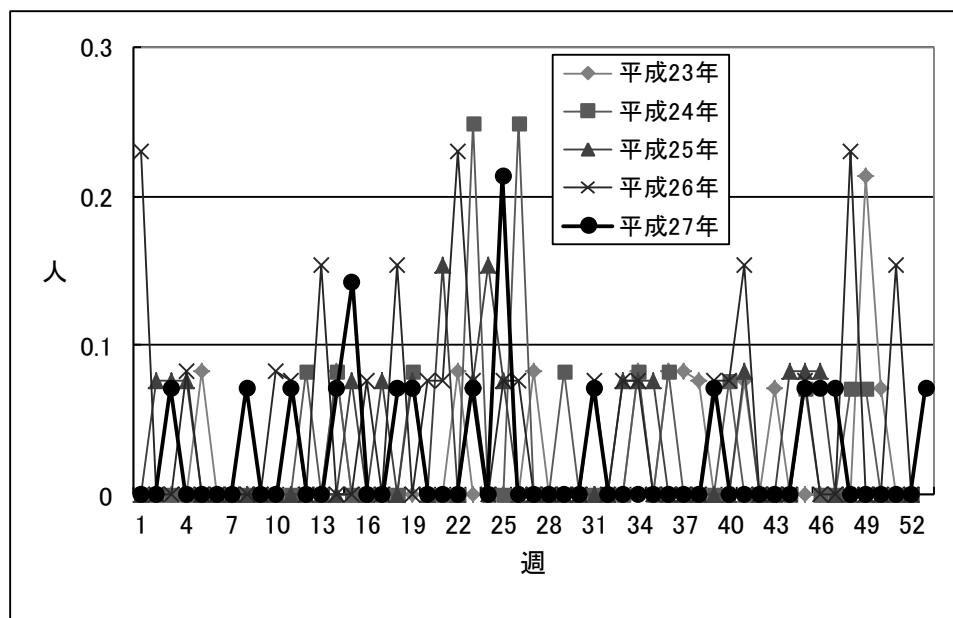
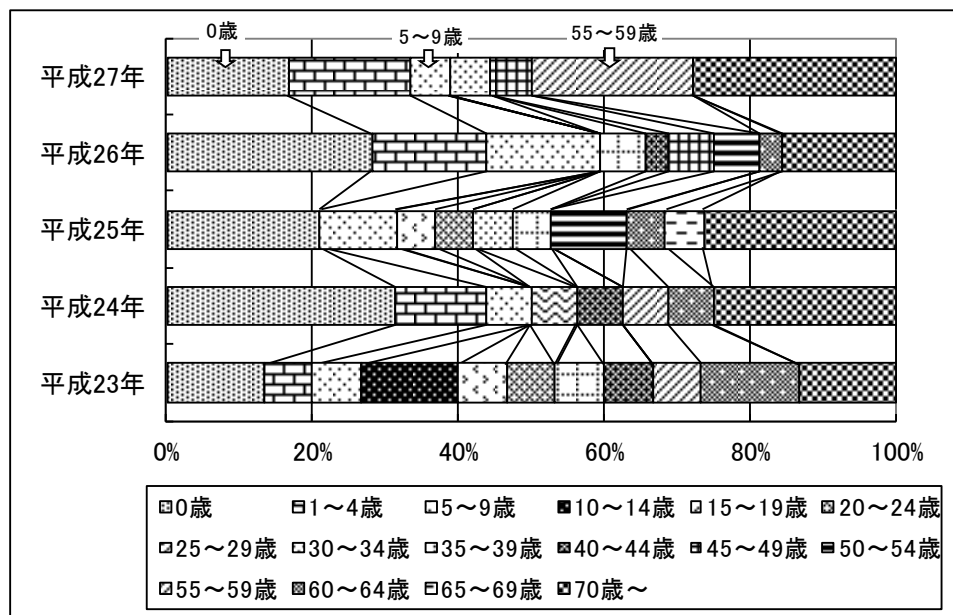


図 19-2 細菌性髄膜炎の年齢階級別患者発生割合



(19) 無菌性髄膜炎

年間患者数は平成16年以降20～61人の範囲で増減を繰り返しており、平成27年は42人(定点あたり3.01人)で、昨年の29人(2.23人)より増加した。

患者の年齢分布は5～9歳7人(17%)、0歳と25～29歳各5人(12%)の順で、20歳以上が全体の64%を占めていた。

図 21-1 無菌性髄膜炎の週別定点あたり患者発生状況

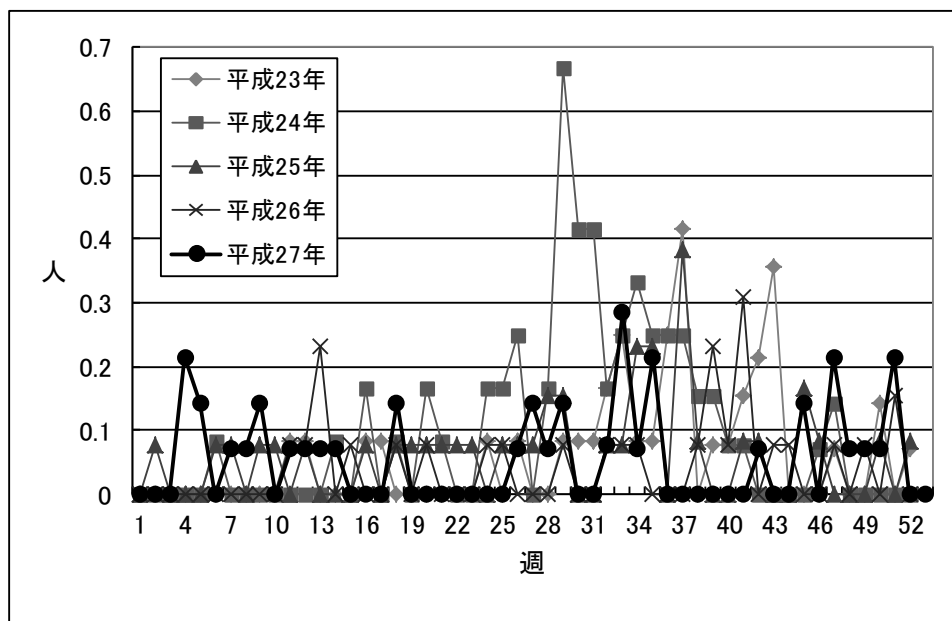
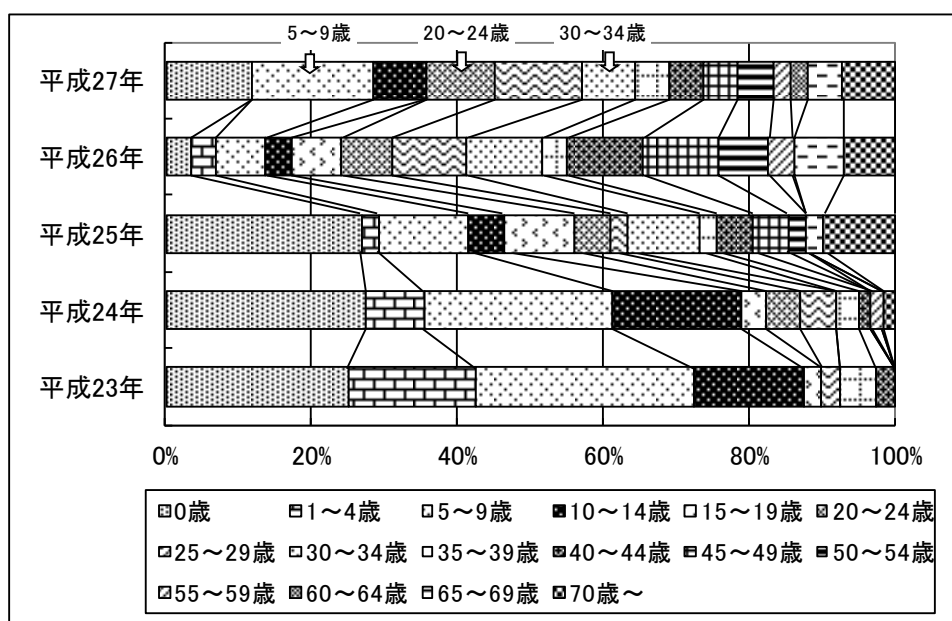


図 21-2 無菌性髄膜炎の年齢階級別患者発生割合



(20) マイコプラズマ肺炎

年間患者数は191人（定点あたり13.67人）で、昨年の86人（6.69人）より倍増した。週別定点あたり患者発生状況を見ると、平成27年は44週（10月下旬）以降に急増し、年間484人の患者を発生した平成24年以降の流行が懸念される。

年齢階級別患者発生割合は5～9歳36%、1～4歳と10～14歳各15%の順で多く、15歳未満の患者が全体の66%を占めていた。

図 22-1 マイコプラズマ肺炎の週別定点あたり患者発生状況

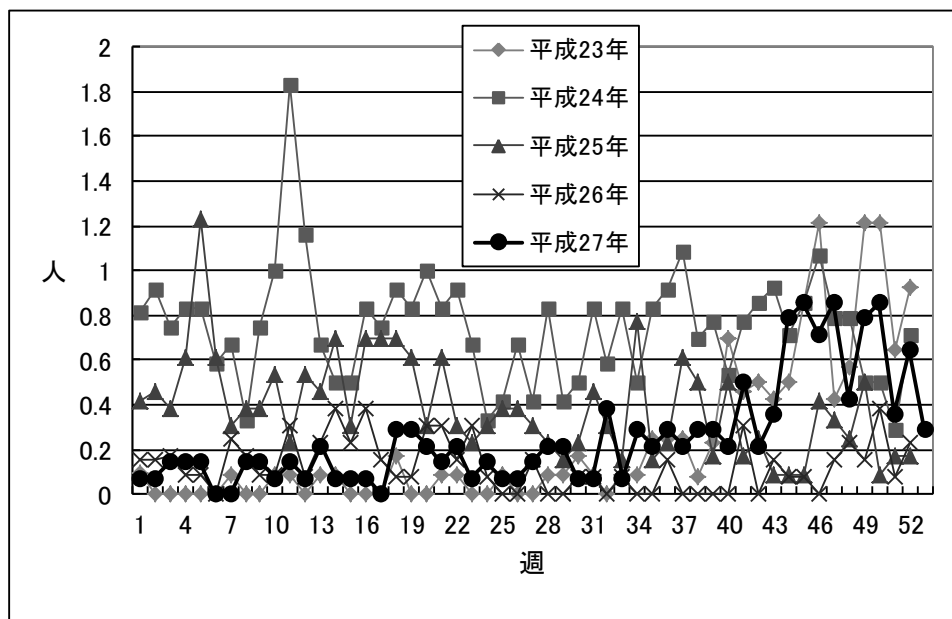
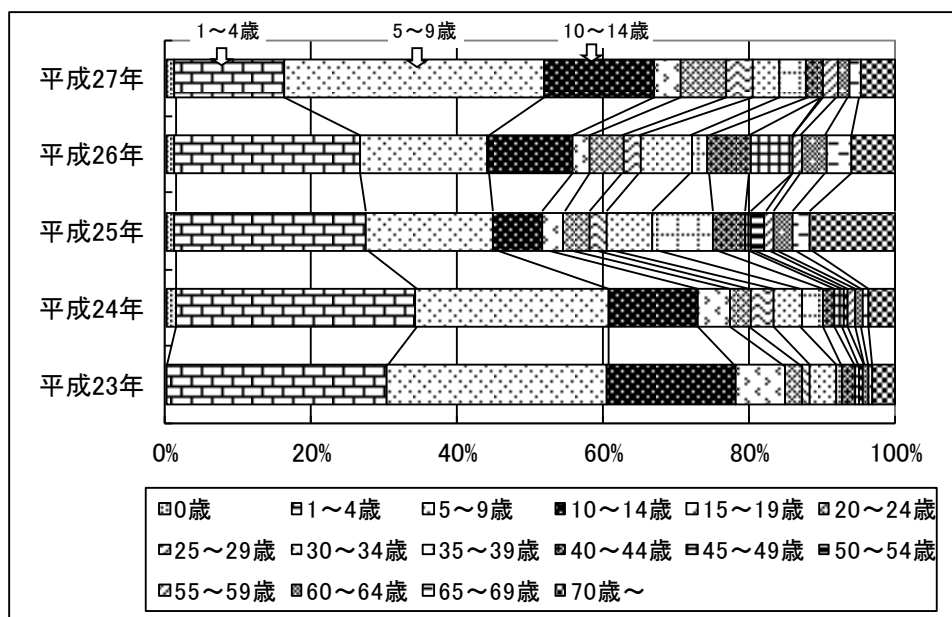


図 22-2 マイコプラズマ肺炎の年齢階級別患者発生割合



(21) クラミジア肺炎（オウム病を除く）

年間患者数は1人（定点あたり0.07人）で、39週（9月下旬）に70歳以上の男性患者が発生した。平成23年以降、年間患者数は15人、25人、8人と推移したが、平成26年は患者の発生がなかった。

図 23-1 クラミジア肺炎（オウム病を除く）の週別定点あたり患者発生状況

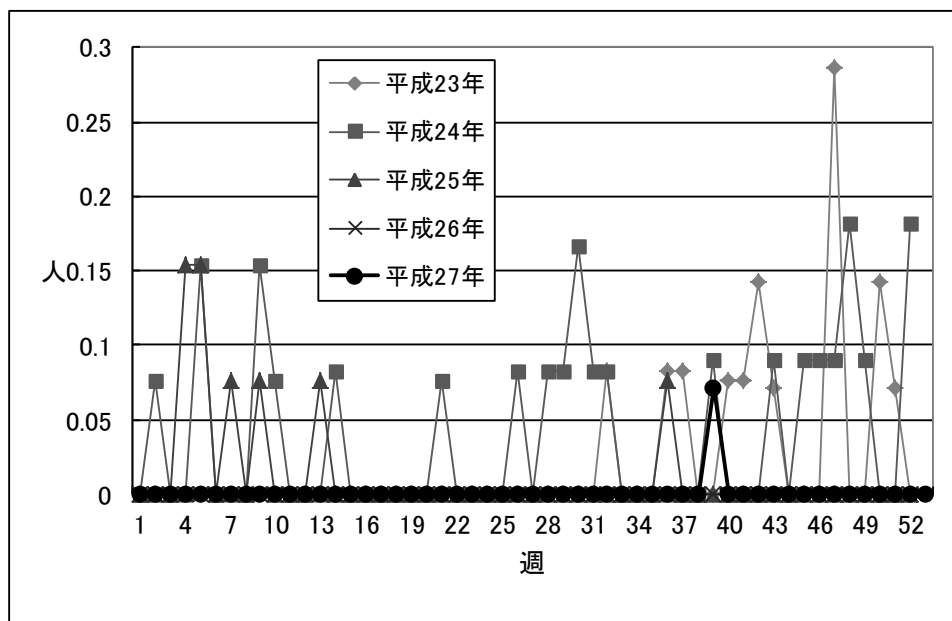
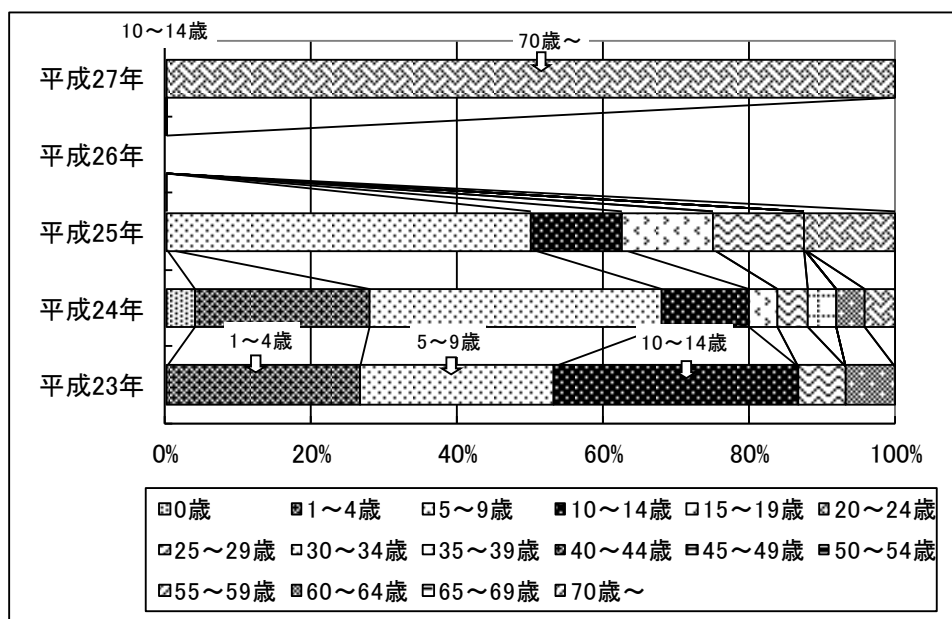


図 23-2 クラミジア肺炎（オウム病を除く）の年齢階級別患者発生割合



(22) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

本疾病は平成25年10月24日より基幹定点対象疾病に追加された。平成27年の年間患者数は94人（定点あたり6.71人）で、昨年の81人（6.33人）より増加した。

週別定点あたり患者数は14週（4月上旬）をピーク（0.71人）に、8週（2月中旬）から24週（6月中旬）に多くなった。

年齢階級別患者発生割合は1～4歳62%、0歳22%、5～9歳12%の順で多く、10歳未満の患者が全体の96%を占めていた。

図 24-1 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の週別定点あたり患者発生状況

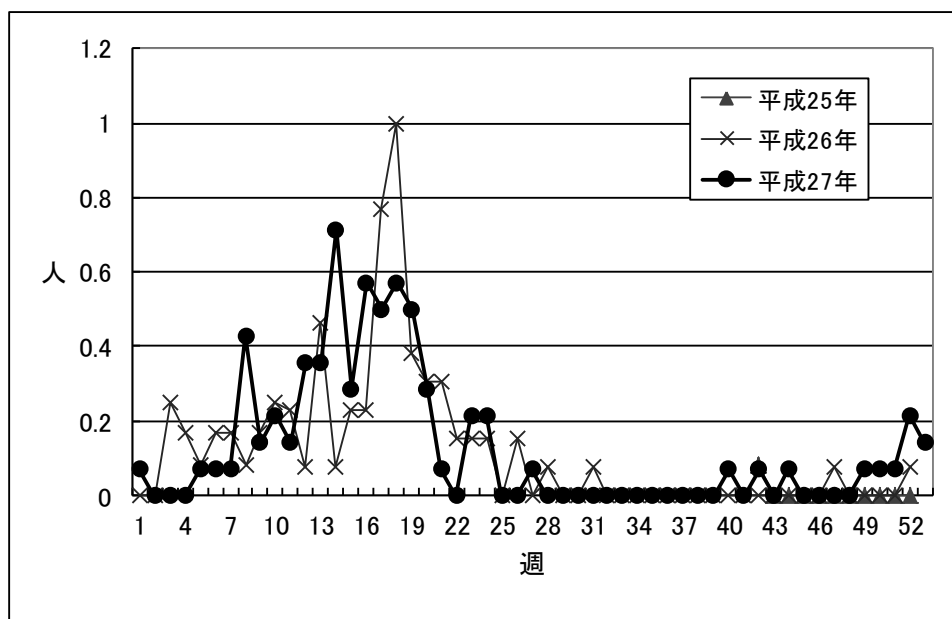
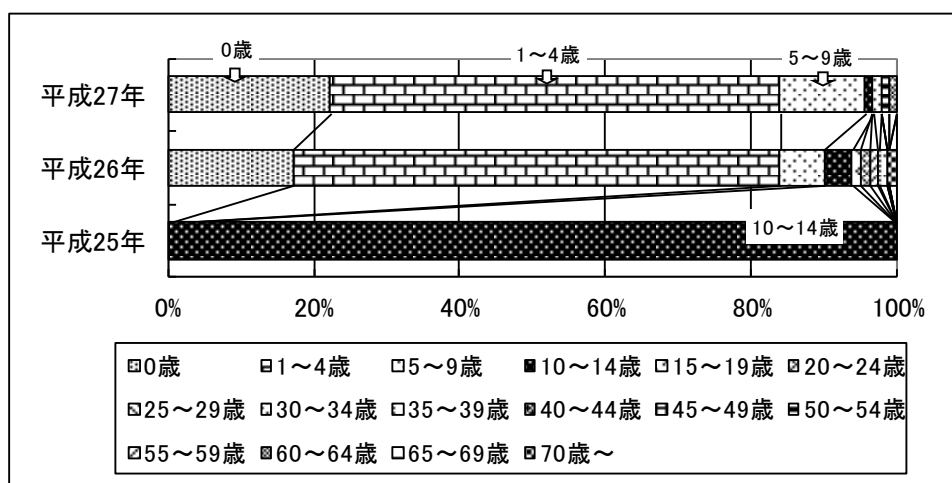


図 24-2 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の年齢階級別患者発生割合



(23) 性器クラミジア感染症

年間患者数は880人（定点あたり19.13人）で、昨年の873人（18.98人）よりわずかに増加した。性別患者発生割合は、男性55%、女性45%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は20～24歳21%、30～34歳19%、25～29歳18%、35～39歳13%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の93%を占めていた。女性は20～24歳32%、25～29歳23%、15～19歳16%、30～34歳13%の順で多く、15～39歳の患者が女性患者の84%を占めていた。

図 25-1 性器クラミジア感染症の月別定点あたり患者発生状況

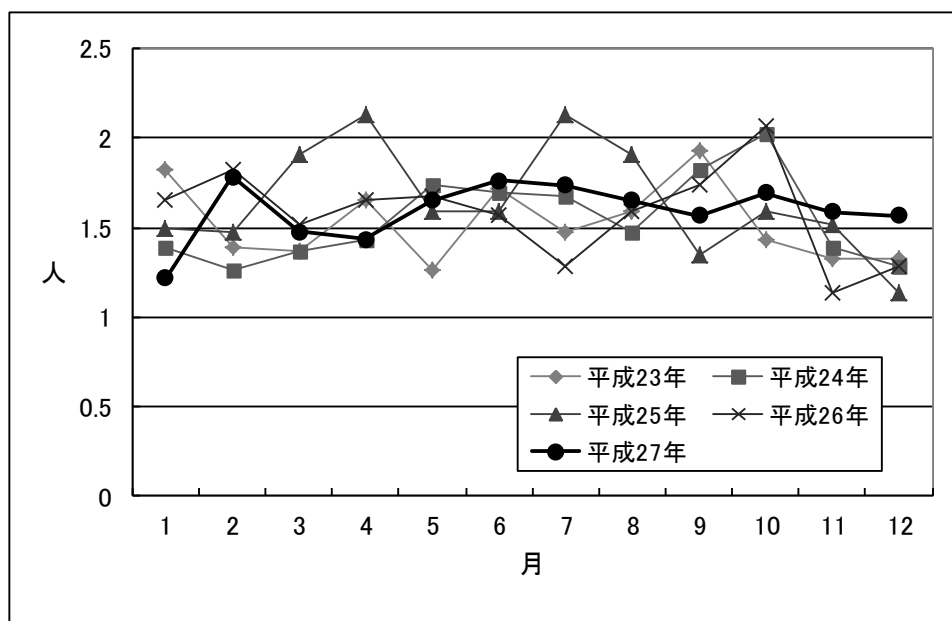


図 25-2 性器クラミジア感染症の性別患者発生割合

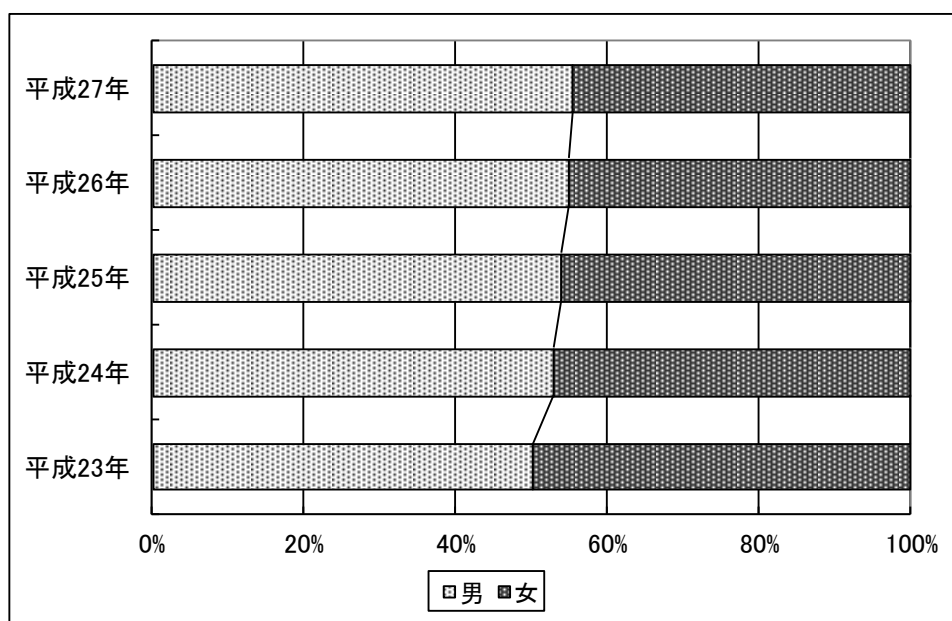


図 25-3 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

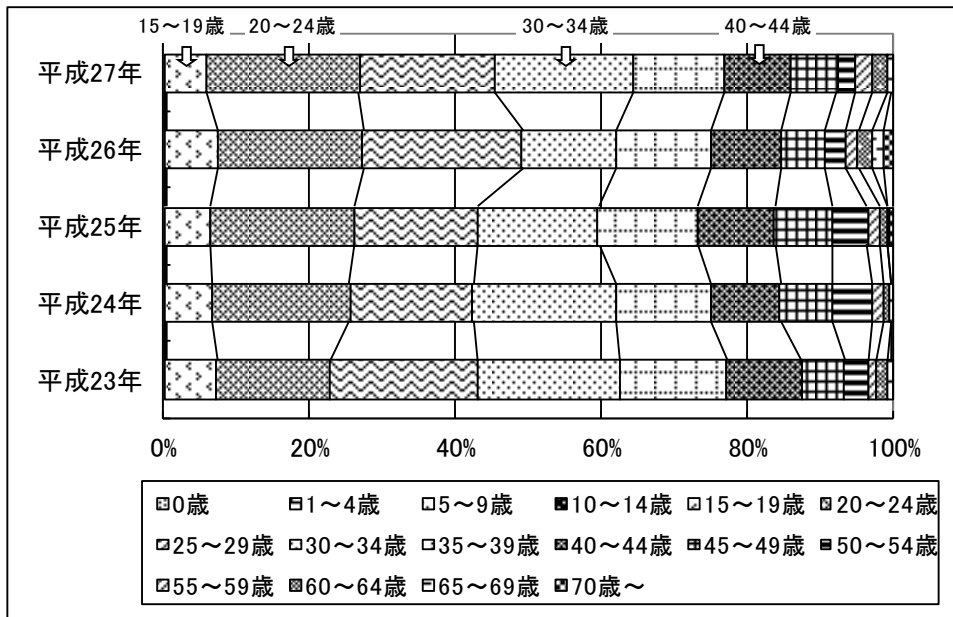
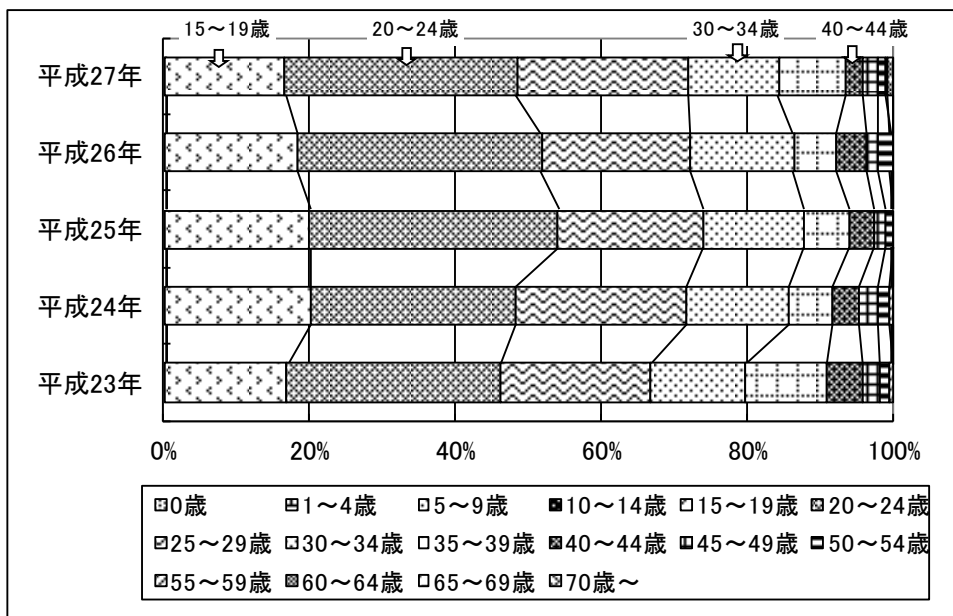


図 25-4 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(24) 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者数は303人（定点あたり6.59人）で、昨年の317人（6.89人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は、男性27%、女性73%と女性の割合が大きくなった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は30～34歳と45～49歳15%、40～44歳14%、25～29歳と35～39歳11%の順で多く、25～54歳の患者が男性患者の74%を占めていた。女性は25～29歳13%、20～24歳、35～39歳、40～44歳、50～54歳、及び70歳以上が10%となり、年齢階級による差は小さかった。

図 26-1 性器ヘルペスウイルス感染症の月別定点あたり患者発生状況

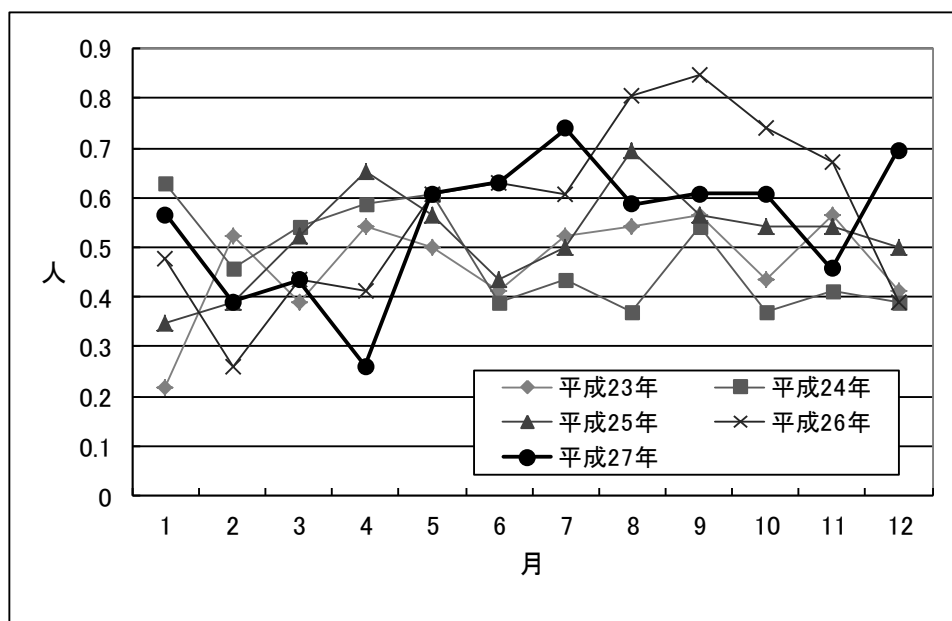


図 26-2 性器ヘルペスウイルス感染症の性別患者発生割合

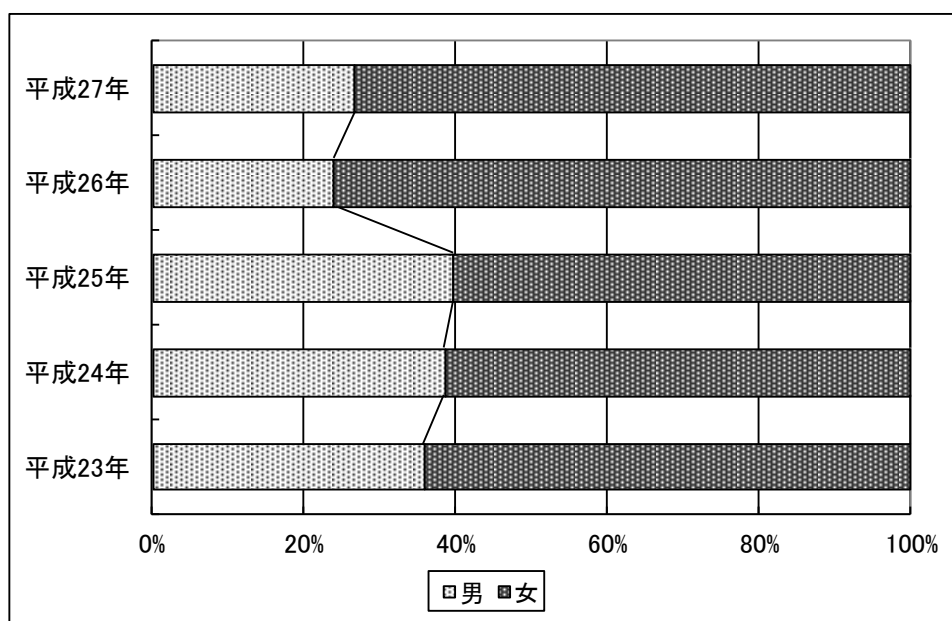


図 26-3 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

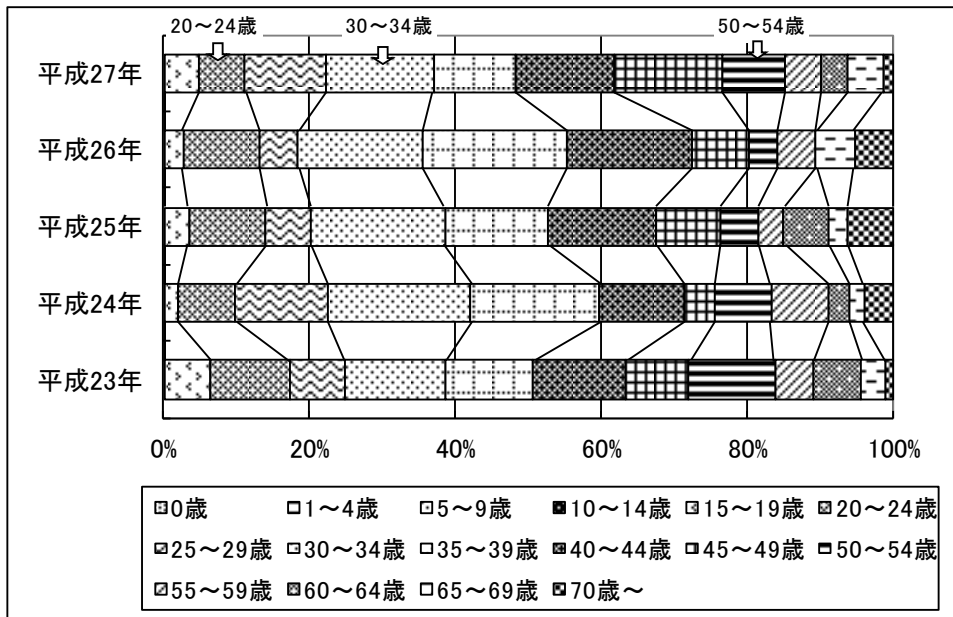
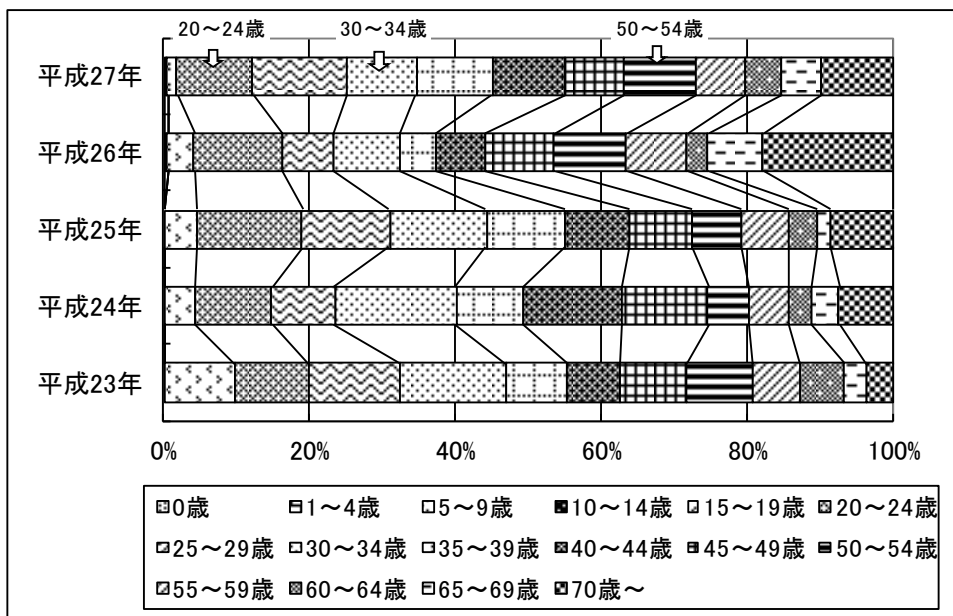


図 26-3 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(25) 尖圭コンジローマ

年間患者数は185人（定点あたり4.02人）で、昨年の144人（3.13人）より増加した。性別患者発生割合は、男性72%、女性28%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は20～24歳14%、30～34歳、35～39歳、及び40～44歳13%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の74%を占めていた。女性は15～19歳22%、20～24歳20%、25～29歳18%、35～39歳と40～44歳10%の順で多く、15～44歳の患者が女性患者の84%を占めていた。

図 27-1 尖圭コンジローマの月別定点あたり患者発生状況

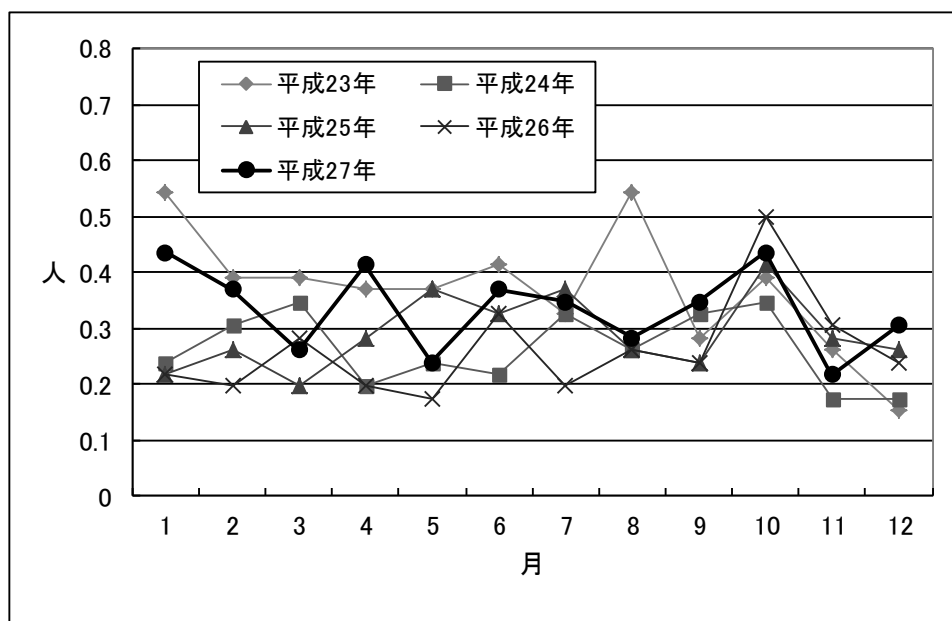


図 27-2 尖圭コンジローマの性別患者発生割合

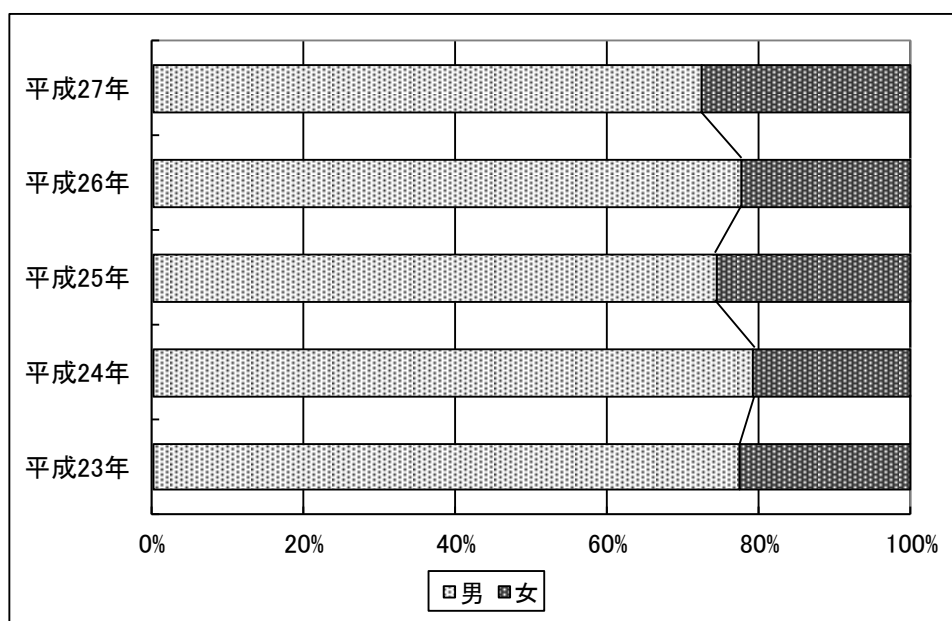


図 27-3 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（男性）

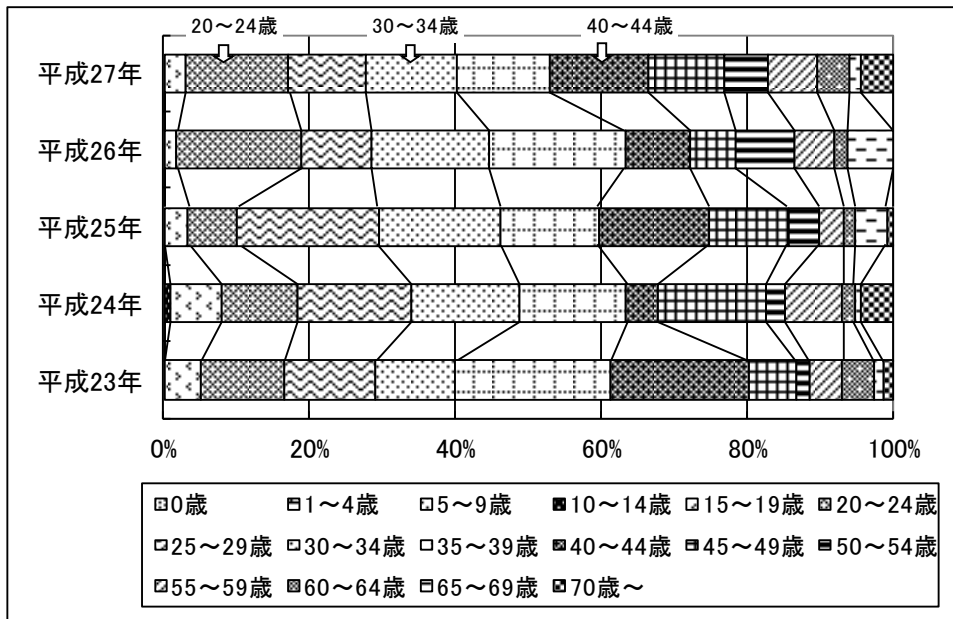
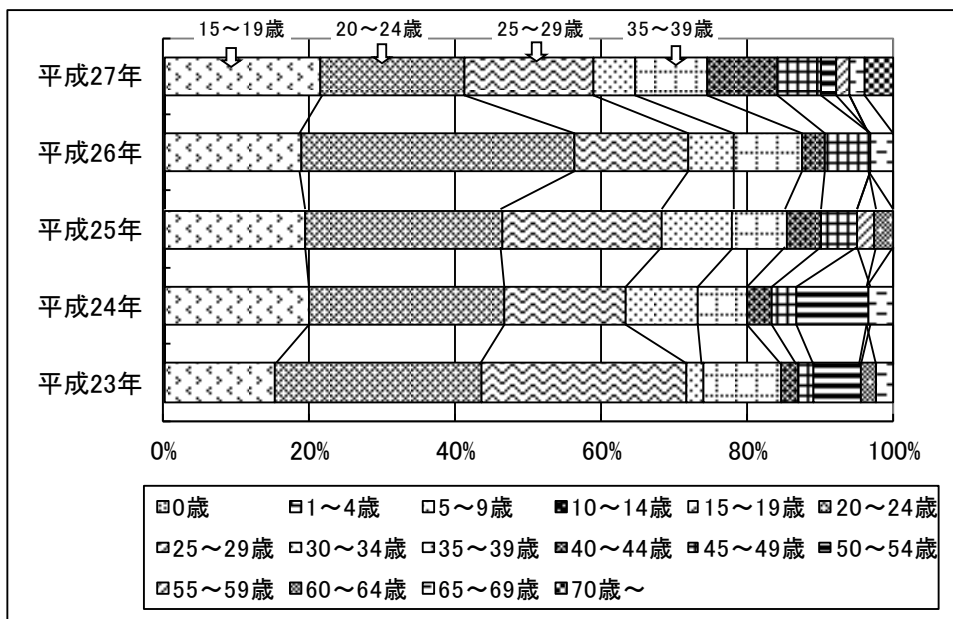


図 27-3 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（女性）



(26) 淋菌感染症

年間患者数は348人（定点あたり7.57人）で、昨年の374人（8.13人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は例年と同様で、男性89%、女性11%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は20～24歳20%、25～29歳19%、30～34歳14%、35～39歳13%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の77%を占めていた。女性は20～24歳43%、25～29歳25%、15～19歳15%の順で多く、15～29歳の患者が女性患者の83%を占めていた。

図 28-1 淋菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

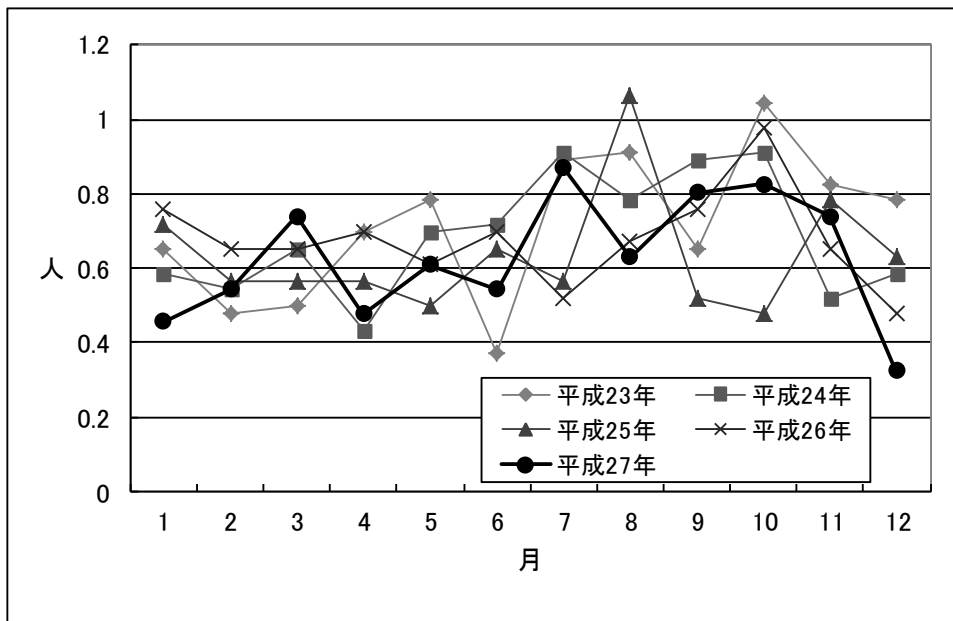


図 28-2 淋菌感染症の性別患者発生割合

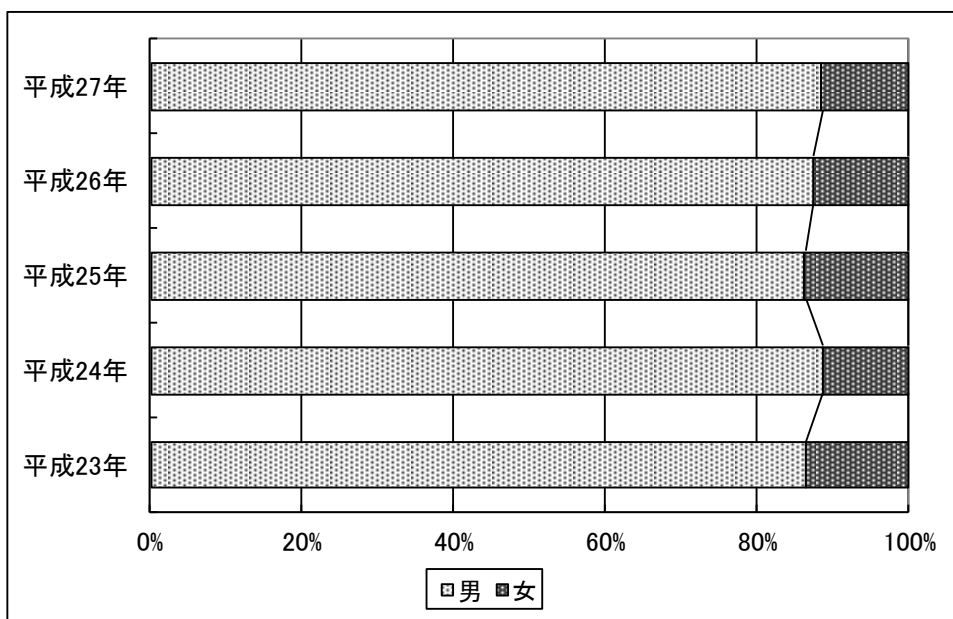


図 28-3 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

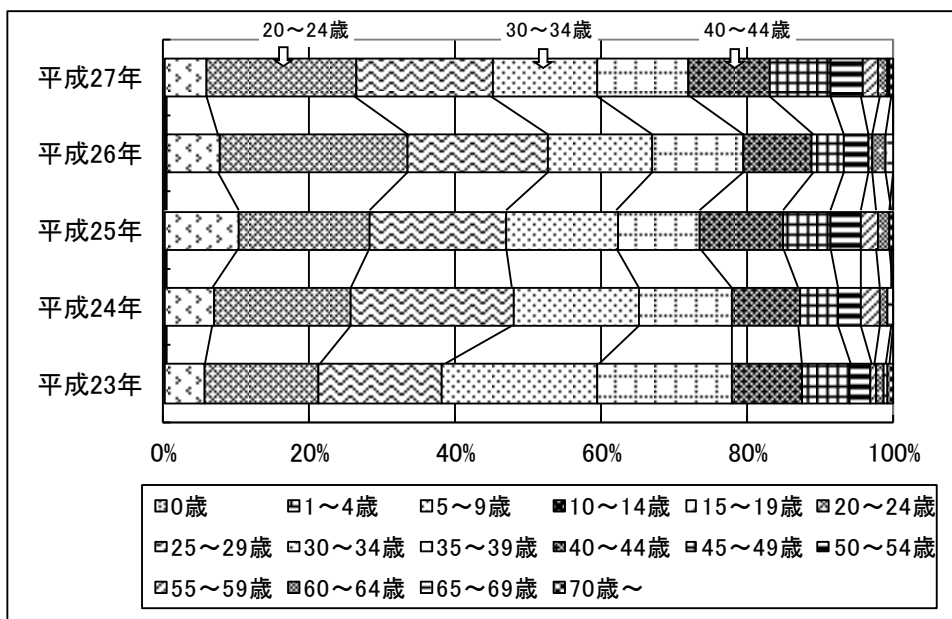
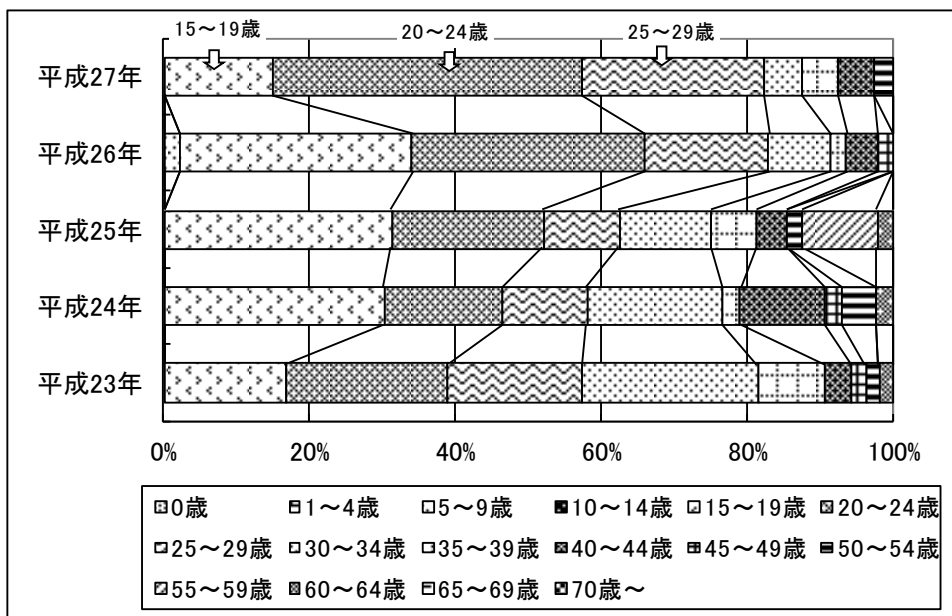


図 28-4 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(27) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間患者数は408人（定点あたり29.14人）で、昨年の525人（37.50人）より減少した。
 年齢階級別患者発生割合は例年と同様で、70歳以上の患者が全体の65%、60歳以上が全体の79%を占めていた。

図 29-1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

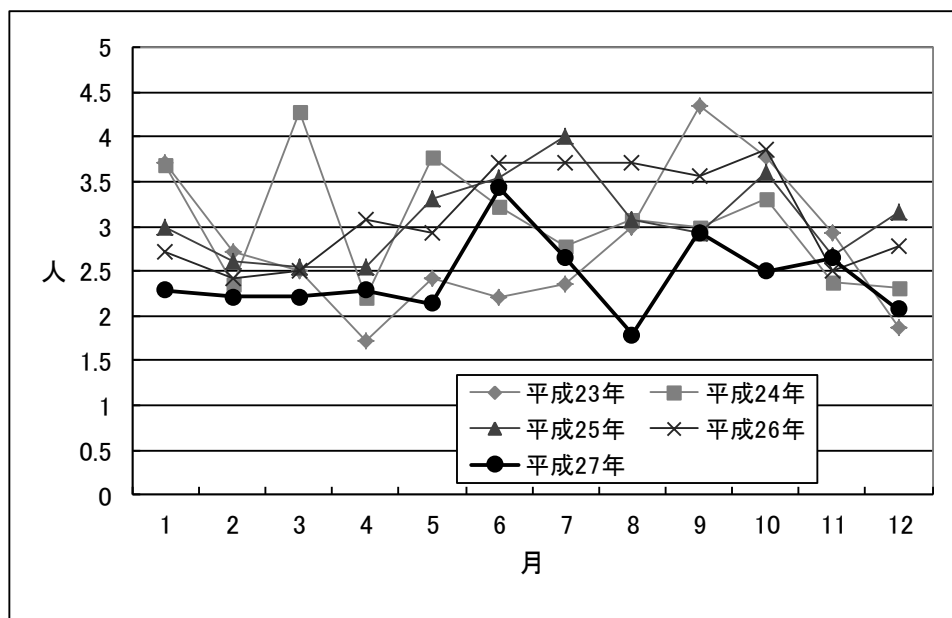
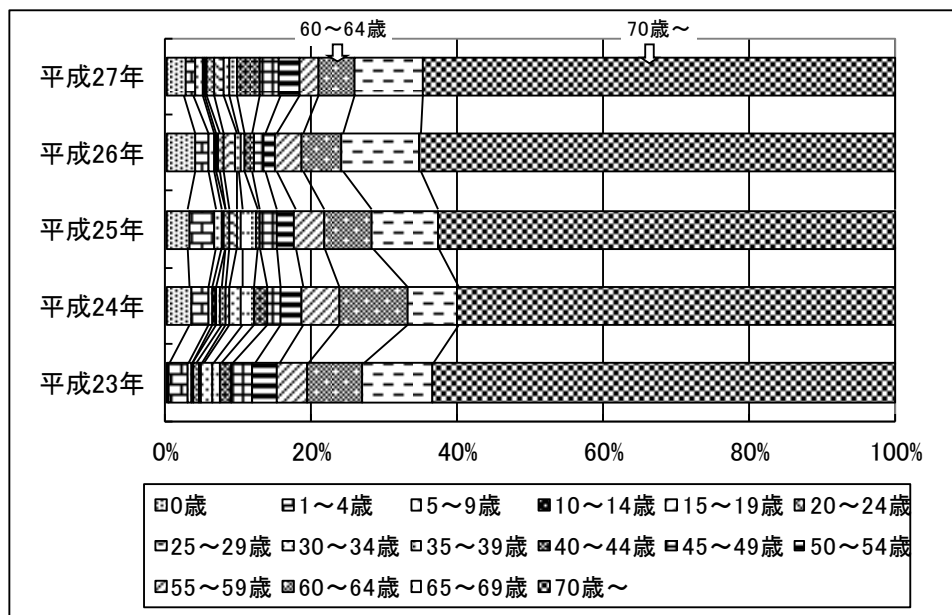


図 29-2 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(28) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間患者数は69人(定点あたり4.93人)で、昨年の75人(5.36人)よりわずかに減少した。年齢階級別患者発生割合は、70歳以上の患者が全体の49%、60歳以上が全体の75%を占めていた。

図 30-1 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

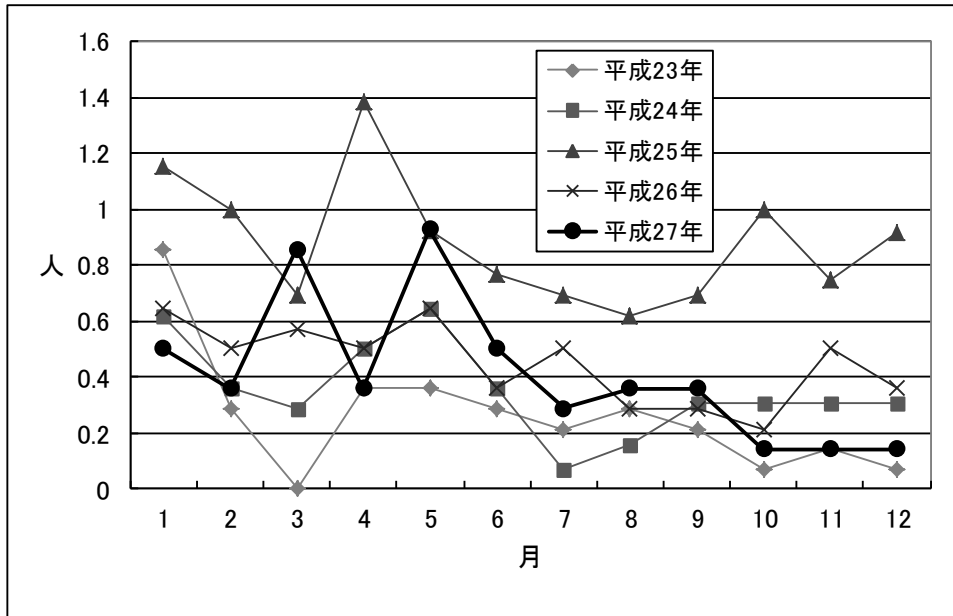
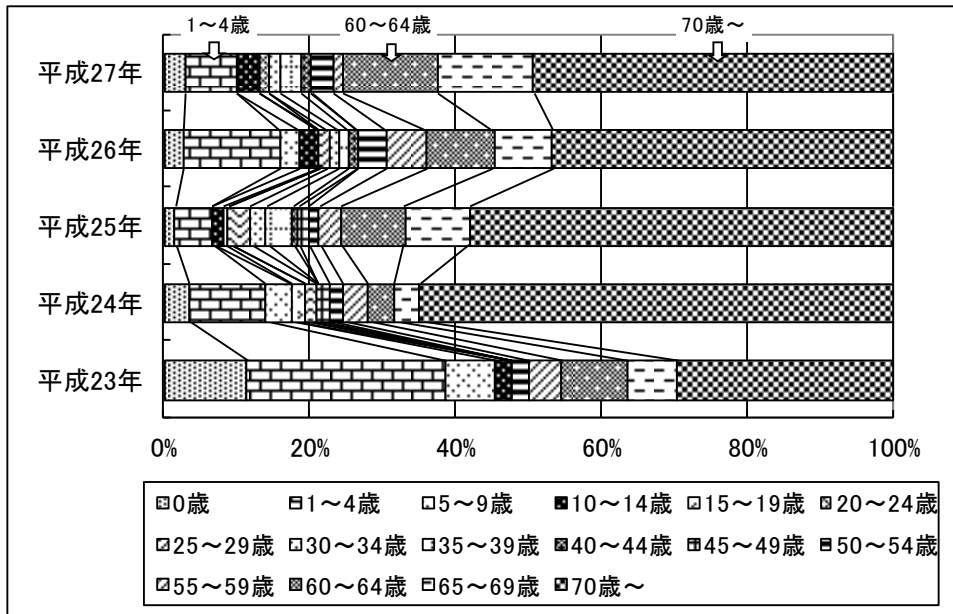


図 30-2 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(29) 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間患者数は4人（定点あたり0.29人）で、昨年の10人（0.71人）より減少した。
 年齢階級別患者数は70歳以上が3人、65～69歳が1人であった。

図 31-1 薬剤耐性緑膿菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

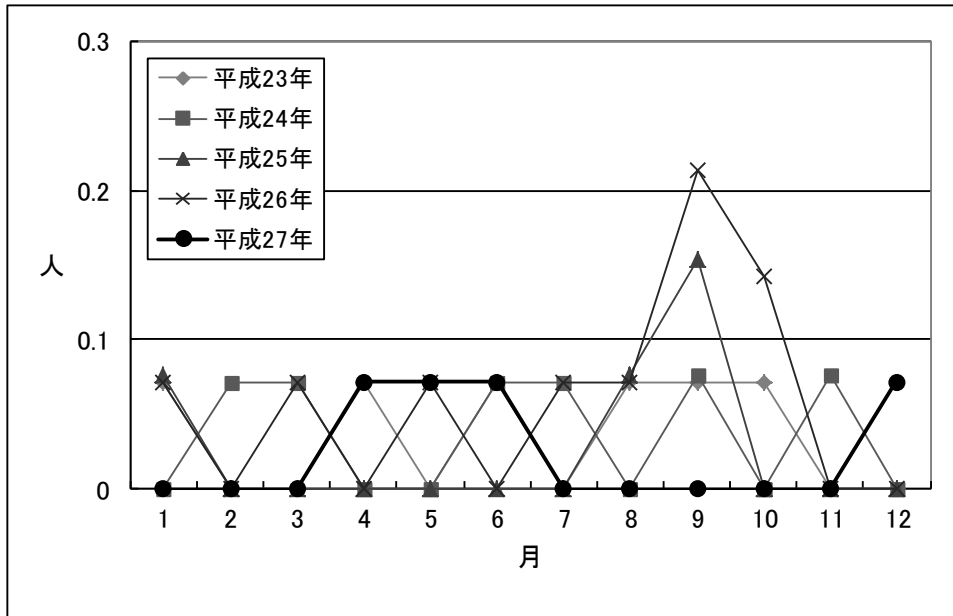
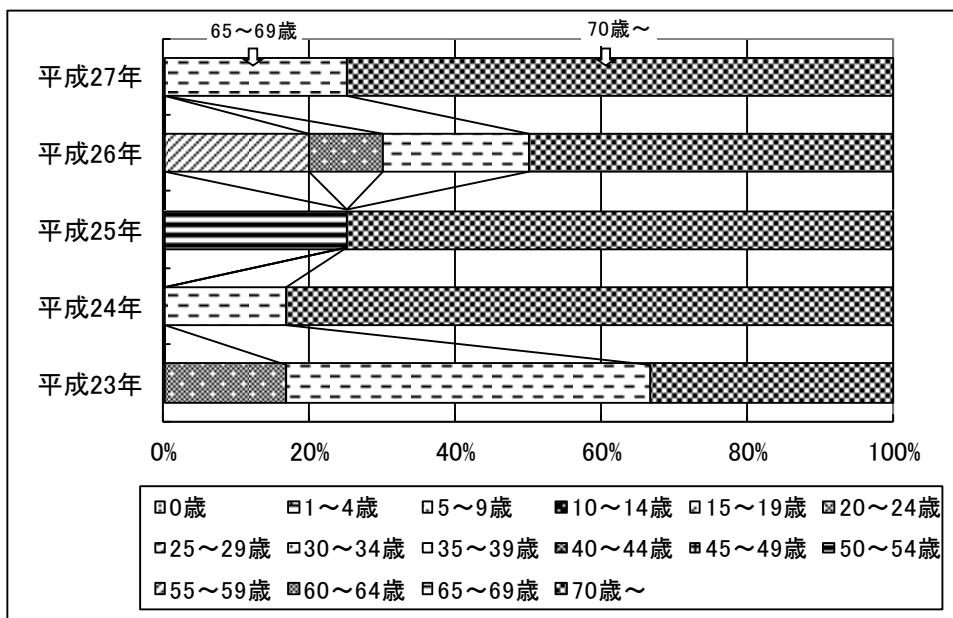


図 31-2 薬剤耐性緑膿菌感染症の年齢階級別患者発生割合



3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例（平成 27 年）

年月日	保健所	血清型	毒素型 (VT)	感染者数 (株数)	感染者間の関係等	PFGE型	MLVA型※
H27.02.09	赤穂	O157:H7	2	3	家族(保菌者1)	150157001	15m0013 (14c066)
H27.04.22	龍野	O157:H7	1&2	1		—	15m0022
H27.05.26	明石	O168:HUT	2	1		—	—
H27.06.02	明石	O157:H7	2	1		150157002	13m0327
H27.06.02	洲本	O103:H2	1	1		—	—
H27.06.08	洲本	O26:H11	1	3	家族(保菌者1)	15026001	15m2040, 2041 (15c015)
H27.06.09	明石	O157:H7	2	1	6/2(明石)の家族、保菌者	150157002	13m0327
H27.06.18	洲本	O26:H11	1	1		—	15m2039
H27.06.18	赤穂	O26:H11	1	1		—	15m2040 (15c015)
H27.06.23	洲本	O26:H11	1	1	保菌者	—	15m2043
H27.06.23	伊丹	O157:H7	1&2	1		—	15m0057 (15c014)
H27.06.25	加東	O157:H7	1&2	1		150157003	15m0046 (15c014)
H27.06.25	加東	O157:H7	1&2	1	同じ飲食店利用	150157004	15m0099 (15c011)
H27.06.25	加東	O157:H7	1&2	1		150157004	15m0099 (15c011)
H27.07.08	伊丹	O157:H7	1&2	1		150157004	15m0099 (15c011)
H27.07.14	宝塚	O157:H7	2	1	食中毒事例関連株	150157005	15m0094
H27.07.15	加古川	O157:H7	1&2	1		150157004	15m0099 (15c011)
H27.07.28	芦屋	O157:H7	2	2	食中毒事例関連株	150157005, 5b	15m0094
H27.07.28	洲本	O157:H7	2	1		—	15m0171
H27.08.03	赤穂	O157:H7-	1&2	1		—	15m0064 (15c016)
H27.08.04	丹波	O26:H11	1	1		—	14m2016
H27.08.04	龍野	O157:H7	2	1		150157006	15m0170
H27.08.04	加古川	O157:H7	1&2	1		—	15m0179
H27.08.05	明石	O157:H7	1&2	1		—	14m0084
H27.08.06	伊丹	O157:H7	1&2	1		—	15m0053
H27.08.06	伊丹	O157:H7	2	1		—	14m0024
H27.08.10	龍野	O157:H7	2	2	8/4(龍野)の家族、保菌者	150157006	15m0170
H27.08.12	加古川	O157:H7-	1&2	1		—	15m0168
H27.08.13	伊丹	O26:H-	1	1		—	15m2093
H27.09.03	龍野	O26:H11	1	2	家族(保菌者1)	15026002	15m2116
H27.09.03	龍野	O26:H11	1	1	9/3(龍野)と同じ保育所	15026003	15m2116
H27.09.04	洲本	O157:H7	2	1	保菌者	—	15m0281
H27.09.11	伊丹	O157:H7	2	1		—	15m0282
H27.09.11	伊丹	O157:H7	1&2	1		—	15m0291
H27.09.15	伊丹	O157:H7	1&2	1		—	15m0295
H27.09.17	宝塚	O157:H7	2	1	食中毒事例関連株	150157007	14m0112 (15c030)
H27.09.17	加古川	O26:H11	1	1	保菌者	—	15m2115
H27.09.24	宝塚	O157:H7	1&2	2	家族	150157008	15m0294
H27.10.07	洲本	O157:H7	2	3	家族(保菌者2)	150157009	15m0346
H27.11.19	加東	O157:H7	2	1		—	13m0662
H27.12.08	朝来	O157:H7	2	4	家族(保菌者2)	150157010	15m0420

※国立感染症研究所で実施

(2) 細菌による食中毒(疑)事例(平成27年)

年月日	保健所	病原菌	件数	当所での検査等
H27.09.10	伊丹	腸管出血性大腸菌	1	腸管出血性大腸菌の同定、PFGE
H27.09.14	伊丹	腸管出血性大腸菌	1	腸管出血性大腸菌の同定、PFGE
H27.09.17	伊丹	腸管出血性大腸菌	2	腸管出血性大腸菌の同定、PFGE

(3) その他の細菌検査(平成27年)

年月日	保健所	病原菌	件数	当所での検査等
H27.01.28	赤穂	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	病原遺伝子検出、PFGE型、プラスミド型*
H27.02.13	芦屋	レジオネラ	1	喀痰からの菌分離
H27.02.13	豊岡	レジオネラ	2	PFGE型、ST No.*
H27.05.14	豊岡	肺炎球菌	1	肺炎球菌遺伝子検査、血清型遺伝子検査
H27.07.08	伊丹	赤痢菌	1	性状試験、血清型別、病原遺伝子検出、MLVA型*
H27.10.06	宝塚	チフス	1	血清型別、ファージ型*
H27.10.30	芦屋	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	菌種の同定、薬剤感受性試験、薬剤耐性遺伝子の検出
H27.11.02	加古川	溶血性連鎖球菌	1	T型別*、M型別*、毒素型*
H27.12.22	洲本	サルモネラ	1	血清型別
H27.12.25	芦屋	コレラ	1	コレラ菌の同定、コレラ毒素遺伝子の検出

*国立感染症研究所で実施

(4) クドア(ヒラメ寄生虫)の検査(平成27年)

月日	保健所	病原体	検査件数	陽性検体		陰性検体	
H27.02.02	豊岡	クドア	2	0		2	カンパチ、タイ
H27.07.24	伊丹	クドア	1	0		1	患者便
H28.07.25	伊丹	クドア	1	0		1	患者便
H27.08.16	豊岡	クドア	1	0		1	ヒラメ
H27.09.07	洲本	クドア	5	0		5	カンパチ
H27.12.17	豊岡	クドア	6	0		6	ヒラメ、患者便

(5) 結核QFT検査(平成27年)

年月日	保健所	件数	陽性	判定保留	陰性	判定不可
H27.05.25	加東	27	3	3	21	0
H27.06.16	丹波	28	3	2	23	0
H27.06.18	丹波	28	0	1	27	0
H27.07.09	朝来	33	1	3	29	0
H27.07.28	丹波	27	1	3	23	0
H27.08.04	丹波	25	1	2	22	0
H27.10.01	朝来	32	0	1	31	0
H27.12.09	丹波	36	0	1	34	1

(6) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査(平成27年)

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子 JATA(12)-VNTR型		薬剤感受性試験* ² (耐性を示した薬剤)
H27.01.26	芦屋	MY14052	434363745783	C	
H27.01.26	龍野	MY14053	413274745785	B	
H27.01.26	龍野	MY14054	430333744184		
H27.01.26	龍野	MY14055	413274745785	B	
H27.01.26	龍野	MY14056	133373745785		
H27.02.02	赤穂	MY14057	333463955725		

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子 JATA(12)-VNTR型	* ¹	薬剤感受性試験* ² (耐性を示した薬剤)
H27.02.02	赤穂	MY14058	333473755725	A	
H27.02.02	赤穂	MY14059	433574645775		
H27.02.02	赤穂	MY14060	334353724E92		
H27.03.03	加古川	MY14061	413274745775	H	
H27.03.03	加古川	MY14062	122322542363		
H27.02.25	加古川	MY14063	413274744785	D	
H27.02.25	加古川	MY14064	134353545793		
H27.02.25	加古川	MY14065	221322543A53		
H27.02.25	加古川	MY14066	434363745783	C	
H27.02.25	加古川	MY14067	434373745783		
H27.03.04	洲本	MY14068	433333845984		
H27.03.04	洲本	MY14069	2532C3644A62		
H27.03.04	洲本	MY14070	433333745794		
H27.03.04	洲本	MY14071	221242543A53		
H27.03.04	洲本	MY14072	333473755725	A	
H27.03.20	龍野	MY14073	3332737457B5		
H27.03.20	龍野	MY14074	231322543D53		
H27.03.20	龍野	MY14075	593263744A32		
H27.03.20	龍野	MY14076	413264745475		
H27.03.20	加古川	MY14078	433363745685		
H27.03.20	加古川	MY14079	231342543553		
H27.03.20	加古川	MY14080	231342643E43		
H27.03.20	加古川	MY14081	413274744785	D	
H27.03.20	加古川	MY14082	252112123674		
H27.03.20	加古川	MY14083	343474655725		
H27.03.27	加古川	MY14084	433323645784		
H27.03.30	伊丹	MY14085	434363445783	E	
H27.03.30	伊丹	MY14086	434363745783	C	
H27.03.30	伊丹	MY14087	334353724E94	I	
H27.03.30	伊丹	MY14088	334353724E94	I	
H27.04.22	加古川	MY15001	413275744785		耐性なし
H27.06.02	洲本	MY15002	433363744783		SM
H27.06.02	洲本	MY15003	233363725A84		耐性なし
H27.06.02	洲本	MY15004	533333445785		
H27.06.02	洲本	MY15005	433333646764		耐性なし
H27.06.10	芦屋	MY15007	434363745783	C	
H27.06.10	加古川	MY15008	433323745774		
H27.06.10	加古川	MY15009	413264745775	J	
H27.06.10	加古川	MY15010	352123122D84		耐性なし
H27.06.10	加古川	MY15011	4332739457A7		
H27.07.02	加古川	MY15012	433373845785		
H27.07.02	加古川	MY15013	413264745885		
H27.06.29	加東	MY15014	231222543B53		
H27.06.29	加東	MY15015	431333745784		
H27.06.29	加東	MY15016	333333345785		
H27.06.29	加東	MY15017	233324522861		
H27.06.29	加東	MY15018	413274845795		耐性なし
H27.06.29	加東	MY15019	413274745775	H	耐性なし
H27.06.29	加東	MY15020	333333745484	L	
H27.07.02	加古川	MY15021	433323746794		
H27.07.02	加古川	MY15022	413264735785		
H27.07.16	加古川	MY15023	332242433963		

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子 JATA(12)-VNTR型	*1	薬剤感受性試験*2 (耐性を示した薬剤)
H27.07.16	加古川	MY15024	43332535794		
H27.07.16	加古川	MY15025	3343564257A4		
H27.07.16	加古川	MY15026	433363745885	F	
H27.07.16	加東	MY15027	333473755725	A	
H27.07.31	洲本	MY15028	434363445783	E	
H27.07.31	洲本	MY15029	433363745795		
H27.07.31	洲本	MY15030	333413755725		
H27.07.31	洲本	MY15031	333473755725	A	耐性なし
H27.08.05	加古川	MY15032	333473755725	A	
H27.08.05	加古川	MY15033	415274745A85		
H27.08.05	加古川	MY15034	434353745783	K	
H27.08.05	加古川	MY15035	131222233973		
H27.08.11	龍野	MY15036	434353745783	K	
H27.08.11	龍野	MY15037	333333745484	L	
H27.08.11	龍野	MY15038	343463755725		
H27.08.13	加古川	MY15039	413274645794		
H27.08.20	加古川	MY15040	413274745775	H	
H27.09.07	龍野	MY15041	213274745786		
H27.09.16	加古川	MY15042	413244745785		
H27.09.16	加古川	MY15043	221342543A43		
H27.09.16	加古川	MY15044	433333746574		
H27.09.16	加古川	MY15045	234363845783		
H27.10.05	朝来	MY15046	333463755725	G	
H27.10.05	朝来	MY15047	333463755725	G	
H27.10.05	豊岡	MY15048	413274745735	M	
H27.10.05	豊岡	MY15049	413274745735	M	
H27.10.07	加古川	MY15050	233373745785		
H27.10.07	加古川	MY15051	231332543C53		
H27.10.08	洲本	MY15052	733363645583		耐性なし
H27.10.08	洲本	MY15053	333473754725		
H27.10.08	洲本	MY15054	293253644A82		
H27.10.08	洲本	MY15055	413264745785		
H27.10.08	洲本	MY15056	533373645775		
H27.10.09	加東	MY15057	333493755725		
H27.10.09	赤穂	MY15058	413274745793	N	
H27.10.09	赤穂	MY15059	413274745793	N	
H27.10.09	赤穂	MY15060	413274745793	N	
H27.10.09	赤穂	MY15061	413274744785	D	
H27.10.09	赤穂	MY15062	4333X3745784		
H27.10.13	丹波	MY15063	413264745775	J	
H27.10.28	赤穂	MY15065	231342543D33		耐性なし
H27.11.04	中播磨	MY15066	333473755723		
H27.11.11	加古川	MY15067	434353745783	K	
H27.11.11	加古川	MY15068	252123124D74		
H27.11.11	加古川	MY15069	333473755725	A	
H27.11.11	加古川	MY15070	231342544C33		
H27.12.14	龍野	MY15071	433353545785		
H27.12.18	加古川	MY15072	433363745885	F	耐性なし

*1: JATA(12)-VNTR型が一致する菌株を同じアルファベットで表示した。

*2: 検査対象薬剤: INH(イソニアジド)、RFP(リファンピシン)、SM(硫酸ストレプトマイシン)、EB(塩酸エタンブトール)、KM(硫酸カナマイシン)、TH(エチオナミド)、EVM(硫酸エンビオマイシン)、PAS(パラアミノサリチル酸ナトリウム)、CS(サイクロセリン)、LVFX(レボフロキサシン)

(7) インフルエンザ流行予測調査検査成績 (平成 27 年)

検体採取年月	検体数	ウイルス検出数				
		A (H1N1) pdm09	A香港型	B型 (Victoria系統)	B型 (Yamagata系統)	陰性
H27.01	68	0	61	0	5	2
H27.02	39	1	32	0	6	0
H27.03	31	0	8	5	17	1
H27.04	6	0	0	0	4	2
H27.05	11	0	0	0	11	0
H27.06	2	0	0	0	2	0
H27.07	2	0	1	0	0	1
H27.08	1	1	0	0	0	0
H27.09	1	0	1	0	0	0
H27.10	2	0	2	0	0	0
H27.11	2	0	2	0	0	0
H27.12	6	0	4	2	0	0
合計	171	2	111	7	45	6

(8) 日本脳炎流行予測調査結果：ブタ血清中の HI 抗体価 (平成 27 年)

採血 年月日	検査頭数	HI 抗体価								陽性率 (%)	2ME 感受性 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥ 640		
H27.07.01	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.07.15	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.07.22	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.08.05	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.08.12	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.08.21	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.09.09	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27.09.23	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(9) 蚊媒介性感染症の検査 (平成 27 年)

疾患名	検体数	陽性数	渡航先	備考
デング熱	7	1 (デングウイルス 4 型)	フィリピン	遺伝子検査
		1 (デングウイルス 2 型)	タイ	
チクングニア熱	2	1	インド・シンガポール	遺伝子検査

(10) リケッチア等の検査 (平成 27 年)

疾患名	検体数	患者数 (陽性数)	備考
日本紅斑熱	14	6 名 (1 名)	遺伝子及び抗体検査
つつが虫病	12	4 名 (2 名)	遺伝子及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	10	6 名 (0 名)	遺伝子検査
レプトスピラ病	3	1 名 (0 名)	国立感染症研究所に検査依頼

(11) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果 (平成27年)

事例No.	月	日	保健所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
1		15	宝塚 加東	飲食店	食品疑い	カキ疑い		6	有症	1	1	NoVG II
2		15	宝塚	飲食店	食品疑い	カキ疑い	6	4	有症	2	2	NoVG I & G II
3		16	伊丹	飲食店	食品疑い	カキ	16	11	有症	1	1	NoVG II
4		20	加古川	飲食店	食品疑い	カキ	7	3	有症	1	1	NoVG II
5		22	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	153	44	有症	1	1	NoVG II
6		22	龍野	仕出し	食品疑い	不明	56	20	有症	11	9	NoVG II
7	1	24	赤穂 赤穂 赤穂 龍野	仕出し	食品疑い	不明	37	17	調理従事者	2		
									有症	2	2	NoVG II
									調理従事者	11	1	NoVG II
									拭き取り	10		
食品	8											
有症	1	1	NoVG II									
8		27	加東	仕出し	食品疑い	不明	40	27	有症	19	18	NoVG II
									調理従事者	3	3	NoVG II
9		30	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	32	6	有症	3	3	NoVG II
10		30	洲本	飲食店	食品疑い	不明	19	11	有症	6	6	NoVG II
11	2		加古川	飲食店	食品疑い	不明	12	11	有症	1	1	NoVG II
12		4	加古川 明石 赤穂	飲食店	食品疑い	不明	25	19	有症	4	3	NoVG II
									有症	1	1	NoVG II
									有症	1	1	NoVG II
13		5	洲本	弁当	食品疑い	不明	16	11	有症	9	9	NoVG II
									調理従事者	7	1	NoVG II
14		11	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	22	13	調理従事者	1	1	NoVG I
									拭き取り	5		
15	3	16	洲本	小学校	ヒトヒト			20	有症	3	3	NoVG II
									吐物	1		
16		16	洲本	飲食店	食品疑い	不明		2	有症	1		
17		17	明石	飲食店	食品疑い	不明	18	9	有症	8	8	NoVG I
									調理従事者	4	1	NoVG I
									拭き取り	5		
18		18	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	221	25	有症	10	10	NoVG II
									調理従事者	11	3	NoVG II
									拭き取り	10		
19		22	丹波	飲食店	食品疑い	不明	18	11	有症	6	6	NoV G II
									調理従事者	3	3	NoV G II
									拭き取り	5		
食品	4											
20	4	24	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	12	7	有症	1		
25		洲本	飲食店	食品疑い	不明	77	22	有症	7	5	NoV G I	
22		25	豊岡	飲食店	食品疑い	不明	29	13	有症	9	7	NoV G II
									調理従事者	5	1	NoV G II
拭き取り	10											
23		30	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	7	4	有症	1		
24		1	加東	飲食店	食品疑い	不明	16	10	有症	4		
25	5	13	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	5	4	有症	1		
18		宝塚	飲食店	食品疑い	不明	8	5	有症	1			
27	6	16	明石 加東	飲食店	食品疑い	不明	3	3	有症	1		
		19	芦屋	飲食店	食品疑い	不明	25	10	有症	1		
29		1	朝来	飲食店	食品疑い	不明	31	11	有症	5	4	NoV G I
									調理従事者	9		
30	7	4	芦屋	飲食店	食品疑い	不明	10	4	有症	2	2	NoV G I
10		伊丹	保育所	ヒトヒト		210	16	有症	2	2	NoV G I	
14		芦屋	仕出し	食品疑い	不明	22	14	有症	1	1	NoV G II	
16		宝塚	飲食店	食品疑い	不明			有症	1	1	NoV G I	
34	10	19	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	17	4	有症	1		
2		加東	旅館	食品疑い	不明	53	16	有症	2	1	NoV G I	
36		22	明石	飲食店	食品疑い	不明	25	20	有症	1	1	NoV G II
37	11	18	伊丹	保育所	ヒトヒト		259	35	有症	2	1	NoV G II
19		宝塚	飲食店	食品疑い	不明	64	24	有症	7	7	NoV G II	
39		1	伊丹	保育所	ヒトヒト		37	25	有症	2	2	NoV G II
40		8	加東	仕出し	食品疑い	不明	34	24	有症	14	11	NoV G II
									調理従事者	6	2	NoV G II
									拭き取り	10	1	NoV G II
41	12	11	朝来	飲食店	食品疑い	不明	60	15	有症	8	6	NoV G II
									調理従事者	5	3	NoV G II
拭き取り	5											
42		11	加古川	飲食店	食品疑い	不明	20	16	有症	2	2	NoV G II
									有症	3	3	NoV G II
43		12	加東	飲食店	食品疑い	不明	18	10	有症	5		

NoVG I : ノロウイルス G I, NoVG II : ノロウイルス G II, SaV : サポウイルス

(12) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数 (平成27年)

(インフルエンザの検体を除く)

(検体数)

	平成27年												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
患者数	45	36	51	60	75	62	68	71	51	54	72	71	716	
検体数	65	51	62	50	53	48	49	53	38	36	45	41	591	
検査材料	咽頭ぬぐい液	22	18	16	29	32	26	32	29	22	15	17	22	280
	鼻腔ぬぐい液	11	7	22	9	10	9	9	19	10	14	21	20	161
	髄液	6	6	12	4	12	4	9	3	1	7	3	5	72
	便	11	11	7	9	15	14	10	13	6	8	10	12	126
	尿	7	5	4	2	2	4	3	2	4	3	5	5	46
	血液	5	3	0	2	4	2	5	3	6	6	11	4	51
	気管吸引液	2	1	1	5	0	1	0	2	2	1	4	3	22
	その他	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	4

(検出件数)

疾患名	検出病原体	平成27年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
咽頭結膜熱	アデノウイルス 1型	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	アデノウイルス 2型	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
	アデノウイルス 3型	2	0	0	2	6	5	6	4	0	1	0	0	26
	アデノウイルス 4型	0	0	2	2	0	3	1	0	0	0	0	0	8
	アデノウイルス 5型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
手足口病	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	2	10	7	1	0	1	21
	コクサッキーウイルス A10型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	コクサッキーウイルス A16型	2	2	2	5	2	2	4	0	0	0	0	19	
	エコーウイルス 16型	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	ライノウイルス	1	0	2	2	0	1	0	0	3	0	0	0	9
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	5
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	2	0	1	1	0	1	4	1	2	0	0	0	12
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	
	コクサッキーウイルス A10型	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
	コクサッキーウイルス A16型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
	エコーウイルス 6型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	パルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	
マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
感染性胃腸炎	ノロウイルス GI	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	ノロウイルス GII	2	6	1	0	0	0	0	0	0	2	3	3	17
	ロタウイルスA群	1	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	7
	サポウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	5
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 5型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	アデノウイルス 41型	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	コクサッキーウイルス A16型	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B3型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	エコーウイルス 25型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	エンテロウイルス 71型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	ライノウイルス	0	1	1	0	3	1	0	0	0	1	0	0	7
ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
サイトメガロウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	

疾患名	検出病原体	平成27年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
発疹症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	7
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A16型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B4型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 16型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 18型	0	0	0	1	2	0	1	2	0	0	0	0	6
	ライノウイルス	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	EBウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	RSウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
RSウイルス感染症	RSウイルス	7	2	4	1	0	0	0	3	9	5	11	14	56
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	エンテロウイルス 68型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	ライノウイルス	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	9
百日咳	百日咳菌	1	0	0	0	3	0	0	0	0	2	2	0	8
	ライノウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	4
	RSウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	4
急性脳炎・脳症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	バルボウイルスB19	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	エコーウイルス18型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	サボウイルス	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	ライノウイルス	0	3	4	7	0	1	0	1	0	4	1	2	23
	RSウイルス	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0	3	1	9
	ヒトメタニューモウイルス	0	1	11	6	4	0	0	0	0	0	0	0	22
	パラインフルエンザウイルス 3型	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	5
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス A9型	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
	コクサッキーウイルス B4型	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	エンテロウイルス D68型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	アデノウイルス 2型	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	アデノウイルス 3型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	アデノウイルス 4型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
アデノウイルス 5型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
その他 (不明熱・けいれん等)	アデノウイルス 2型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	5
	エコーウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
	エコーウイルス 16型	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	ライノウイルス	0	0	1	2	1	0	0	2	0	2	2	1	11
	RSウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	4
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	5
	EBウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	水痘帯状疱疹ウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	バルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
	ノロウイルス GII	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	単純ヘルペスウイルス 1型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	肺炎球菌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
検出数(合計)		39	22	36	47	31	30	25	49	39	31	46	51	446

4. 資 料

(1) 全数把握対象疾病の患者数

付表1-1：全数把握対象疾病の年間患者数（平成27年）	5 2
付表1-2：全数把握対象疾病の週別患者数（届出のあった疾病）（平成27年）	5 3
付表1-3：全数把握対象疾病の保健所別患者数（届出のあった疾病）（平成27年）	5 4
付表1-4：全数把握対象疾病の年齢階級別患者数（届出のあった疾病）（平成27年）	5 5

(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数

付表2-1：週報対象疾病の週別患者数（平成27年）	5 6
付表2-2：週報対象疾病の週別定点あたり患者数（平成27年）	5 7
付表2-3：月報対象疾病の月別患者数（平成27年）	5 8
付表2-4：月報対象疾病の月別定点あたり患者数（平成27年）	5 8

(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数

付表3-1：週報対象疾病の保健所別患者数（平成27年）	5 9
付表3-2：週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数（平成27年）	6 0
付表3-3：月報対象疾病の保健所別患者数（平成27年）	6 1
付表3-4：月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数（平成27年）	6 1

(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数

付表4-1：週報対象疾病の年齢階級別患者数（平成27年）	6 2
付表4-2：週報対象疾病の年齢階級別患者割合（平成27年）	6 3
付表4-3：月報対象疾病の年齢階級別患者数（平成27年）	6 4
付表4-4：月報対象疾病の年齢階級別患者割合（平成27年）	6 4

(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数

付表5：月報対象疾病の性別患者数と割合（平成27年）	6 4
----------------------------	-----

付表1-1 全数把握対象疾病の年間患者数(平成27年)

疾 病 名		計	疾 病 名		計
一類感染症	エボラ出血熱	0	四類感染症 (2)	ニパウイルス感染症	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0		日本紅斑熱	9
	痘そう	0		日本脳炎	0
	南米出血熱	0		ハンタウイルス肺症候群	0
	ペスト	0		Bウイルス病	0
	マールブルグ病	0		鼻疽	0
	ラッサ熱	0		ブルセラ症	0
二類感染症	急性灰白髄炎	0		ベネズエラウマ脳炎	0
	結核	1215		ヘンドラウイルス感染症	0
	ジフテリア	0		発しんチフス	0
	重症急性呼吸器症候群* ^A	0		ボツリヌス症	0
	中東呼吸器症候群* ^{B*1}	0		マラリア	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0		野兔病	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)* ¹	0		ライム病	0
三類感染症	コレラ	1		リッサウイルス感染症	0
	細菌性赤痢	3		リフトバレー熱	0
	腸管出血性大腸菌感染症	103		類鼻疽	0
	腸チフス	2		レジオネラ症	63
パラチフス	3	レプトスピラ症		1	
四類感染症 (1)	E型肝炎	6		ロッキー山紅斑熱	0
	ウエストナイル熱* ^C	0		アメーバ赤痢	44
	A型肝炎	11		ウイルス性肝炎* ^F	21
	エキノコックス症	0		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	75
	黄熱	0		急性脳炎* ^G	18
	オウム病	0		クリプトスポリジウム症	0
	オムスク出血熱	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	7
	回帰熱	0		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17
	キャサヌル森林病	0		後天性免疫不全症候群	28
	Q熱	0	ジアルジア症	2	
	狂犬病	0	五類感染症		
	コクシジオイデス症	0	侵襲性インフルエンザ菌感染症	11	
	サル痘	0	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	
	重症熱性血小板減少症候群* ^D	0	侵襲性肺炎球菌感染症	108	
	腎症候性出血熱	0	水痘(入院例)	13	
	西部ウマ脳炎	0	先天性風しん症候群	0	
	ダニ媒介脳炎	0	梅毒	89	
	炭疽	0	播種性クリプトコックス症	2	
	チクングニア熱	1	破傷風	3	
	つつが虫病	5	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	
	デング熱	9	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	
	東部ウマ脳炎	0	風しん	5	
	鳥インフルエンザ* ^E	0	麻しん	4	
		薬剤耐性アシネトバクター感染症	0		

^A病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^B病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。*^Cウエストナイル脳炎を含む。*^D病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。*^EH5N1及びH7N9を除く。*^FE型肝炎及びA型肝炎を除く。*^Gウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*¹平成27年1月21日に、指定感染症から二類感染症に追加。

付表1-2 全数把握対象疾病の週別患者数(届出のあった疾病)(平成27年)

疾 病 名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
二類 感 染 症	結核	0	27	22	24	18	23	16	32	30	31	22	21	21	16	22	19	19	17	13	29	25	21	23	40	37	34	23
三類 感 染 症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	1	0	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	1	5	5	2	6	5	7
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	A型肝炎	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	レジオネラ症	0	1	0	3	1	0	1	1	0	1	0	2	0	0	1	0	1	2	0	1	2	2	1	0	4	1	1
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	1	0	2	0	1	1	0	1	1	0	2	1	0	1	2	1	0	0	1	1	2	2	1	1	0
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	0	0	2	1	0	0	1	3	4	0	1	1	2	0	2	0	1	0	1	2	2	0	0	2	2
	急性脳炎 ^{*B}	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	3
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	4	1	2	1	3	5	1	6	0	2	2	5	4	3	3	1	2	4	4	2	5	3	1	2	1	0
	水痘(入院例)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	梅毒	0	0	2	1	2	1	2	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	1	2	2	3	1	0	5	2	0
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名		28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	計	
二類 感 染 症	結核	27	25	16	27	30	26	27	25	21	24	23	17	20	19	14	20	20	29	31	31	20	29	14	25	22	8	1215	
三類 感 染 症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
	腸管出血性大腸菌感染症	3	3	4	6	2	1	5	2	2	11	6	0	4	0	0	0	3	2	1	1	0	1	1	2	0	0	103	
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	パラチフス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
四類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	11	
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5	
	デング熱	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	日本紅斑熱	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	レジオネラ症	2	2	1	1	4	1	2	1	5	1	3	0	1	0	0	1	1	3	1	3	0	0	1	0	1	2	63	
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	1	1	0	2	1	1	1	4	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	2	1	44		
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	1	0	1	0	0	1	0	21	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	0	1	1	3	1	2	2	1	5	1	4	2	0	2	5	1	2	1	3	3	2	1	2	0	75	
	急性脳炎 ^{*B}	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	18	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	17	
	後天性免疫不全症候群	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	28	
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	11	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	2	2	1	1	3	5	2	0	1	1	2	2	4	3	1	108	
	水痘(入院例)	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	13	
	梅毒	4	0	2	3	1	3	1	3	3	0	2	3	2	1	1	5	7	2	0	1	4	5	1	4	2	0	89	
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	破傷風	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	風しん	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5	
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	

^{*A}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*B}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-3 全数把握対象疾病の保健所別患者数(届出のあった疾病)(平成27年)

疾 病 名		神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
二 類 感 染 症	結核	418	140	88	86	21	68	70	63	85	53
三 類 感 染 症	コレラ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	24	9	3	3	2	12	6	6	4	5
	腸チフス	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	パラチフス	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
四 類 感 染 症	E型肝炎	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	A型肝炎	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	デング熱	3	2	0	1	0	1	1	0	0	0
	日本紅斑熱	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	14	7	5	5	4	4	1	7	5	3
	レプトスピラ症	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	20	2	4	5	1	4	3	1	1	2
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	10	1	2	1	0	0	0	1	3	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	25	3	10	15	1	0	0	1	4	7
	急性脳炎 ^{*B}	1	8	1	0	0	1	0	0	6	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	0	5	0	0	0	0	1	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	1	2	1	0	1	1	1	0	0
	後天性免疫不全症候群	12	4	3	2	0	0	0	4	1	1
	ジアルジア症	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	1	1	0	0	0	2	0	0	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	34	18	18	5	0	5	7	5	5	5
	水痘(入院例)	4	0	0	0	1	1	0	0	5	0
	梅毒	38	8	5	6	2	1	3	7	9	6
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	破傷風	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	風しん	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1
	麻しん	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名		龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
二 類 感 染 症	結核	19	19	8	8	5	17	47	1215
三 類 感 染 症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	1
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	3
	腸管出血性大腸菌感染症	7	6	0	0	3	2	11	103
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	2
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	3
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	1	0	0	6
	A型肝炎	0	0	0	1	0	0	1	11
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	1	0	0	0	0	0	1	5
	デング熱	0	0	0	0	1	0	0	9
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	7	9
	レジオネラ症	5	2	0	0	1	0	0	63
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	0	0	44
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	0	0	0	0	0	1	21
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	0	9	0	0	0	0	0	75
	急性脳炎 ^{*B}	0	0	0	0	0	0	0	18
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	2	0	1	0	1	0	17
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	1	0	0	0	28
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	1	0	0	0	0	0	11
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	3	0	1	1	108
	水痘(入院例)	0	0	0	0	0	2	0	13
	梅毒	1	1	0	1	0	1	0	89
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	3
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	5
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	4

^{*A}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*B}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-4 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数(届出のあった疾病)(平成27年)

疾 病 名		0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
二類 感 染 症	結核	5	3	9	7	9	28	23	31	39	49	67
三類 感 染 症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	腸管出血性大腸菌感染症	0	15	14	9	10	10	8	5	6	8	2
	腸チフス	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
四類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	2
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	1	0	0	1	4	4	10
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	1	0	0	0	3	3	1	1	5	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	急性脳炎 ^{*B}	2	9	4	1	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	3	5	3	3	6	4
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	15	2	0	0	0	0	1	3	1	3
	水痘(入院例)	1	1	3	0	0	1	2	1	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	1	16	9	10	13	9	7
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0
	麻しん	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0
疾 病 名		50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	計	
二類 感 染 症	結核	56	58	68	106	110	130	171	167	79	1215	
三類 感 染 症	コレラ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	細菌性赤痢	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
	腸管出血性大腸菌感染症	4	2	2	3	3	2	0	0	0	103	
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
四類 感 染 症	E型肝炎	1	2	2	1	0	0	0	0	0	6	
	A型肝炎	1	1	2	1	1	0	0	0	0	11	
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	つつが虫病	0	0	0	2	0	1	0	1	0	5	
	デング熱	0	0	1	0	1	0	0	0	0	9	
	日本紅斑熱	0	0	2	0	3	0	1	0	1	9	
	レジオネラ症	3	4	6	7	14	5	7	6	7	63	
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	5	9	1	7	0	2	0	0	0	44	
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	1	1	1	0	2	0	0	1	21	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	3	7	9	7	9	19	10	3	75	
	急性脳炎 ^{*B}	0	0	0	0	0	0	2	0	0	18	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	1	2	0	2	1	1	0	7	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	3	3	2	0	1	4	0	17	
	後天性免疫不全症候群	2	1	1	0	0	0	0	0	0	28	
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	0	0	0	1	2	2	11	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	7	10	12	9	9	12	9	7	108	
	水痘(入院例)	1	2	0	0	0	0	1	0	0	13	
	梅毒	5	2	5	6	3	0	3	0	0	89	
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
	破傷風	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3	
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	

^{*A}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*B}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表2-1 週報対象疾病の週別患者数(平成27年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	2655	7039	6839	7578	5348	3449	2160	1475	1011	717	780	877	583	522	314	391	498	321
RSウイルス感染症	115	217	150	137	134	112	104	62	61	62	92	38	22	23	12	9	27	12
咽頭結膜熱	25	64	36	77	45	49	58	54	46	53	42	32	42	60	45	49	58	64
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	229	210	255	242	269	224	270	284	323	271	291	245	203	206	293	304	255
感染性胃腸炎	327	1178	1057	1056	989	934	1057	1078	1068	1215	1136	1021	1111	913	908	1021	1185	1114
水痘	45	156	67	56	51	72	51	80	58	72	57	75	72	84	57	51	46	56
手足口病	5	39	36	49	84	75	81	76	79	101	105	145	126	130	124	228	287	290
伝染性紅斑	7	21	23	19	19	20	27	23	18	28	36	27	27	61	28	63	51	59
突発性発しん	5	49	43	50	42	54	51	42	67	53	62	49	49	54	69	69	69	51
百日咳	0	2	0	0	6	0	0	2	0	0	1	0	5	6	0	3	6	2
ヘルパンギーナ	1	2	8	2	6	9	2	2	4	2	3	2	2	1	4	6	11	13
流行性耳下腺炎	8	25	30	21	35	32	32	44	49	23	48	37	40	38	28	25	36	43
急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0
流行性角結膜炎	3	17	12	20	16	11	4	10	11	14	19	15	22	26	31	19	21	22
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	2	0	0	1
無菌性髄膜炎	0	0	0	3	2	0	1	1	2	0	1	1	1	1	0	0	0	2
マイコプラズマ肺炎	1	1	2	2	2	0	0	2	2	1	2	1	3	1	1	1	0	4
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1	0	0	0	1	1	1	6	2	3	2	5	5	10	4	8	7	8

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	114	91	99	60	51	26	29	9	11	4	2	3	6	2	0	2	4	2
RSウイルス感染症	8	7	7	5	2	8	6	2	0	0	7	14	1	11	7	9	19	24
咽頭結膜熱	50	70	84	114	138	104	120	81	68	96	99	63	75	85	65	107	64	63
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	413	366	407	322	400	289	354	307	384	296	217	224	202	90	187	161	165
感染性胃腸炎	651	950	997	1032	980	1133	1007	981	845	852	655	540	619	601	306	564	551	626
水痘	42	70	56	81	75	49	62	55	50	52	62	32	31	19	25	38	27	38
手足口病	220	244	393	543	426	685	887	872	900	1061	1431	1218	1333	1205	690	735	723	621
伝染性紅斑	35	53	79	92	49	85	91	100	122	143	110	91	88	62	27	60	53	54
突発性発しん	38	75	81	74	81	73	64	86	69	79	79	69	68	69	49	69	84	66
百日咳	4	1	0	1	0	5	5	5	5	2	1	5	1	7	1	5	9	2
ヘルパンギーナ	4	33	29	38	24	56	69	129	176	189	253	201	272	300	174	178	169	113
流行性耳下腺炎	33	37	50	39	33	63	35	45	59	63	36	60	51	38	31	50	55	37
急性出血性結膜炎	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1
流行性角結膜炎	22	22	32	37	48	51	40	47	43	32	26	42	28	35	19	41	42	85
細菌性髄膜炎 ^{*B}	1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0	1	4	1	3	0
マイコプラズマ肺炎	4	3	2	3	1	2	1	1	2	3	3	1	1	5	1	4	3	4
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	7	4	1	0	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	計
インフルエンザ ^{*A}	0	3	0	1	5	12	9	5	9	21	55	25	30	64	96	170	122	43699
RSウイルス感染症	49	55	51	59	88	81	73	133	125	163	272	316	398	517	469	479	258	5112
咽頭結膜熱	56	52	32	44	41	52	55	50	60	56	69	56	75	89	54	83	33	3402
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	193	223	127	176	181	195	195	218	319	335	324	232	312	345	321	294	129	13444
感染性胃腸炎	595	569	318	517	531	572	680	777	1006	1288	1390	1160	1678	1962	1860	1532	635	49328
水痘	33	44	39	49	48	57	71	49	76	50	113	84	127	91	91	99	67	3258
手足口病	618	536	225	233	154	93	60	46	32	22	10	9	17	10	6	12	14	18344
伝染性紅斑	63	46	25	34	42	36	45	49	71	69	77	55	65	67	68	84	20	2867
突発性発しん	61	58	32	60	66	49	54	58	52	53	55	45	45	46	44	38	23	3040
百日咳	7	4	2	2	3	3	2	2	3	7	3	1	0	1	0	0	0	132
ヘルパンギーナ	133	110	14	51	34	13	10	12	5	0	2	1	4	2	1	4	0	2883
流行性耳下腺炎	41	53	43	37	61	53	79	82	67	89	97	79	85	100	104	94	51	2624
急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	19
流行性角結膜炎	56	32	21	46	29	30	29	34	34	29	32	17	25	21	24	21	8	1473
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	18
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3	1	1	1	3	0	0	42
マイコプラズマ肺炎	3	4	4	3	7	3	5	11	12	10	12	6	11	12	5	9	4	191
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	3	2	94

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-2 週報対象疾病の週別定点あたり患者数(平成27年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	13.41	35.37	34.37	38.08	26.87	17.33	10.85	7.41	5.08	3.60	3.92	4.41	2.93	2.64	1.59	1.97	2.52	1.62
RSウイルス感染症	0.90	1.68	1.16	1.06	1.04	0.87	0.81	0.48	0.47	0.48	0.71	0.29	0.17	0.18	0.09	0.07	0.21	0.09
咽頭結膜熱	0.20	0.50	0.28	0.60	0.35	0.38	0.45	0.42	0.36	0.41	0.33	0.25	0.33	0.47	0.35	0.38	0.45	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	1.78	1.63	1.98	1.88	2.09	1.74	2.09	2.20	2.50	2.10	2.26	1.90	1.59	1.61	2.29	2.38	1.99
感染性胃腸炎	2.55	9.13	8.19	8.19	7.67	7.24	8.19	8.36	8.28	9.42	8.81	7.91	8.61	7.13	7.09	7.98	9.26	8.70
水痘	0.35	1.21	0.52	0.43	0.40	0.56	0.40	0.62	0.45	0.56	0.44	0.58	0.56	0.66	0.45	0.40	0.36	0.44
手足口病	0.04	0.30	0.28	0.38	0.65	0.58	0.63	0.59	0.61	0.78	0.81	1.12	0.98	1.02	0.97	1.78	2.24	2.27
伝染性紅斑	0.05	0.16	0.18	0.15	0.15	0.16	0.21	0.18	0.14	0.22	0.28	0.21	0.21	0.48	0.22	0.49	0.40	0.46
突発性発しん	0.04	0.38	0.33	0.39	0.33	0.42	0.40	0.33	0.52	0.41	0.48	0.38	0.38	0.42	0.54	0.54	0.54	0.40
百日咳	0.00	0.02	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.01	0.00	0.04	0.05	0.00	0.02	0.05	0.02
ヘルパンギーナ	0.01	0.02	0.06	0.02	0.05	0.07	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.03	0.05	0.09	0.10
流行性耳下腺炎	0.06	0.19	0.23	0.16	0.27	0.25	0.25	0.34	0.38	0.18	0.37	0.29	0.31	0.30	0.22	0.20	0.28	0.34
急性出血性結膜炎	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.03	0.03	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.09	0.49	0.34	0.57	0.46	0.31	0.11	0.29	0.31	0.40	0.54	0.43	0.63	0.74	0.89	0.54	0.60	0.63
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.14	0.00	0.00	0.07
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.21	0.14	0.00	0.07	0.07	0.14	0.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.14
マイコプラズマ肺炎	0.07	0.07	0.14	0.14	0.14	0.00	0.00	0.14	0.14	0.07	0.14	0.07	0.21	0.07	0.07	0.07	0.00	0.29
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.43	0.14	0.21	0.14	0.36	0.36	0.71	0.29	0.57	0.50	0.57

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	0.57	0.46	0.50	0.30	0.26	0.13	0.15	0.05	0.06	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01
RSウイルス感染症	0.06	0.05	0.05	0.04	0.02	0.06	0.05	0.02	0.00	0.00	0.05	0.11	0.01	0.09	0.05	0.07	0.15	0.19
咽頭結膜熱	0.39	0.54	0.65	0.89	1.08	0.81	0.94	0.63	0.53	0.74	0.77	0.49	0.58	0.66	0.50	0.83	0.50	0.49
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.99	3.20	2.84	3.18	2.52	3.13	2.26	2.74	2.38	2.98	2.29	1.68	1.74	1.57	0.70	1.45	1.25	1.28
感染性胃腸炎	5.05	7.36	7.73	8.06	7.66	8.85	7.87	7.60	6.55	6.60	5.08	4.19	4.80	4.66	2.37	4.37	4.27	4.85
水痘	0.33	0.54	0.43	0.63	0.59	0.38	0.48	0.43	0.39	0.40	0.48	0.25	0.24	0.15	0.19	0.29	0.21	0.29
手足口病	1.71	1.89	3.05	4.24	3.33	5.35	6.93	6.76	6.98	8.22	11.09	9.44	10.33	9.34	5.35	5.70	5.60	4.81
伝染性紅斑	0.27	0.41	0.61	0.72	0.38	0.66	0.71	0.78	0.95	1.11	0.85	0.71	0.68	0.48	0.21	0.47	0.41	0.42
突発性発しん	0.29	0.58	0.63	0.58	0.63	0.57	0.50	0.67	0.53	0.61	0.61	0.53	0.53	0.53	0.38	0.53	0.65	0.51
百日咳	0.03	0.01	0.00	0.01	0.00	0.04	0.04	0.04	0.04	0.02	0.01	0.04	0.01	0.05	0.01	0.04	0.07	0.02
ヘルパンギーナ	0.03	0.26	0.22	0.30	0.19	0.44	0.54	1.00	1.36	1.47	1.96	1.56	2.11	2.33	1.35	1.38	1.31	0.88
流行性耳下腺炎	0.26	0.29	0.39	0.30	0.26	0.49	0.27	0.35	0.46	0.49	0.28	0.47	0.40	0.29	0.24	0.39	0.43	0.29
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.06	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
流行性角結膜炎	0.63	0.63	0.91	1.06	1.37	1.46	1.14	1.34	1.23	0.91	0.74	1.20	0.80	1.00	0.54	1.17	1.20	2.43
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.14	0.07	0.14	0.00	0.00	0.08	0.29	0.07	0.21	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.29	0.21	0.14	0.21	0.07	0.14	0.07	0.07	0.14	0.21	0.21	0.07	0.07	0.38	0.07	0.29	0.21	0.29
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.50	0.29	0.07	0.00	0.21	0.21	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	週平均
インフルエンザ ^{*A}	0.00	0.02	0.00	0.01	0.03	0.06	0.05	0.03	0.05	0.11	0.28	0.13	0.15	0.32	0.48	0.85	0.61	4.15
RSウイルス感染症	0.38	0.43	0.40	0.46	0.68	0.63	0.57	1.03	0.97	1.26	2.11	2.45	3.09	4.01	3.64	3.71	2.00	0.75
咽頭結膜熱	0.43	0.40	0.25	0.34	0.32	0.40	0.43	0.39	0.47	0.43	0.53	0.43	0.58	0.69	0.42	0.64	0.26	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	1.73	0.98	1.36	1.40	1.51	1.51	1.69	2.47	2.60	2.51	1.80	2.42	2.67	2.49	2.28	1.00	1.97
感染性胃腸炎	4.61	4.41	2.47	4.01	4.12	4.43	5.27	6.02	7.80	9.98	10.78	8.99	13.01	15.21	14.42	11.88	4.92	7.23
水痘	0.26	0.34	0.30	0.38	0.37	0.44	0.55	0.38	0.59	0.39	0.88	0.65	0.98	0.71	0.71	0.77	0.52	0.48
手足口病	4.79	4.16	1.74	1.81	1.19	0.72	0.47	0.36	0.25	0.17	0.08	0.07	0.13	0.08	0.05	0.09	0.11	2.69
伝染性紅斑	0.49	0.36	0.19	0.26	0.33	0.28	0.35	0.38	0.55	0.53	0.60	0.43	0.50	0.52	0.53	0.65	0.16	0.42
突発性発しん	0.47	0.45	0.25	0.47	0.51	0.38	0.42	0.45	0.40	0.41	0.43	0.35	0.35	0.36	0.34	0.29	0.18	0.45
百日咳	0.05	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.05	0.02	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.02
ヘルパンギーナ	1.03	0.85	0.11	0.40	0.26	0.10	0.08	0.09	0.04	0.00	0.02	0.01	0.03	0.02	0.01	0.03	0.00	0.42
流行性耳下腺炎	0.32	0.41	0.33	0.29	0.47	0.41	0.61	0.64	0.52	0.69	0.75	0.61	0.66	0.78	0.81	0.73	0.40	0.38
急性出血性結膜炎	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
流行性角結膜炎	1.60	0.91	0.60	1.31	0.83	0.86	0.83	0.97	0.97	0.83	0.91	0.49	0.71	0.60	0.69	0.60	0.23	0.79
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.02	0.02
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.14	0.00	0.21	0.07	0.07	0.07	0.21	0.00	0.00	0.06
マイコプラズマ肺炎	0.21	0.29	0.29	0.21	0.50	0.21	0.36	0.79	0.86	0.71	0.86	0.43	0.79	0.86	0.36	0.64	0.29	0.26
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.21	0.14	0.13

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。*Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-3 月報対象疾病の月別患者数(平成27年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	56	82	68	66	76	81	80	76	72	78	73	72	880
性器ヘルペスウイルス感染症	26	18	20	12	28	29	34	27	28	28	21	32	303
尖圭コンジローマ	20	17	12	19	11	17	16	13	16	20	10	14	185
淋菌感染症	21	25	34	22	28	25	40	29	37	38	34	15	348
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32	31	31	32	30	48	37	25	41	35	37	29	408
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	5	12	5	13	7	4	5	5	2	2	2	69
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	4

付表2-4 月報対象疾病の月別定点あたり患者数(平成27年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月平均
性器クラミジア感染症	1.22	1.78	1.48	1.43	1.65	1.76	1.74	1.65	1.57	1.70	1.59	1.57	1.59
性器ヘルペスウイルス感染症	0.57	0.39	0.43	0.26	0.61	0.63	0.74	0.59	0.61	0.61	0.46	0.70	0.55
尖圭コンジローマ	0.43	0.37	0.26	0.41	0.24	0.37	0.35	0.28	0.35	0.43	0.22	0.30	0.34
淋菌感染症	0.46	0.54	0.74	0.48	0.61	0.54	0.87	0.63	0.80	0.83	0.74	0.33	0.63
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2.29	2.21	2.21	2.29	2.14	3.43	2.64	1.79	2.93	2.50	2.64	2.07	2.43
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.50	0.36	0.86	0.36	0.93	0.50	0.29	0.36	0.36	0.14	0.14	0.14	0.41
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.02

付表3-1 週報対象疾病の保健所別患者数(平成27年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ**A	9021	2400	6473	1751	387	2738	1394	1971	3170	4136
RSウイルス感染症	906	477	1003	324	38	152	176	207	367	551
咽頭結膜熱	606	203	507	294	24	186	92	104	133	649
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2702	705	3668	733	86	1351	259	546	556	674
感染性胃腸炎	11786	2876	7276	3359	536	2915	1211	2834	1525	4350
水痘	776	216	402	245	74	278	199	219	152	209
手足口病	3569	1200	2970	1323	256	1227	867	730	909	1798
伝染性紅斑	625	282	310	246	40	410	212	202	98	147
突発性発しん	662	193	453	203	36	169	151	114	228	280
百日咳	17	3	35	7	1	1	3	0	3	7
ヘルパンギーナ	670	81	509	208	39	100	154	71	149	90
流行性耳下腺炎	329	105	334	48	33	85	131	89	432	191
急性出血性結膜炎	9	1	0	0	0	4	0	2	1	0
流行性角結膜炎	223	538	103	31	2	89	68	25	203	54
細菌性髄膜炎*B	9	0	0	0	—	—	—	—	3	1
無菌性髄膜炎	20	5	0	0	—	—	—	—	7	1
マイコプラズマ肺炎	34	18	6	0	—	—	—	—	20	42
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	—	—	—	—	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	29	5	0	0	—	—	—	—	40	2

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
インフルエンザ**A	1697	2044	803	2050	1208	702	1754	43699
RSウイルス感染症	63	126	5	109	17	147	444	5112
咽頭結膜熱	37	71	41	88	37	77	253	3402
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	257	382	47	408	62	316	692	13444
感染性胃腸炎	1944	2240	551	2865	323	987	1750	49328
水痘	61	50	23	120	33	105	96	3258
手足口病	699	581	288	567	250	205	905	18344
伝染性紅斑	4	20	5	23	12	139	92	2867
突発性発しん	80	69	22	144	46	35	155	3040
百日咳	40	8	0	3	1	2	1	132
ヘルパンギーナ	99	92	24	394	62	53	88	2883
流行性耳下腺炎	70	176	1	218	105	263	14	2624
急性出血性結膜炎	0	—	0	0	—	—	2	19
流行性角結膜炎	74	—	21	24	—	—	18	1473
細菌性髄膜炎*B	0	1	—	0	0	2	2	18
無菌性髄膜炎	0	5	—	0	0	2	2	42
マイコプラズマ肺炎	5	8	—	12	4	42	0	191
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	—	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	8	—	0	0	9	1	94

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-2 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(平成27年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ ^{*A}	187.94	160.00	340.68	125.07	129.00	228.17	154.89	179.18	226.43	318.15
RSウイルス感染症	29.23	47.70	77.15	36.00	19.00	19.00	29.33	29.57	40.78	68.88
咽頭結膜熱	19.55	20.30	39.00	32.67	12.00	23.25	15.33	14.86	14.78	81.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87.16	70.50	282.15	81.44	43.00	168.88	43.17	78.00	61.78	84.25
感染性胃腸炎	380.19	287.60	559.69	373.22	268.00	364.38	201.83	404.86	169.44	543.75
水痘	25.03	21.60	30.92	27.22	37.00	34.75	33.17	31.29	16.89	26.13
手足口病	115.13	120.00	228.46	147.00	128.00	153.38	144.50	104.29	101.00	224.75
伝染性紅斑	20.16	28.20	23.85	27.33	20.00	51.25	35.33	28.86	10.89	18.38
突発性発しん	21.35	19.30	34.85	22.56	18.00	21.13	25.17	16.29	25.33	35.00
百日咳	0.55	0.30	2.69	0.78	0.50	0.13	0.50	0.00	0.33	0.88
ヘルパンギーナ	21.61	8.10	39.15	23.11	19.50	12.50	25.67	10.14	16.56	11.25
流行性耳下腺炎	10.61	10.50	25.69	5.33	16.50	10.63	21.83	12.71	48.00	23.88
急性出血性結膜炎	0.90	0.33	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	1.00	0.33	0.00
流行性角結膜炎	22.30	179.33	34.33	10.33	2.00	44.50	34.00	12.50	67.67	27.00
細菌性髄膜炎 ^{*B}	3.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	3.00	1.00
無菌性髄膜炎	6.67	5.00	0.00	0.00	—	—	—	—	7.00	1.00
マイコプラズマ肺炎	11.33	18.00	6.00	0.00	—	—	—	—	20.00	42.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	9.67	5.00	0.00	0.00	—	—	—	—	40.00	2.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
インフルエンザ ^{*A}	212.13	340.67	401.50	256.25	402.67	117.00	219.25	219.59
RSウイルス感染症	12.60	31.50	5.00	21.80	8.50	36.75	88.80	39.63
咽頭結膜熱	7.40	17.75	41.00	17.60	18.50	19.25	50.60	26.37
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51.40	95.50	47.00	81.60	31.00	79.00	138.40	104.22
感染性胃腸炎	388.80	560.00	551.00	573.00	161.50	246.75	350.00	382.39
水痘	12.20	12.50	23.00	24.00	16.50	26.25	19.20	25.26
手足口病	139.80	145.25	288.00	113.40	125.00	51.25	181.00	142.20
伝染性紅斑	0.80	5.00	5.00	4.60	6.00	34.75	18.40	22.22
突発性発しん	16.00	17.25	22.00	28.80	23.00	8.75	31.00	23.57
百日咳	8.00	2.00	0.00	0.60	0.50	0.50	0.20	1.02
ヘルパンギーナ	19.80	23.00	24.00	78.80	31.00	13.25	17.60	22.35
流行性耳下腺炎	14.00	44.00	1.00	43.60	52.50	65.75	2.80	20.34
急性出血性結膜炎	0.00	—	0.00	0.00	—	—	2.00	0.54
流行性角結膜炎	74.00	—	21.00	24.00	—	—	18.00	42.09
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	1.00	—	0.00	0.00	2.00	2.00	1.29
無菌性髄膜炎	0.00	5.00	—	0.00	0.00	2.00	2.00	3.00
マイコプラズマ肺炎	5.00	8.00	—	12.00	4.00	42.00	0.00	13.64
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1.00	0.00	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	8.00	—	0.00	0.00	9.00	1.00	6.71

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-3 月報対象疾病の保健所別患者数(平成27年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	206	124	167	73	12	8	46	33	88	28
性器ヘルペスウイルス感染症	82	25	27	0	0	3	65	25	8	10
尖圭コンジローマ	51	18	36	31	0	6	13	6	5	4
淋菌感染症	76	51	86	31	7	9	9	3	51	6
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	80	68	51	26	—	—	—	—	14	33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	42	1	0	2	—	—	—	—	2	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	0	0	—	—	—	—	0	0

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
性器クラミジア感染症	38	5	15	11	3	2	21	880
性器ヘルペスウイルス感染症	0	3	31	9	0	2	13	303
尖圭コンジローマ	0	1	3	6	0	2	3	185
淋菌感染症	6	0	1	1	2	2	7	348
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	26	13	—	34	5	26	32	408
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	10	—	0	0	0	11	69
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	—	2	0	0	1	4

付表3-4 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(平成27年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	17.17	31.00	41.75	24.33	12.00	4.00	15.33	16.50	22.00	9.33
性器ヘルペスウイルス感染症	6.83	6.25	6.75	0.00	0.00	1.50	21.67	12.50	2.00	3.33
尖圭コンジローマ	4.25	4.50	9.00	10.33	0.00	3.00	4.33	3.00	1.25	1.33
淋菌感染症	6.33	12.75	21.50	10.33	7.00	4.50	3.00	1.50	12.75	2.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	26.67	68.00	51.00	26.00	—	—	—	—	14.00	33.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	14.00	1.00	0.00	2.00	—	—	—	—	2.00	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	1.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
性器クラミジア感染症	38.00	5.00	15.00	11.00	3.00	2.00	10.50	19.13
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	3.00	31.00	9.00	0.00	2.00	6.50	6.59
尖圭コンジローマ	0.00	1.00	3.00	6.00	0.00	2.00	1.50	4.02
淋菌感染症	6.00	0.00	1.00	1.00	2.00	2.00	3.50	7.57
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	26.00	13.00	—	34.00	5.00	26.00	32.00	29.14
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.00	10.00	—	0.00	0.00	0.00	11.00	4.93
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	—	2.00	0.00	0.00	1.00	0.29

付表4-1 週報対象疾病の年齢階級別患者数(平成27年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	
インフルエンザ ^{*A}	149	539	1760	2017	2113	2483	2845	3121	2675	2555	2087	
RSウイルス感染症	782	977	1615	859	427	240	108	40	20	7	8	
咽頭結膜熱	24	166	730	490	459	416	342	207	155	116	71	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	167	685	985	1317	1706	1797	1642	1245	1041	762	
感染性胃腸炎	529	2698	7179	5676	4684	4531	3927	3029	2661	2226	1812	
水痘	35	101	286	303	348	518	453	427	298	180	111	
手足口病	125	1144	4683	3734	3020	2177	1428	774	457	254	163	
伝染性紅斑	1	44	160	216	333	432	496	383	285	225	129	
突発性発しん	79	1131	1486	252	57	18	5	4	2	2	2	
百日咳	12	8	6	5	12	8	8	7	4	3	12	
ヘルパンギーナ	37	248	797	527	419	323	191	132	63	42	25	
流行性耳下腺炎	1	4	78	192	261	421	395	335	293	193	154	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	
流行性角結膜炎	6	37	63	41	53	51	24	26	35	25	12	
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	
細菌性髄膜炎 ^{*B}	3	3	1	0	0	0	0	1	0	0	1	
無菌性髄膜炎	5	0	7	3	0	4	5	3	2	2	2	
マイコプラズマ肺炎	2	29	68	29	7	12	7	7	7	4	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	21	58	11	1	0	0	0	1	0	0	0	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計		
インフルエンザ ^{*A}	7567	1804	2236	2700	2585	1623	1178	845	817	43699		
	10-14歳	15-19歳	20歳以上									
RSウイルス感染症	16	1	12									5112
咽頭結膜熱	141	21	64									3402
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1407	111	564									13444
感染性胃腸炎	4475	1151	4750									49328
水痘	167	13	18									3258
手足口病	260	18	107									18344
伝染性紅斑	130	2	31									2867
突発性発しん	2	0	0									3040
百日咳	23	8	16									132
ヘルパンギーナ	50	4	25									2883
流行性耳下腺炎	225	20	52									2624
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上				
急性出血性結膜炎	1	0	3	4	3	1	3	1	19			
流行性角結膜炎	47	39	137	338	178	143	114	104	1473			
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上							
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	4	0	0	5	18						
無菌性髄膜炎	2	1	1	2	3	42						
マイコプラズマ肺炎	0	4	3	3	9	191						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	1	1						
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1	0	1	0	0	94						

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-2 週報対象疾病の年齢階級別患者割合(%) (平成27年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ ^{*A}	0.34	1.23	4.03	4.62	4.84	5.68	6.51	7.14	6.12	5.85	4.78
RSウイルス感染症	15.30	19.11	31.59	16.80	8.35	4.69	2.11	0.78	0.39	0.14	0.16
咽頭結膜熱	0.71	4.88	21.46	14.40	13.49	12.23	10.05	6.08	4.56	3.41	2.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.11	1.24	5.10	7.33	9.80	12.69	13.37	12.21	9.26	7.74	5.67
感染性胃腸炎	1.07	5.47	14.55	11.51	9.50	9.19	7.96	6.14	5.39	4.51	3.67
水痘	1.07	3.10	8.78	9.30	10.68	15.90	13.90	13.11	9.15	5.52	3.41
手足口病	0.68	6.24	25.53	20.36	16.46	11.87	7.78	4.22	2.49	1.38	0.89
伝染性紅斑	0.03	1.53	5.58	7.53	11.61	15.07	17.30	13.36	9.94	7.85	4.50
突発性発しん	2.60	37.20	48.88	8.29	1.88	0.59	0.16	0.13	0.07	0.07	0.07
百日咳	9.09	6.06	4.55	3.79	9.09	6.06	6.06	5.30	3.03	2.27	9.09
ヘルパンギーナ	1.28	8.60	27.64	18.28	14.53	11.20	6.63	4.58	2.19	1.46	0.87
流行性耳下腺炎	0.04	0.15	2.97	7.32	9.95	16.04	15.05	12.77	11.17	7.36	5.87
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	5.26	0.00	5.26	0.00	5.26	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.41	2.51	4.28	2.78	3.60	3.46	1.63	1.77	2.38	1.70	0.81
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 ^{*B}	16.67	16.67	5.56	0.00	0.00	0.00	0.00	5.56	0.00	0.00	5.56
無菌性髄膜炎	11.90	0.00	16.67	7.14	0.00	9.52	11.90	7.14	4.76	4.76	4.76
マイコプラズマ肺炎	1.05	15.18	35.60	15.18	3.66	6.28	3.66	3.66	3.66	2.09	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	22.34	61.70	11.70	1.06	0.00	0.00	0.00	1.06	0.00	0.00	0.00
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ ^{*A}	17.32	4.13	5.12	6.18	5.92	3.71	2.70	1.93	1.87	100.00	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	0.31	0.02	0.23							100.00	
咽頭結膜熱	4.14	0.62	1.88							100.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10.47	0.83	4.20							100.00	
感染性胃腸炎	9.07	2.33	9.63							100.00	
水痘	5.13	0.40	0.55							100.00	
手足口病	1.42	0.10	0.58							100.00	
伝染性紅斑	4.53	0.07	1.08							100.00	
突発性発しん	0.07	0.00	0.00							100.00	
百日咳	17.42	6.06	12.12							100.00	
ヘルパンギーナ	1.73	0.14	0.87							100.00	
流行性耳下腺炎	8.57	0.76	1.98							100.00	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	5.26	0.00	15.79	21.05	15.79	5.26	15.79	5.26		100.00	
流行性角結膜炎	3.19	2.65	9.30	22.95	12.08	9.71	7.74	7.06		100.00	
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	22.22	0.00	0.00	27.78					100.00	
無菌性髄膜炎	4.76	2.38	2.38	4.76	7.14					100.00	
マイコプラズマ肺炎	0.00	2.09	1.57	1.57	4.71					100.00	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	—	—	—	—	100.00					100.00	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1.06	0.00	1.06	0.00	0.00					100.00	

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-3 月報対象疾病の年齢階級別患者数(平成27年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	1	0	0	0	92	228	182	142	97
性器ヘルペスウイルス感染症	0	1	0	0	7	28	38	33	32
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	15	29	23	20	22
淋菌感染症	0	0	0	0	24	80	68	46	41
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11	5	5	1	1	4	5	4	4
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	5	0	2	0	1	0	1	2
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	54	39	16	12	12	4	1	880
性器ヘルペスウイルス感染症	33	30	29	19	14	16	23	303
尖圭コンジローマ	23	17	9	10	6	3	8	185
淋菌感染症	36	26	14	7	4	1	1	348
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	10	12	10	21	38	264	408
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	2	1	9	9	34	69
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	1	3	4

付表4-4 月報対象疾病の年齢階級別患者割合(%) (平成27年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0.11	0.00	0.00	0.00	10.45	25.91	20.68	16.14	11.02
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.33	0.00	0.00	2.31	9.24	12.54	10.89	10.56
尖圭コンジローマ	0.00	0.00	0.00	0.00	8.11	15.68	12.43	10.81	11.89
淋菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	6.90	22.99	19.54	13.22	11.78
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2.70	1.23	1.23	0.25	0.25	0.98	1.23	0.98	0.98
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2.90	7.25	0.00	2.90	0.00	1.45	0.00	1.45	2.90
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	6.14	4.43	1.82	1.36	1.36	0.45	0.11	100.00
性器ヘルペスウイルス感染症	10.89	9.90	9.57	6.27	4.62	5.28	7.59	100.00
尖圭コンジローマ	12.43	9.19	4.86	5.41	3.24	1.62	4.32	100.00
淋菌感染症	10.34	7.47	4.02	2.01	1.15	0.29	0.29	100.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3.19	2.45	2.94	2.45	5.15	9.31	64.71	100.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.45	0.00	2.90	1.45	13.04	13.04	49.28	100.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	25.00	75.00	100.00

付表5 月報対象疾病の性別患者数と割合(%) (平成27年)

疾 病 名	男 (%)	女 (%)	計 (%)
性器クラミジア感染症	488 (55.45)	392 (44.55)	880 (100.00)
性器ヘルペスウイルス感染症	81 (26.73)	222 (73.27)	303 (100.00)
尖圭コンジローマ	134 (72.43)	51 (27.57)	185 (100.00)
淋菌感染症	308 (88.51)	40 (11.49)	348 (100.00)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	263 (64.46)	145 (35.54)	408 (100.00)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	36 (52.17)	33 (47.83)	69 (100.00)
薬剤耐性緑膿菌感染症	1 (25.00)	3 (75.00)	4 (100.00)

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

第1 目的

感染症対策については、近年の新たな感染症の出現とともに、これまで制圧されてきた感染症の再興など感染症の脅威と感染症を取り巻く状況の変化に対応するため、健康危機管理の観点から、迅速かつ的確な対応、感染症の発生、拡大に備えた事前対応型の行政の構築などを柱として、平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が施行された。

感染症発生動向調査事業は、感染症に関する情報を収集及び分析し、地域住民や医師等医療関係者に対して感染症に関する情報を公表していくという、感染症の予防のための施策の最も基本的な事業である。

本事業は、兵庫県内の感染症の発生情報の正確な把握と分析、その情報を速やかに地域に公表することにより、地域住民の感染症に対する理解と協力を促すとともに、医療機関における適切な初期診療を推進し、予防接種、衛生教育など適切な予防措置などを講じることにより、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として実施する。

第2 法令等の遵守

本事業の実施にあたっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱（以下、「国要綱」という。）を遵守する。

第3 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施主体

実施主体は、兵庫県、姫路市、尼崎市及び西宮市とする。

第5 実施体制

1 兵庫県感染症情報センター及び兵庫県基幹地方感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターを兵庫県立健康生活科学研究所（以下、「県立研究所」という。）内に設置し、兵庫県における基幹感染症情報センターとしての役割を併せ持ち、神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市と連携のうえ兵庫県における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、兵庫県健康福祉部健康局疾病対策課（以下、「県疾病対策課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらをインターネット等により速やかに情報公開する。

なお、兵庫県感染症情報センターは公表する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、必要に応じて兵庫県健康づくり審議会感染症対策専門委員会の助言を求める。

2 指定届出機関（定点）

兵庫県（神戸市内を除く）は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、

疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第6 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 保健所

(ア) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」という。）第12条に基づく医師からの届出、または法第13条に基づく獣医師からの届出を受けた兵庫県健康福祉事務所、姫路市保健所、尼崎市保健所及び西宮市保健所（以下、「健康福祉事務所・保健所」という。）は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所・保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の確保について、協力依頼するものとする。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

イ 地方衛生研究所

(ア) 県立研究所、姫路市環境衛生研究所、尼崎市立衛生研究所又は西宮市保健所（以下、「地方衛生研究所」という。）は、検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を健康福祉事務所・保健所及び県疾病対策課に送付するとともに、健康福祉事務所・保健所を經由して診断した医師に通知する。

(イ) 検査のうち、姫路市環境衛生研究所、尼崎市立衛生研究所又は西宮市保健所において実施することが困難なものについては、必要に応じて県立研究所に検査を依頼する。

なお、県立研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所において検査を依頼する。

ウ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、関係機関に情報提供する。

エ 県疾病対策課

県疾病対策課は、健康福祉事務所・保健所から患者情報の入力があり次第、登録情報を確認し、報告処理を行う。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 保健所

(ア) 1 (1) アの(ア)の届出を受けた健康福祉事務所・保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所・保健所は、別表 1 の(63)、(65)、(66)、(68)、(69)、(70)、(73)、(76)または(78)から(84)までの患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の確保等について協力依頼するものとする。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

イ 地方衛生研究所

(ア) 地方衛生研究所は、検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を健康福祉事務所・保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、健康福祉事務所・保健所及び県疾病対策課に送付する。

(イ) 検査のうち、姫路市環境衛生研究所、尼崎市立衛生研究所又は西宮市保健所において実施することが困難なものについては、必要に応じて県立研究所に検査を依頼する。

なお、県立研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所において検査を依頼する。

ウ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、関係機関に情報提供する。

エ 県疾病対策課

県疾病対策課は、健康福祉事務所・保健所から患者情報の入力があり次第、登録情報を確認し、報告処理を行う。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

感染症法第 14 条に定める定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、兵庫県（神戸市を除く）は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ兵庫県全体（神戸市を除く）の感染症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の(85)から(95)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定すること。小児科定点の数は国要綱に基づき算定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の(96)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とすること。内科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の(97)及び(98)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の(99)から(102)に掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は国要綱に基づき算定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の(88)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(103)から(109)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

なお、基幹定点においては、別表1の(96)に掲げるインフルエンザのうち、入院患者も届出対象とする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、兵庫県は患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。なお、病原体定点の数等については、次の基準の範囲内で、県立研究所と協議して決定する。

(ア) アの（ア）により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(イ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(ウ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(エ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(オ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別途定める「病原体検査指針」により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、「病原体検査指針」に基づき、検体等を梱包のうえ県立研究所へ送付する。

ウ 健康福祉事務所・保健所

(ア) 健康福祉事務所・保健所は、原則として、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課に報告する。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況を提供し連携を図る。

エ 県立研究所

(ア) 県立研究所は、別記様式の検査票及び検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として病原体定点に通知するとともに、定点を管轄する健康福祉事務所・保健所及び県疾病対策課に送付する。

(イ) 県立研究所において実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(ウ) 県立研究所は、兵庫県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

オ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等とし

て公表される全国情報と併せて、インターネット等による公表のほか、県疾病対策課等関係機関に情報提供する。

カ 県疾病対策課

健康福祉事務所・保健所からの週報又は月報の入力状況を確認し、国への報告処理を行う。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 疑似症定点の選定

(ア) 第一号疑似症定点

対象感染症のうち、別表1の(112)に掲げるものについては、内科又は小児科を標榜する医療機関（主として内科又は小児科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点とする。なお、小児科定点又はインフルエンザ定点を兼ねることができる。

(イ) 第二号疑似症定点

対象感染症のうち、別表1の(113)に掲げるものについては、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として内科又は小児科医療を提供しているもの）を第二号疑似症定点とする。ただし、当面の間は第一号疑似症定点を第二号疑似症定点として選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、直ちに別記様式7-7に記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。

(ウ) (イ) の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 保健所

(ア) 健康福祉事務所・保健所は、疑似症定点における症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課に報告する。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に

発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての疑似症情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、関係機関に情報公開する。

エ 県疾病対策課

健康福祉事務所・保健所からの入力状況を確認する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、兵庫県の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査を構築していくこととする。
- (2) 本実施要領に定める事項以外の内容については、姫路市、尼崎市及び西宮市の意見を聞きながら、必要に応じて県健康福祉部健康局長が定めることとする。

6 神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市との関係

兵庫県は、本事業を実施するため神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市と協議し、連携を図る。

附 則

- 1 この実施要領は、平成 22 年 9 月 1 日から施行する。
- 2 兵庫県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱（昭和 62 年 1 月 1 日施行）は廃止する。
- 3 この実施要領の一部改正は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。
- 4 この実施要領の一部改正は、平成 23 年 9 月 5 日から施行する。
- 5 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 3 月 4 日から施行する。
- 6 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 7 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。
- 8 この実施要領の一部改正は、平成 26 年 7 月 26 日から施行する。
- 9 この実施要領の一部改正は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。
- 10 この実施要領の一部改正は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

別表1 兵庫県感染症発生動向調査事業の対象感染症

類型	疾患名	届出
一類	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱	全数
二類	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ（H5N1）、(14)鳥インフルエンザ（H7N9）	全数
三類	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス	全数
四類	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)A型肝炎、(23)エキノкокクス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサナル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、(34)腎症候性出血熱、(35)西部ウマ脳炎、(36)ダニ媒介脳炎、(37)炭疽、(38)チクングニア熱、(39)つつが虫病、(40)デング熱、(41)東部ウマ脳炎、(42)鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）、(43)ニパウイルス感染症、(44)日本紅斑熱、(45)日本脳炎、(46)ハンタウイルス肺症候群、(47)Bウイルス病、(48)鼻疽、(49)ブルセラ症、(50)ベネズエラウマ脳炎、(51)ヘンドラウイルス感染症、(52)発しんチフス、(53)ボツリヌス症、(54)マラリア、(55)野兔病、(56)ライム病、(57)リッサウイルス感染症、(58)リフトバレー熱、(59)類鼻疽、(60)レジオネラ症、(61)レプトスピラ症、(62)ロッキー山紅斑熱	全数
五類	(63)アメーバ赤痢、(64)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(65)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(66)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(67)クリプトスポリジウム症、(68)クロイツフェルト・ヤコブ病、(69)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(70)後天性免疫不全症候群、(71)ジアルジア症、(72)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(73)侵襲性髄膜炎菌感染症、(74)侵襲性肺炎球菌感染症、(75)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(76)先天性風しん症候群、(77)梅毒、(78)播種性クリプトコックス症、(79)破傷風、(80)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(81)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(82)風しん、(83)麻しん、(84)薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数
	(85)RSウイルス感染症、(86)咽頭結膜熱、(87)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(88)感染性胃腸炎、(89)水痘、(90)手足口病、(91)伝染性紅斑、(92)突発性発しん、(93)百日咳、(94)ヘルパンギーナ、(95)流行性耳下腺炎、(96)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(97)急性出血性結膜炎、(98)流行性角結膜炎、(99)性器クラミジア感染症、(100)性器ヘルペスウイルス感染症、(101)尖圭コンジローマ、(102)淋菌感染症、(103)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(104)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(105)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症	定点
疑似症	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (112)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）、(113)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）	定点
新型インフルエンザ等感染症	(110)新型インフルエンザ、(111)再興型インフルエンザ	全数

別表2 定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科定点	(85)RSウイルス感染症、(86)咽頭結膜熱、(87)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(88)感染性胃腸炎、(89)水痘、(90)手足口病、(91)伝染性紅斑、(92)突発性発しん、(93)百日咳、(94)ヘルパンギーナ、(95)流行性耳下腺炎	1週間(月曜日から日曜日)
インフルエンザ定点	(96)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	1週間(月曜日から日曜日)
眼科定点	(97)急性出血性結膜炎、(98)流行性角結膜炎	1週間(月曜日から日曜日)
性感染症定点	(99)性器クラミジア感染症、(100)性器ヘルペスウイルス感染症、(101)尖圭コンジローマ、(102)淋菌感染症	各月
基幹定点	(96)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。) ※ただし、入院患者に限定する。	1週間(月曜日から日曜日)
	(88)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(103)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(104)細菌性髄膜炎、(105)マイコプラズマ肺炎、(106)無菌性髄膜炎	
	(105)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症	各月